

山口県バドミントン協会
75周年記念誌

山口県バドミントン協会



目　次

ご挨拶 ……1
会　　長　平岡　英雄

創立75周年記念誌の発行によせて ……2
衆議院議員　林　芳正

山口県をバドミントン王国へ ……3
理　事　長　野村　義徳

祝　辞 ……4
山口県スポーツ協会会長　村岡　嗣政

グラビア ……5

沿革史 ……9
山口県バドミントン協会の歩み

市郡協会の歩み ……15
岩国市・柳井市・熊毛郡・光市・下松市
周南市・防府市・山口市・宇部市
山陽小野田市・下関市・長門市・萩市

専門部・連盟の歩み ……41
競技部・強化部・総務部・指導普及部
審判部・表彰部・レディース連盟
教職員連盟・実業団連盟・高体連
中体連・小学生連盟

寄　稿 ……81
佐々木辰博・末廣　秀樹・松原　康則
末廣　秀樹・齋藤　栞・佐藤雄吾
金廣　真季・橘　理恵・竹光　唯至
水津　愛美・柳澤　秀明・石井　伸子
松尾　真澄・藤田　進・吉川　応史
保木　卓朗・岩永　鈴・齋藤　夏
三井　裕・松本　克芳・三井　房子
濱﨑　孝司

記　録 ……107
国体選手・中国地区総合選手権・中国地区シニア選手権・表彰（日本バドミントン協会・山口県体育協会・山口県教育庁・山口県バドミントン協会）・県協会役員

あとがき ……130

■ご挨拶



山口県バドミントン協会
会　長　平岡英雄

この度、山口県バドミントン協会が創立75周年を迎えることができました。多くの会員の皆様と慶びを分かち合いたいと思います。

また、この間の歴代会長様をはじめ、多くの役員、会員の皆様の会の維持発展に向けたご努力に本誌をお借りして厚くお礼を申し上げます。

さて、近年における日本バドミントン界の活躍ぶりは目覚ましく、昨年のパリ五輪では女子ダブルス、混合ダブルスにおいて銅メダルを獲得するなど、世界の強豪国として数々の輝かしい成績を収めています。

そうした中、本県では、中学、高校、社会人と各カテゴリのトップ選手から構成される「チーム山口」による強化体制を整え、その代表格である柳井商工高校女子バドミントン部は、全国選抜、インターハイで現在まで9連覇を達成しているほか、2022年に宮崎友花選手、2023年には田口真彩選手が世界ジュニアチャンピオンに輝くなど、輝かしい成績を上げておられます。その柳井商工高校に引っ張られて、一昨年の「鹿児島国体」では、見事、初の皇后杯の獲得、天皇杯でも第2位の成績を収めることができましたことは記憶に新しく、着実に県内の競技力が向上していることの証ではないでしょうか。

この他、女子実業団チームACT SAIKYO も「山口県をバドミントン王国に！」のスローガンの下、多くの日本代表選手を輩出され、ホームゲームとして、2014年からS/Jリーグ山口大会を開催し、日本のトップクラスの選手たちのハイレベルなプレーを間近で観戦できる貴重な機会を設けていただくなど、県内のバドミントン普及活動に精力的に努めていただいております。

こうした成果は、永年、協会運営にご尽力をいただいて来られた多くのご関係の皆様のご尽力の賜物であり、改めて感謝を申し上げます。

最後になりますが、本協会が、次の80周年に向けて益々発展することを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

■ご 挨 拶　　－創立75周年記念誌の発行によせて－



山口県バドミントン協会
前会長 林　芳正
衆議院議員

山口県バドミントン協会が創立75周年を迎えられましたこと、併せて記念誌の発行にあたり心よりお祝い申し上げます。

さて、50周年記念から早25年が経過しますが、その間に平成から令和へと年号が変わり、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックやロシアによるウクライナ侵攻など、社会情勢も様々変転しました。令和2年（2020年）に開催予定となっていた東京オリンピック＆パラリンピックも、新型コロナウイルス感染症の蔓延により開催が一年延期され、一年後の大会も史上初の無観客での開催となりました。

この25年間に、山口県では平成23年の山口国体をはじめとし、全国高等学校選抜大会や全日本実業団選手権大会、全国中学校大会、全日本高等専門学校選手権大会等の全国大会の開催を引き受け、いずれも成功裡に終えることができました。関係者の皆様のご努力に対しまして、心より感謝申し上げます。

競技力向上の面では、山口国体に向けて、平成22年に、西京銀行に実業団チームACT SAIKYO（現株式会社ACT SAIKYO）を立ち上げていただき、男子の宇部興産バドミントンチーム（現UBE）とともに、「山口県をバドミントン王国へ」を合い言葉に、山口国体での上位入賞を目指して、県全体の競技力の向上を牽引していただきました。その山口国体では成年男子が見事3位入賞を果たし、これが山口県の競技レベルが飛躍的に向上していく契機となりました。

特に、ジュニア世代の強化が実を結び、令和3年3月の全国高等学校選抜大会で柳井商工女子バドミントン部が団体の部と個人シングルスの部で悲願の全国初制覇を成し遂げ、その夏の全国高等学校選手権大会（インターハイ）も制し、それ以降、令和7年3月の全国高等学校選抜大会まで全国大会連続9連覇の偉業を成し遂げています。優秀な指導者のもとに全国から選手も集まるようになり、今後ますます活躍が期待されます。そして、令和5年の特別国体（鹿児島）では、皇后杯獲得、天皇杯2位という輝かしい成績を上げるに至っています。まさに、バドミントン王国の実現に向けて、大きく飛躍した25年間でした。

昨夏のパリオリンピックには山口県出身の選手も出場しており、今後も県ゆかりの選手の大いなる活躍が期待されるところです。バドミントンが全ての世代の希望と可能性を育み、それぞれの健康と豊かな人生に寄与するだけでなく、世界の平和につながることを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

■ご挨拶　－山口県をバドミントン王国へ－



山口県バドミントン協会
理事長 野村義徳

山口県バドミントン協会は、令和7年（2015年）4月で創立75周年を迎えることができました。50周年からの25年間で、平成23年の山口国体をはじめとし、全国高校選抜大会や全日本実業団大会、全国中学校大会、全日本高等専門学校大会等の全国大会を成功裏に終え、大きな成長を遂げました。

これも、歴代の会長をはじめとし、県協会役員の方々そして会員の皆様の多大なるご支援とご協力の賜だと感謝しております。

まず、協会登録人数は令和元年に2,900人まで増加しましたが、新型コロナウィルス感染症の影響で令和2年に2,200人まで減少し、現在は2,600人まで回復している状況です。

また、これまでバドミントンの普及を目的に、県内を3地区に分けて地区大会等を開催してきましたが、参加者の激減により、上位大会への選考会と県総合（現山口県オープン）以外は廃止するに至りました。背景には各市郡協会がそれぞれの大会を工夫し、選手が出場する大会を選択できるようになったことがあげられます。県協会が普及や支援をする段階は終わったと捉えられます。

競技力向上の面では、山口国体での上位入賞を目指し、西京銀行に実業団の女子チームACT SAIKYOを立ち上げていただきました。このACT SAIKYOと男子の宇部興産バドミントンチーム（現UBE）を頂点とした、小・中学生から高校生、実業団へとつながる一貫指導システム（“チーム山口”と“チーム山口ジュニア”）を確立できました。これも山口国体に向けての山口県体育協会（現山口県スポーツ協会）様のお力添えのおかげと感謝しております。そして、令和3年3月の全国高校選抜大会で柳井商工女子バドミントン部が団体の部と個人シングルスの部で悲願の全国制覇を成し遂げました。同部はこれ以降、令和7年3月の全国高校選抜大会での団体優勝まで、全国大会9連覇という日本初の偉業を成し遂げるに至っています。現在、小・中学生の競技力も向上し、シニアやレディースの年代別の部でも全国や中国地区の舞台で、多くの選手が活躍しており、全国的に山口県の取組が注目されています。まさに、バドミントン王国に向けての歩みが、着実に進んでいます。

今後、中学校の部活動が地域移行するなど、スポーツへの関わり方に多様性が求められる時代が到来します。協会として、あらゆる世代の方々がバドミントンに親しみ健康な生活を送り、生涯の生きがいづくりにつながるよう尽力していきたいと思います。そして、バドミントンが世界の人々の交流と平和への架け橋となることを祈ります。

■祝　辞



公益財団法人
山口県スポーツ協会
会　長　村 岡 嗣 政

山口県バドミントン協会が創立75周年を迎えられますことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和25年4月に設立し、同年5月の第1回バドミントン大会開催を皮切りに、今日まで様々な取組によりバドミントンの普及・振興に尽力され、本県のスポーツ振興に大きく貢献してこられました。

とりわけ、昭和38年、平成23年の山口国体の運営をはじめ、全国教職員大会、全国高校総合体育大会、全国中学校大会、全日本実業団大会を誘致・開催され成功に導かれ、全国に誇れる素晴らしい組織力、運営能力を示していただきました。

さらには、昭和27年にスポーツ協会の前身である山口県体育協会に加盟するとともに指導者養成にも本格的に着手され、生涯スポーツとしての普及はもとより、競技力の向上にも尽力され、今日では「柳井商工高等学校女子部」の全国大会連覇や「ACT SAIKYO」のS/Jリーグでの大活躍により、バドミントン王国の地位を築き上げられました。

昨年の国民スポーツ大会でも天皇杯、皇后杯で連続入賞を果たしていただき、総合順位への継続的な貢献とともに県民の皆様に勇気と感動を与えていただいております。

また、今後は運動部活動の地域移行に向けて、子どもたちのスポーツ環境に課題がある中で、一貫指導体制の構築や環境整備・課題解消に向けた研修会の開催等、子どもたちのスポーツ機会の維持・創出に向け、これまでに培ってこられた知見を基に更なる役割を担っていただけると期待しております。

こうした様々な取組により、本県におけるバドミントンの普及・振興を担い、長きにわたり情熱を注いでこられた歴代会長をはじめ、関係の皆様のご尽力に心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

スポーツは、心身の健全な発達や健康・体力の保持増進のみならず、人々に大きな夢や感動を与え、一体感や活力を醸成し、人や地域の交流を促進するなど、多様な力を有しています。

山口県バドミントン協会が、この多様な力を有するスポーツの推進役として、これまでの活動とその成果を基にますます発展し、飛躍されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

第32回 全国高等学校選抜バドミントン大会

（平成16年３月25日～28日 維新百年記念公園アリーナ）



山口市民館での開会式

学校対抗戦に出場の柳井工業高校



第48回 全国中学校バドミントン選手権大会

（平成30年８月18日～21日 維新百年記念公園アリーナ）



開会式での選手宣誓

女子シングルスの試合



東日本大震災復興支援 第66回国民体育大会

（平成23年10月７日～10日 光市総合体育館）

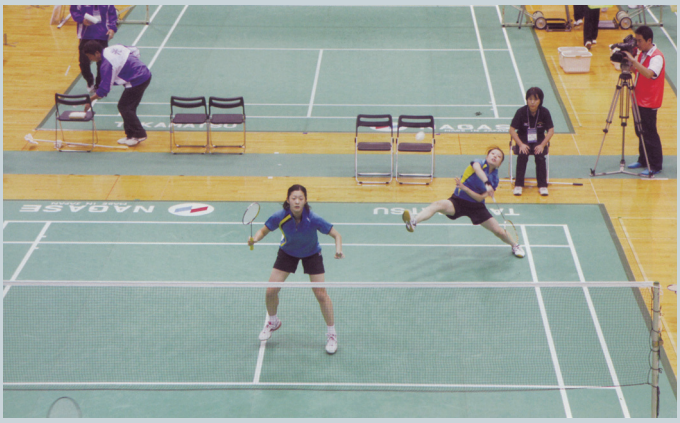




少年女子の試合



成年男子の試合



成年女子の試合





少年男子の試合



成年男子チーム3位入賞



少年男子チーム

第68回 全日本実業団バドミントン選手権大会

（平成30年７月４日～８日 キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター）



開会式





男子優勝チーム　トナミ運輸



女子優勝チーム　BIPROGY

第43回 全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

（令和元年８月31日～９月１日 キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター）



開会式



試合

バドミントンS/Jリーグ2024山口大会

（令和６年11月２日～３日 維新百年記念公園アリーナ）



声援を送るベンチのメンバー



ダブルスの試合



津守幸介先生 叙勲を祝う会（平成22年）

沿　革　史

山口県バドミントン協会の歩み

年度	会長・理事長 事務局長	協会組織	大会・講習会開催（普及） 合宿・強化練習（強化）	備考欄
昭和21年 (1946年)				・11月2日　日本バドミントン協会が設立される。
昭和22年 (1947年)		・小郡町大正下に友澤毅一郎が友沢運動具店を開店。運動用具の仕入れのため度々上京するうちにバドミントンと出会う。		
昭和23年 (1948年)		・友澤毅一郎によって紹介されたバドミントンに興味を持った有志によりバドミントンクラブが結成される。（小郡クラブの誕生） 田中萬亀太（山口県立女子短期大学教授）、友沢毅一郎（友沢運動具店）、佐久間貫弍（山口高校教諭）、藤井豊明（山口郵便局）、末広吉朗（小郡第一病院）らが中心メンバーになる。		・日本バドミントン協会は日本体育協会に加盟 ・第1回全日本総合選手権大会を開催
昭和24年 (1949年)				・第4回国民体育大会（東京都）よりバドミントン競技がオープン種目として採用される。
昭和25年 (1950年)	会長：長井秋穂 （山口市長） 理事長：友澤毅一郎	・4月1日　山口県バドミントン協会が設立される。	・5月　第1回バドミントン大会が小郡小学校で開催される。参加チームは玖珂郡より河山鉱山、下関市より大洋漁業、地元の小郡クラブ、山口県鴻城中学校の4チームが参加する。 ・7月　広田兼敏（日本バドミントン協会副会長）を講師に招いてバドミントンのルールやプレーについて講習会を開催する。	・第5回国民体育大会（愛知県）より正式種目として採用される。一般男子、一般女子、高校男子の3種別で都道府県対抗の形式で行われる。
昭和26年 (1951年)	理事長：佐久間寛弍		・5月　山口県バドミントン協会結成記念大会が小郡小学校で開催される。種目は男子単複、女子単複の4種目で高校生、大学生、一般が多数参加 ・9月　第6回広島国体バドミントン競技の山口県予選会が開催され、一般男子、一般女子、高校男子の3種別でそれぞれの単複優勝の3名が県代表として選出される。 ・10月　第6回広島国体へ3種別が参加 ・3月　岡山県バドミントン協会理事長の斉藤實氏を講師に招いて第1回山口県バドミントン指導者講習会が山口大学教育学部講堂で開催される。	
昭和27年 (1952年)	会長：野村幸祐 （山口県教育長） 理事長：田中萬亀太	・4月　山口県体育協会に加盟する。	・6月　第1回山口県バドミントン選手権大会が下関市で開催される。 ・7月　中国四国県対抗バドミントン大会が広島県で開催され山口県代表選手が出場する。 ・11月　山口県体育大会が、一般男女、高校男女、それぞれ個人戦の単複8種目で開催される。 ・1月　山口県バドミントン協会主催の指導者講習会が山口市で開催される。この年に宇部、萩、下関、美祢、防府、厚狭等でも指導者講習会が開催し普及にあたる。 ・2月　第1回山口県都市対抗バドミントン大会が山口市で開催される。	・国民体育大会に高校女子が加わり、全4種別となる。 ・山口県高等学校体育連盟に、バドミントン競技が加盟する。

■沿革史

年度	会長・理事長 事務局長	協会組織	大会・講習会開催（普及） 合宿・強化練習（強化）	備考欄
昭和28年 (1953年)			・5月　山口県バドミントン新人大会が山口女子短期大学で開催される。 ・8月　中国四国バドミントン選手権大会が大殿小学校講堂で開催される。	
昭和29年 (1954年)	会長：藤本菊二 （山口県教育長）			・国民体育大会の一般の部への大学生の参加が禁止となる。
昭和33年 (1958年)				・第1回国体中国ブロック予選会が開催される。
昭和34年 (1959年)			・6月　第9回全日本実業団大会に宇部興産と山陽パルプ岩国工場が初出場する。	・国民体育大会に教員男子が加わり、全5種別となる。
昭和35年 (1960年)			・1月　第11回西日本バドミントン選手権大会が宇部市俵田翁記念体育館で開催される。	・山口国体準備委員会が発足。委員に藤本菊二会長が就任する。 ・山口国体種目別候補地が決まる。バドミントン競技は下関市開催に決定。下関市では体育館の新設も決定
昭和36年 (1961年)			・9月　山口県体育大会の一般の部が個人戦形式から市郡対抗の団体戦形式に変更され開催される。 ・第1回山口県・福岡県対抗団体戦が開催される。	
昭和37年 (1962年)	会長：市河八五 （山口県議会議員） 理事長：植田博宣		・国民体育大会のプレ大会が下関市で開催される。 ・8月　山口国体の強化策の一つとして全九州合同合宿に一般男女・高校男女・教員男子の強化選手が参加する。	・国体中国ブロック大会で全種別優勝（地元岡山は不参加） ・岡山国体へ全種別で参加する。ブロック予選が始まって以来全種別での参加は初となる。
昭和38年 (1963年)			・6月、9月　山口国体の強化合宿を下関市で開催する。 ・10月　第18回国民体育大会が下関市で開催される。開始式で教員男子に出場の津守幸介選手が選手宣誓をする。天皇杯総合8位となる。	
昭和40年 (1965年)		・山口県バドミントン協会規約を制定する。		・岐阜国体において成年女子が初のベスト8入賞
昭和41年 (1966年)		・事務局を下関市彦島江ノ浦江向267－4　下関市立彦島中学校内に変更し、担当者として津守幸介、尾上　忠、渡辺恒輔（いずれも同中教諭）がこれに当たる。	・第1回山口県総合選手権大会が開催される。	
昭和44年 (1969年)		・広報部を設置。初代部長に渡辺忠が就任する。	・第1回中国実業団バドミントン選手権大会男子団体の部が倉吉市で宇部興産・三井造船・岡山市役所・国鉄後藤の4チームが参加して開催される。宇部興産は3位	
昭和45年 (1970年)	会長：林　義郎 （衆議院議員）		・5月　第2回中国実業団バドミントン選手権大会を下関市で開催する。女子団体の部が始めて設けられ、山陽国策パルプ岩国工場チームが優勝する。 ・8月　3級公認審判員認定講習会が開催される。	
昭和47年 (1972年)			・8月　第2回全国中学生バドミントン大会へ初出場	

年度	会長・理事長 事務局長	協会組織	大会・講習会開催（普及） 合宿・強化練習（強化）	備考欄
昭和48年 (1973年)		・6月　山口県バドミントン協会表彰規定を施行する。		
昭和49年 (1974年)		・委員会組織が発足する。指導委員会委員長　山県保夫、審判委員会委員長、津守幸介、広報委員会委員長、渡辺　忠、表彰委員会委員長、植田博宣がそれぞれ担当する。		
昭和50年 (1975年)				・中国実業団連盟が結成される。
昭和51年 (1976年)		・山口県バドミントン協会専門委員会規約を施行する。 ・県協会に副理事長1名、常務理事10名を設置する。 ・山口県実業団連盟が結成される。7チームが所属		
昭和52年 (1977年)			・8月　全日本教職員バドミントン選手権大会が下関市で開催される。	
昭和53年 (1978年)	事務局長：岸野保則			
昭和54年 (1979年)	理事長：津守幸介	副理事長を3名体制にする。 東部地区　渡辺　忠、中部地区　松村哲幸、西部地区　大野倍弘が就く。		・国民体育大会で教員男子の部が終了
昭和55年 (1980年)		・山口県教職員バドミントン連盟が結成される。	・8月　第1回県教職員バドミントン大会が小郡体育館にて開催される。	・国民体育大会は成年男女、少年男女の4種別に戻り、輪番で毎年1種別がブロック予選なしのフリー参加となった。 ・第1回中国中学校バドミントン選手権大会が岡山県で開催される。
昭和57年 (1982年)			・7月　全国私立短期大学体育大会バドミントン競技が山口市で開催される。	・日本バドミントン協会が財団法人となる。
昭和58年 (1983年)		・山口県バドミントン協会大会運営規定を施行する。		
昭和59年 (1984年)		・県協会に小学生担当理事を配置する。	・第1回山口県都市対抗バドミントン大会が開催される。 ・第1回山口県小学生バドミントン大会が開催される。	・第1回中国家庭婦人バドミントン大会が鳥取県で開催される。
昭和61年 (1986年)			・8月　全国高等学校総合体育大会バドミントン競技が下関市で開催される。開会式は下関市民会館、競技主会場は下関市体育館で、梅光短期大学、下関南高校、下関商業高校、下関中央工業高校合わせて32コートを使用する。その他に練習会場用に50コート以上必要となり近隣の小中学校、下関市立大学、公共の体育施設を使用する。	
昭和62年 (1987年)			・ヨネックスカップ大会、ヤマハカップ大会を新設する。	
昭和63年 (1988年)		・3月　山口県家庭婦人連盟が結成される。	・8月　第6回全日本家庭婦人バドミントン大会に本県選手が初参加する。	
平成元年 (1989年)	事務局長：植田博宣		・8月　第19回全国中学校バドミントン大会が山口市で開催される。	

■沿革史

年度	会長・理事長 事務局長	協会組織	大会・講習会開催（普及） 合宿・強化練習（強化）	備考欄
平成5年 (1993年)				・全国高専大会で宇部高専が男子団体で初優勝
平成8年 (1996年)	事務局長：久次　優	・山口県ジュニアバドミントン連盟が結成され、日本ジュニアバドミントン連盟に加盟する。		
平成9年 (1997年)	会長：林　芳正 （参議院議員） 理事長：三井　裕	・指導委員会を国体強化部と指導普及部に分割する。		
平成10年 (1998年)		・山口県バドミントン協会50年史を刊行する。記念の祝賀会を小郡で開催する。	・県総合選手権大会を東部地区・中部地区・西部地区の持ち回り開催とする。	
平成12年 (2000年)				・中体連主催大会で使用球が合成球から水鳥球に変更される。
平成14年 (2002年)		・山口県ジュニアバドミントン連盟を山口県小学生バドミントン連盟と改称する。		・やまぐち国体競技力向上対策本部が設立される。国体強化委員会発足
平成15年 (2003年)			・第2回日本バドミントンジュニアグランプリ2003に初参加（広島県） ・3月　第32回全国高校選抜大会が山口市で開催される。	
平成16年 (2004年)			・3月　日本協会主催指導者講習会を県セミナーパークで開催する。	
平成18年 (2006年)			・国体少年の部と成年の部の強化組織「チーム山口」を発足させる。 ・日本スポーツマスターズ2006に初参加（広島県）	
平成22年 (2010年)			・11月　国民体育大会のプレ大会として日本リーグ２部光大会が開催される。	・津守幸介副会長が瑞宝双光章を受ける。叙勲を祝う会を山口市にて開催する。
平成23年 (2011年)			・10月　第66回国民体育大会秋季大会が光市で開催される。	・全国高専大会で徳山高専が男女で団体初優勝（女子は非公式） ・日本バドミントン協会が公益財団法人となる。
平成24年 (2012年)	理事長：久次　優 事務局長：杉山　覚		・第6回全国シニアねんりんバドミントン交流大会を山口市で開催する。	・全国高専大会で徳山高専が男女で団体連覇（女子は非公式）
平成25年 (2013年)			・10月から11月にかけて公認指導員（現コーチ１）養成講習会（県内で初）が小郡町・防府市で開催される。19名が指導員として認定される。	
平成26年 (2014年)			・第1回西京銀行チャレンジカップジュニアオープン大会開催 ・小学生高学年と中学生の強化組織「チーム山口ジュニア」を発足させる。	・全国高専大会で徳山高専が男子が団体優勝
平成27年 (2015年)	理事長：野村義徳 事務局長：田内正彦	・山口県バドミントン協会役員定年規程を施行する。		
平成28年 (2016年)			・1月　筑波大学名誉教授阿部一佳先生をお迎えして、周南市「学び交流プラザ」でコーチングキャンプが開催される。ジュニアから社会人まで125名が参加。併せてコーチ1・2の資格更新も行った。 ・1月　第1回S/Jリーグ山口大会が山口市で開催される。 ・総合選手権にU16とU13の部を新設する。	

年度	会長・理事長 事務局長	協会組織	大会・講習会開催（普及） 合宿・強化練習（強化）	備考欄
平成29年 (2017年)			・各地区（東部、中部、西部）で開催していた地区大会を春季選手権、秋季選手権とする。 ・年3回開催していたレディース大会を年1回とする。	
平成30年 (2018年)			・6月　第68回全日本実業団バドミントン選手権大会が周南市・下松市で開催される。 ・8月　第48回全国中学校バドミントン大会が山口市で開催される。 ・各市郡協会主催大会の普及により県協会主催大会への参加者が減少したことから、春季選手権、夏季選手権、秋季選手権、レディース選手権、都市対抗、協会結成記念、山口オープンを廃止する。 ・総合選手権をオープン大会として実施することとする。 ・ランキング制度を廃止する。	
令和元年 (2019年)		・山口県バドミントン協会倫理規程を施行する。	・8月　第43回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会が周南市で開催される。	
令和2年 (2020年)				・柳井商工高等学校の女子が高校選抜大会で団体初優勝
令和3年 (2021年)				・柳井商工高等学校の女子が全国高校総体で団体初優勝と高校選抜大会で団体2連覇
令和4年 (2022年)			・12月　全国巡回バドミントン講習会（バドミントンキャラバン）が周南市「学び交流プラザ」で開催される。オリンピアンの前田美順さんの講演会等が行われ、約170名が参加。併せてコーチ1の資格更新も行った。	・柳井商工高等学校の女子が全国高校総体団体で2連覇と高校選抜大会で団体3連覇
令和5年 (2023年)	会長：平岡英雄			・柳井商工高等学校の女子が全国高校総体3連覇とかごしま特別国体で初優勝と高校選抜大会で団体4連覇 ・かごしま特別国体では成年女子の3位と併せて種目別順位で皇后杯獲得、天皇杯は2位となった。 ・全国高専大会で徳山高専女子が正式種目となって団体初優勝
令和6年 (2024年)			・総合選手権の大会名を山口県オープン選手権大会と変更する。	・柳井商工高等学校の女子が全国高校総体4連覇と国民スポーツ大会で2連覇と高校選抜大会で団体5連覇 ・佐賀国民スポーツ大会（今大会から大会名が国民体育大会から改称）少年女子優勝、成年女子は5位となり、種目別順位で皇后杯2位、天皇杯は4位となった。

市郡協会の歩み

‖岩国市バドミントン協会‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長 半田 藤五（昭和 25 年～）
２代会長 田中 重之（昭和 41 年～）
３代会長 西村 栄時（昭和 58 年～）
４代会長 川岡　智（平成 22 年～）
５代会長 宮岡 康臣（平成 29 年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長 中浜 浅吉（昭和 25 年～）
２代理事長 川岡　智（昭和 41 年～）
３代理事長 髙橋 和也（平成 12 年～）
４代理事長 松田 達也（平成 29 年～）

岩国市のバドミントン協会の発足は昭和 25 年頃であり、一企業の同好会員にて設立された。発足当時は、設備や道具も不足しており、練習は倉庫の空き部屋や屋外で行い、コートはチョークで書き、ネットは柱に括り付け、シャトルは補修したものを使用していた。

当時のバドミントン競技は新興スポーツであり、「女性がするもの」「羽根つき」などと言われており、男性からは敬遠されたものであった。

このため、初代会長及び理事長を中心に同好会員の拡大と選手の育成強化を図り、第 18 回の山口国体を目標に取り組んだ結果、一般の部で県選手権優勝者や国体選手を生み出せるようになった。

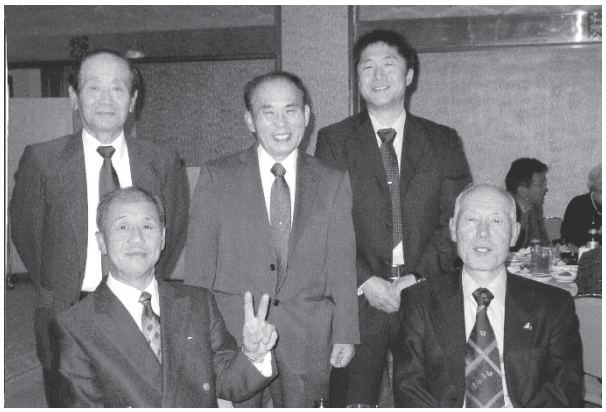
昭和 56 年５月に岩国市レディースバドミントン連盟が設立され、その後の選手育成が実り、現在では全国大会出場選手が多数輩出されている。また、令和３年４月より山口県レディースバドミントン連盟理事長に山中佐知子氏が就任し、県内のレディース連盟のために精力的に活動している。

役　員

会　長　宮岡　康臣
副会長　長藤　俊成
理事長　松田　達也



〈写真　松田理事長〉



〈写真　河野耕司氏、川岡智氏、髙橋和也氏
宮岡康臣氏、末岡通典氏〉

実業団関係では、県東部のレベルアップを図るために、興亜石油（現：ENEOS）、三井化学石油（現：三井化学）、山陽国策パルプ（現：日本製紙）の３社での合同練習会を計画実施し、各人の強化に努めてきた。



〈写真　全日本実業団選手権より日本製紙
左「長岡選手」　右「前田選手」〉

現在、岩国市から山口県実業団登録をしているのは、日本製紙のみであり、髙橋総監督のもと、松田監督及び日本製紙伏木工場より転勤して来た吉川選手、柳井商工高校出身の吉本選手、岩国総合高校出身の田中選手がチームの中心となり、活動を継続している。

レディースでは、山陽パルプ時代に女子部も存在し活躍した。その後昭和57年には「岩陽高校（現：岩国総合高校）にて活躍した髙橋選手（旧姓：藤中）・足立選手(旧姓：笠井)、高森高校で活躍していた村上選手（旧名：高橋）らが中心となり、今も活躍している。その他の女子選手は「市バドミントン教室」でバドミントンに出会い、バドミントンが好きになり、その後もバドミントンを続け、上達した人が過半数以上を占めている。ただ現在、岩国市の高校では高水高校にしかバドミントン部が無く、その高水高校も令和５年度をもって廃部となったことが非常に残念である。

現在の協会



〈後部右から２番目　松田理事長、前列右から３番目　神田ﾚﾃﾞｨｰｽ連盟理事長〉

活動・経過

現在、岩国市バドミントン協会では年５回の大会を行っており、特にダブルス３つで競う団体戦には岩国市以外からも多数のチームが参加して、活気溢れる大会となっている。

レディース連盟の活動も神田レディース連盟理事長を中心に精力的に行われ、年３回の大会と１回の講習会を行い、技術向上と親睦を深めている。また、初心者バドミントン教室とレディースバドミントン教室も実施し、競技の普及に努めている。

毎年８月には中国地区シニアバドミントン選手権大会山口県予選が岩国市総合体育館で行われており、暑い季節に熱いシニアの争いが繰り広げられ、山口県シニア選手の聖地となっている。

岩国市で行われるもうひとつの大きなイベントといえば５年に１度開催される国民体育大会中国ブロック大会（ミニ国体）である。この大会は山口県バドミントン協会と協力して中国５県の代表が全力プレーできるよう協会員が一丸となって大会準備・運営を行っている。

将来の展望

現在、岩国市でバドミントンを愛好している方の多くは社会人になって、競技としてのバドミントンに出会い、その魅力にはまった方々が大半である。そのため、年齢層が高くシニアの大会で活躍されている方が多い。また、前述したように岩国市の高校にはバドミントン部を有する学校がなく、ジュニア（中学生・小学生）のクラブも存在しないため、岩国市出身で幼い時からバドミントンに汗を流してきたという選手は存在しないのが現状である。

岩国市における競技人口の拡大を目指し、ジュニアからお年寄りまで生涯を通してバドミントンに関わることのできる環境作りをしていくことが大切であると考える。

理事長　　松田　達也

‖ 柳井市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長

三浦　捷治（昭和 59 年～）

２代会長

友末　太郎（平成 17 年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長

西本　修　（昭和 59 年～）

２代理事長

山下　新一（平成４年～）

活動報告（平成 10 年～令和６年）

柳井市のバドミントンは競技人口が平成 10 年ごろから増加と減少を繰り返しつつも市民に定着してきた感があった。しかし、少子高齢化もあいまって将来的に減少傾向に向かっていることは確実だった。一般を対象としたバドミントン教室や各種の大会等を創意工夫して実践してきたが、大きな効果は期待できそうになかった。将来を見据えて柳井地方に何が必要であるか、特色ある活動は何なのかを考えさせられる時期でもあった。そこで目を向けたのがジュニアの育成であった。柳井市には県内の小学生クラブをまとめる土壌があると思われた。柳井が県小学生大会の発祥の地であることを考えるとジュニア育成を最重要課題としてとらえることは必ず将来につながる投資であると考えられた。

柳井での特色ある育成方法は、まず他の地域から多くの選手を招聘し練習会を開催することだった。先にこちらから各地域の練習会に選手を派遣し、他地域との連携を深めていたので参加数の確保はできていた。地理的に見ても柳井市は、中国地区はもとより四国、九州さらに近畿までの広域圏の中心にあるといってもよい。

そこで、柳井だからできる柳井しかできない方式とは何かを検討し、広域の小・中学生を対象とした錬成会を企画し開催した。体育施設も限られていたため、少々不便さはあっても市内の各学校施設をお借りすることができた。運営もジュニアの保護者の献身的な協力で定着化している。たくさんの選手を集め、たくさんゲームができてレベルの向上をはかり、刺激を受けて喜んで帰っていただくという初期の目的は達成されたと自負している。錬成会は年３回程度実施しているが、毎回多数の選手にこの錬成会に参加していただき大盛会になっている。多いときは選手だけで３００人近く来柳していただいたこともある。子どもたちを「守り育てる、未来へつなぐ」をモットーに、この錬成会を特色ある年間事業として内容を練り直しつつ継続している。

この錬成会の特徴は、永年培ってきた次のような方法をとっている。まず 10 人程度の同レベルのグループに分け、総当たりのリーグ戦を行う。参加料もなるべく低く抑え、集中して多くの選手とゲームをすることができるように工夫している。１ゲームであるが全国大会と思い、集中してゲーム練習ができるようにしている。パソコンソフトを活用して最小人数での運営を行い、選手自身の審判で手作りの錬成会としている。また、小学生と中学生の接点をつくために、ＡクラスＢクラスは中学生２年生以下の参加も可としている。とてもよい刺激になっていると思う。中学校の理解もあり多数の中学生が参加してくれている。さらにもう一つの特色は、Ｄクラスをつくり初心者の刺激にもなるようにしていることである。

また、平成 17 年には地元の中学校にバドミントン部が新設され、地域を挙げてのバドミントンの環境作りができた。小学校で活動していた選手が中学校でも活躍し、専

門のＴ先生(現柳井商工女子バドミントン部監督)に指導を受けることができる、とても恵まれた環境ができたと言っても過言ではない。

こうしたバドミントン環境ができたからこそ、レベルの向上が図られ、県内や中国地区さらには全国区でもトップクラスのレベルとなった。そして何よりの魅力は、柳井商工バドミントン部との連携である。優秀な指導者のもとに優秀な選手が育ち、先輩が後輩を鍛える組織的、継続的に一体となった練習体制ができている。戦略やマナーの習得の場にもなっており、実業団の選手からの助言もいただき、全国大会での活躍に向けてのよい指導体制となっている。こうした指導は地域から愛される選手の育成にもつながっており、近郊市町や近県さらには全国からよりよい環境の場を求めて志望する選手が増えている。

言うまでもなく中学校と柳井商工バドミントン部の連携も強く、中・高連携が確立されている。

令和３年度には、小中連携と中高連携の取組が評価され柳井市報に特集として紹介された。各方面から関心の声が多く届き、柳井市から柳井市功労団体表彰として、柳井市ハドミントン協会も表彰を受けた。今後も小中、中高連携のもと一枚岩となって取り組んでいただき、一般のバドミントンにカムバックしてくれることを望んでいる。

柳井市協会として、こつこつと地に着いた味のある活動を進めて行きたいと考えている。

活動・経過

（下記の大会は現在中止となっている。）

① 柳井市バドミントン協会結成記念大会
② 柳井市バドミントン協会会長杯大会
③ 山口県東部地区バドミントン大会（廃止）
④ 柳井市グループ対抗バドミントン大会
⑤ 柳井市ビギナーズバドミントン大会
⑥ 柳井市近郊バドミントン大会
⑦ やないオープンバドミントン大会
⑧ 山崎杯記念小学生バドミントン大会
⑨ 日積バドミントン大会（後援大会）

（現在活動している事業）

① 広域小中学生バドミントン強化錬成会
② 山口県小学生バドミントン大会（近年は下関市開催）
③ 山口県体スポーツ大会スポーツ少年団の部
④ 山口県ジュニアバドミントン大会
⑤ ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会山口県予選会

将来の展望

柳井市バドミントン協会は、会員数約 50 名と小さな所帯であり、大会運営も厳しい状況であるが、特にジュニアの育成に取り組んでいることは柳井市の強みであると考えている。

今後はジュニア出身が地元に定着できるよう各方面に働きかけをしていきたい。そして、発足当時開催していた大会を復活できるよう、またバドミントン愛好者や市民から愛されるバドミントン大会を開催し魅力ある町づくりに寄与していきたい。

理事長　山下　新一

‖熊毛郡バドミントン協会‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉
初代会長　内山　勝憲（昭和 54 年～）
２代会長　白石　晃徳（昭和 62 年～）
３代会長　大江　正一（平成３年～）
４代会長　内山　博信（平成 11 年～）
５代会長　村田　泰己（平成 17 年～）

〈 歴代理事長 〉
初代理事長　戸村　進
（田布施町）　（昭和 54 年～）
２代理事長　大江　正一
（平生町）　（昭和 58 年～）
３代理事長　西元　満晴
（田布施町）　（昭和 60 年～）
４代理事長　山根　康夫
（大和町）　（昭和 62 年～平成２年）
以後、２年ごとに郡内５町を持ち回りで交代してきた。

熊毛郡は、かつて熊毛町＜現・周南市＞、大和町＜現・光市＞、田布施町、平生町、上関町の５町で組織されていた。それぞれの町に企業のバドミントン部で活躍する愛好者や学生経験者を中心とするバドミントン愛好者グループがつくられていた。1979 年（昭和 54 年）に熊毛郡バドミントン協会が組織された。５町それぞれにバドミントングループを統括するバドミントン連盟が組織され、各町のバドミントン連盟から数名の理事を選出し、郡協会を組織した。以後、平成 15 年（2003 年）熊毛町が周南市と、同 16 年（2004 年）大和町が光市とそれぞれ合併するまで５町で組織してきた。その後、上関町、平生町、田布施町の３町で組織運営してきたが、愛好者、後継者の減少等により、平成 23 年（2011 年）に上関町が、平成 30 年（2018 年）に平生町が組織から脱退し、田布施バドミントン連盟のみとなった。

役員


〈会長　村田泰己〉

会長　　村田　泰己
副会長　　山根　康夫
理事長　　松村　雄之

活動・経過

協会発足以来、各町バドミントン連盟の運営、活動は各町の自主的運用に一任し、各町のバドミントン連盟を主管とする「○○町バドミントン大会」等と称する大会を開催してきた。

熊毛町では昭和 59 年（1984 年）に「熊毛町バドミントン大会（７月開催）」を創設。

田布施町では、昭和 54 年(1979 年)に「田布施近郷大会」を、昭和 55 年（1980 年）に「熊毛郡協会結成バドミントン大会」を創設し、現在も継続している。

平生町では、体育館落成を記念して昭和 54 年 (1979 年)「第１回平生近郷バドミントン大会を創設。しかし、平成 21 年(2009 年)に終了した。

昭和 58 年（1983 年）には「平生レディースバドミントン大会」を創設させたが、平成 22 年（2010 年）に終了した。

協会としては郡内大会の調整、援助を行ってきた。また、熊毛郡では、毎年７月に「熊毛郡体育大会」（５町対抗戦）が開かれ、バドミントン競技もその一つであった（平成 16 年度で終了)。これにより各町でバドミン

トンに対する関心が深まったと思われる。

毎年開かれる「山口県体育大会バドミントンの部」や「都市対抗大会」（平成29年度を最後に終了）にも愛好者を中心にチームを編成し参加してきた。昭和59年（1974年）には、「県体年齢別の部」で、男女で初めて優勝という快挙を成し遂げた。昭和60年には女子が連覇した。以後、愛好者の減少、高齢化等に伴い、これらの大会へのチーム編成が難しくなる中、女子はチーム編成に積極的で出場に努力している。男子はチームを組むことが難しく参加から遠のいているのが現状である。

将来の展望

熊毛郡からバドミントンの灯を消さぬようにしたいと願っているが、愛好者の顔ぶれも変わらず現状維持が精一杯の状況である。組織も高齢化が目立ち、若い年齢層の愛好者の加入が望まれるところである。

会長　村田　泰己

‖ 光市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長　国本　重一（昭和 27 年～）
２代会長　北口　幸一（昭和 39 年～）
３代会長　吉規　哲平（昭和 43 年～）
４代会長　萩永　茂生（昭和 48 年～）
５代会長　吉規　哲平（昭和 50 年～）
６代会長　木田　寛治（昭和 52 年～）
７代会長　佐田　政郎（昭和 53 年～）
８代会長　橘和　　醇　（昭和 56 年～）
９代会長　武藤　光明（昭和 60 年～）
10 代会長　渡辺　省吾（昭和 61 年～）
11 代会長　村井　史郎（平成 10 年～）
12 代会長　吉谷　　武　（平成 20 年～）
13 代会長　森戸　芳史（平成 28 年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長　吉谷　　武　（昭和 39 年～）
２代理事長　作間　徳三（昭和 43 年～）
３代理事長　吉川　慶一（昭和 48 年～）
４代理事長　安部　文明（昭和 56 年～）
５代理事長　吉川　慶一（昭和 61 年～）
６代理事長　石永　裕記（平成 10 年～）

協会「連盟」の歩み

〈昭和 27 年〉

光市バドミントン連盟として、光市体育協会に加盟して、昭和 32 年には山口県行事で「バドミントン普及講習会」を引き受け、光市で開催した。第 1 回バドミントン市民大会を開催した。その後、連盟としての活動がなく、自然消滅の状態に至った。

〈昭和 39 年〉

武田薬品光工場を中心としたバドミントン愛好者により、光市バドミントン連盟として再発足した。第 1 回バドミントン選手権大会を開催した。山口県体育大会に選手派遣

（昭和 42 年）

周南四市バドミントン大会開催

〈昭和 49 年〉

光市内のバドミントンの普及と強化を目指し「バドミントン教室」を企画し、光井公民館で年間を通じて継続的に開催した。

〈昭和 51 年〉

年度末に光市バドミントン連盟の改組・拡大について協議し、これまでの武田薬品光工場バドミントン部を中心した連盟運営を抜本的に改組することを決議し、新日鐵光製鉄所の協力を得て、連盟規約の作成・役員・会員名簿・行事計画・予算案などの運営基盤を整備し、翌年度から新制度をスタートさせることとした。

〈昭和 52 年〉

連盟の新制度発足にともない、光市内全域にわたるバドミントンの普及を図るため、光市広報や周南日報で愛好者の連盟加入を呼び掛けた。光市スポーツ館を会場にして、連盟主催による定期的な練習会を年間 13 回実施した。その他、市内の公民館ブロックごとに毎週行われていた活動を吸収し、継続した練習スケジュールを組み、普及と拡大に努めた。一方、競技力の向上を目指して、定期的な大会開催や対外試合への積極的参加に力を注いだ。年を重ねるごとに充実・定着し、現在に至る。

〈昭和 53 年〉

前年の連盟努力が実を結び、加入会員数がほぼ倍増。活動グループも増え、活動計画に新規グループの活動を追加すると共に、加入者レベルに合った指導者確保に努めた。加えて、指導者不足を補うために、市内在住で他市勤務の優秀な選手にも推進員として指導・協力を依頼し、普及に努めた。

〈昭和 54 年〉

対外試合における光市の成績不振を打開するために、強化練習会を計画開催し、強化対策にも乗り出した。

（昭和 58 年）

山口県家庭婦人バドミントン大会開催

〈昭和 60 年〉

加入者数が 460 名に達し、市内バドミントン普及・拡充の努力が実を結び市内大会が次々に新設・開催されるようになり、連盟活動が軌道に乗り充実してきた。

〈平成２年〉

加入者数が 480 名に達し、活動の場所を少しでも多く確保して技術の維持・向上を図るため、２月～３月のオフシーズンの毎週土曜日に光市バドミントン教室を光市スポーツ館にて実施し、平成４年まで継続した。

〈平成５年〉

光市バドミントン教室の会場を光市総合体育館に移動し、継続した。

〈平成 6 年〉

光市総合体育館にて毎週水曜日に「バドミントンの日」設定し、初心者が参加者しやすい場所の提供をこころみた。午前２チーム、午後５チームが参加し活動を継続している。

〈平成 13 年〉

第 66 回国民体育大会山口県準備委員会の設立総会及び第１回総会が開催された。

〈平成 14 年〉

光市が県の競技開催希望調査において第１希望セーリング、第２希望バドミントンとして提出した。

〈平成 15 年〉

県準備委員会常任委員会が開催され、光市実施予定競技にバドミントンが選定された。（第１次選定）

翌年にはセーリングが選定された。（第２次選定）

〈平成 17 年〉

第 66 回国民体育大会でバドミントン競技の光市開催の決定を受けて、県協会と共に第 60 回晴れの国おかやま国体の視察を実施した。光市ロータリークラブから競技力向上に協力をしたいとの打診を受け、小学生大会開催の調印式を行い、第 1 回光ロータリー杯小学生バドミントン大会を開催した。また、国体役員育成のため第 48 回中国地区総合バドミントン選手権大会を開催した。

〈平成 19 年〉

第 66 回国民体育大会光市準備委員会設立総会（第１回総会）が開催された。
光市バドミントン連盟内で国体視察のための特別会計予算が決定された。第 62 回秋田わか杉国体（秋田県美郷町）視察を実施した。

〈平成 20 年〉

第 66 回国民体育大会光市準備委員会総会（第２回総会）、おいでませ!山口国体光市実行委員会設立総会が開催された。光市バドミントン連盟の名称変更を行い光市バドミントン協会とした。 国民体育大会中国ブロック大会バドミントン競技を光市総合体育館にて開催。第 63 回チャレンジ!おおいた国体（大分県日田市）視察を実施した。

〈平成 21 年〉

おいでませ!山口国体光市実行委員会（第２回総会）が開催された。第 64 回トキめき新潟国体（新潟県五泉市） 視察を実施した。役員養成のため、12 月 13 日にバドミントン日本リーグ 2009（１部リーグ）を光市総合体育館にて開催した。

〈平成 22 年〉

おいでませ!山口国体光市実行委員会（第３回総会）が開催された。第 65 回ゆめ半島千葉国体（千葉県野田市） 視察を実施した。おいでませ!山口国体リハーサル大会として、「バドミントン日本リーグ 2010　２部ひかり大会」を 11 月 21 日～23 日光市総合体育館にて開催した。12 月 11 日～12 日に千葉県協会との引継ぎが実施された。

〈平成 23 年〉

３月　東北地方太平洋沖地震発生

おいでませ!山口国体光市実行委員会（第４回総会）が開催された。10 月 7 ～10 日に、『東日本大震災復興支援 第 66 回国民体育大会　おいでませ!山口国体』が光市総合体育館にて開催された。大会２日目には、常陸

宮同妃両殿下がバドミントン競技をご観覧された。山口県選手団成人男子が３位入賞。光市出身の松尾光平選手が活躍した。観覧者数は開催４日間で計 5500 人だった。東京都との引継ぎが実施された。

〈平成 24 年〉

おいでませ!山口国体光市実行委員会（第４回総会）が開催された。国体競技報告・収支決算報告と山口国体光市実行委員会の解散審議・決議がなされた。

〈平成 25 年〉

第 68 回国民体育大会中国ブロック大会を開催した。県内バドミントン競技力向上のために、光市ロータリークラブからいただく小学生大会の援助協力が第 7 回大会で終了のため、第１回光杯小学生大会として実施することとした。市内バドミントン登録クラブ減少のため市内大会を全て近郷大会にした。

〈令和元年〉

第 62 回中国地区総合バドミントン選手権大会を開催する。2019 S/J リーグ（日本リーグ）を開催した。

〈令和２年〉

コロナ感染症が流行、市内外の全大会を中止した。

〈令和３年〉

市内外の大会で除菌などの感染防止対策を行い、大会を開催した。

〈令和４年〉

市内登録の減少に歯止めが利かないため市内大会を全てオープン大会にした。コロナ感染症もインフルエンザと同じ第５類となり大会を開催しやすくなった。第 54 回中国地区実業団バドミントン選手権大会を開催した。

〈令和６年〉

第 67 回中国地区総合バドミントン選手権大会を開催した。

平成６年度　役員

会　長	森戸	芳史
副会長	星野	洋子
理事長	石永	裕記
副理事長	久次	由貴子
	逸見	美千代
顧　問	水﨑	敏明
会　計	岡本	美由紀
理　事	木本	秀男
	山下	純亜
	奥屋	幸子
会計監査	谷口	政治

加入チーム数　５団体　登録者　150 名

活動・経過（大会・成績など・・・）

平成 11 年　第 19 回光市長杯争奪市民バドミントン大会　光市総合体育館　121 名

男子Ａ級ダブルス

優勝　通山　光夫・河本　泰(MST)

２位　森永　雄二・三好　達夫(ASC.MST)

男子Ｂ級ダブルス

優勝　田村　耕一・小田　和典(ASC)

２位　松尾　晃・井上　正明(ASC)

男子Ａ級シングルス

優勝　竹内　雅昭(ASC)

２位　山下　雄二(MST)

男子Ｂ級シングルス

優勝　水﨑　敏明(室積バド)

２位　西本　和之(ASC)

女子Ａ級ダブルス

優勝　津江田　弘美・三好　初枝(MST)

２位　木村　美智子・加納　駒美子(室積)

女子Ｂ級ダブルス

優勝　青木　亜子・松田　登志子(チェリーズ)

２位　宝迫　キヌ子・森永　寿美子(光レディース)

女子Ａ級シングルス

優勝　松尾　杏澄(浅江中)

２位　末長　夏樹(熊毛北高)

女子Ｂ級シングルス

優勝　宝迫　キヌ子(光レディース)

２位　光田　薫(浅江中)

平成21年　第9回光市バドミントン協会結成記念大会　光市総合体育館　104名

男子Ａ級ダブルス

優勝　藤次　友昭・江後　孝寛(MST)

２位　鬼武　雅人・森永　雄二(MST)

男子Ｂ級ダブルス

優勝　津江田　翔捻・坂本　将士(MST)

２位　重岩　克洋・中村　弘(塩田バド)

女子Ａ級ダブルス

優勝　水津　ありさ・森永　理恵奈(島田中)

２位　津江田　弘美・野村　菜奈(MST)

女子Ｂ球ダブルス

優勝　宮本　良子・国木　優子(光レディース)

２位　川津　実姫・原田　智世(島田中・室積中)

女子Ｃ級

優勝　豊田　莉子・森田　ほのか(浅江中)

２位　小林　由紀・園田　花菜美(浅江中)

男子Ａ級シングルス

優勝　森永　雄二(MST)

２位　藤次　友昭(MST)

男子Ｂ級シングルス

優勝　石永　拓也(島田中)

２位　西村　真矢(島田中)

男子Ｃ級シングルス

優勝　神徳　徹(大和中OB)

２位　久次　侑也(浅江中)

女子Ｂ級シングルス

優勝　原田　智世(室積中)

２位　徳本　香織(浅江中)

女子Ｃ級シングルス

優勝　小田　真由(浅江中)

２位　小林　友紀(浅江中)

令和4年　第12回光市新春オープンバドミントン大会　光市総合体育館　290名

男子Ａ級ダブルス

優勝　田中　悠貴・吉川　応史(日本製紙)

２位　森永　大介・白井　朋希(東ソー・周南市役所)

男子Ｂ級ダブルス

優勝　山﨑　敦司・小田　達也(東ソー・MST)

２位　村田　章博・杉山　健一(日立笠戸)

男子Ｃ級ダブルス

優勝　吉川　稜馬・森永　陽斗(柳井JBC・Beekids)

２位　水摩　颯介・沖堀　史(柳井中)

男子Ｄ級ダブルス

優勝　吉村　晄・秋友　悠成(Beekids・新南陽ジュニア)

２位　重冨　陽向・竹谷　颯斗(Beekids)

女子Ａ級ダブルス

優勝　長廣　貴美子・森永　杏澄(宇部シャトルズ・HSC)

２位　田中　琴裕幸・河村　美咲(下松ミラクル)

女子Ｂ級ダブルス

優勝　井上　美穂・伊藤　夢莉(柳井中)

２位　藤村　友梨乃・藤村　美香(徳山商工・下松ミラクル)

女子Ｃ級ダブルス

優勝　大谷　紗花・有井　音葵(新南陽ジュニア)

２位　木下　可菜・管　葵衣(末武中)

女子Ｄ級ダブルス

優勝　浅田　望結・渡邉　梨音奈(花岡ジュニア)

２位　潮田　果歩・中村　麗希愛(花岡ジュニア)

混合Ａ級ダブルス

優勝　吉川　応史・森永　杏澄(日本製紙・HSC)

２位　森永　大介・長廣　貴美子(東ソー・宇部シャトルズ)

混合Ｂ級ダブルス

優勝　磯村　陸斗・本田　花笑(徳山高校)

２位　植野　敏行・窪井　由美子(トクヤマ・新南陽レインボー)

混合Ｃ級ダブルス

優勝　﨑　二郎・西村　美紀(ＷＩＮＧ)

２位　廣林　雅人・河野　夏希(徳山高校)

将来の展望

市内各団体高齢化・少子化に伴い、バドミントン人口の減少が続く中、市内新団体設立や中学生クラブの地域クラブへの移行にともない、新しい指導者の育成が急がれる。

理事長 石永 裕記

‖ 下松市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

下松市バドミントン協会は、昭和 36 年秋、下松市民体育館の完成により練習の場が確保され、バドミントン競技が盛んとなったことから、当時の日本石油精製、東洋鋼鈑、下松市役所を中心に協会結成の機運が高まり、昭和 37 年 7 月 8 日に創設された。

市民に競技が定着する中、女子の競技力向上を課題と捉え、関係者の尽力により昭和 40 年代以降、当時の世界女王 湯木博恵氏を招聘し、指導を仰いだ。昭和 54 年には湯木杯を創設し、県外の強豪選手も出場するなど、女子の競技力の向上に寄与する大会へと成長した。

時代を経て、平成 23 年の山口国体を契機として、平成 22 年に下松スポーツ公園体育館が完成。同年、華陵高等学校女子バドミントン部が強化指定校に選定されるとともに、西京銀行を核とした県内初の女子実業団チームである NPO 法人 ACT SAIKYO（棟居秀行監督）が市内ムネスエスポーツ内に設立された。これを転機として、平成 29 年には、ACT SAIKYO と日本ユニシス女子(現 BIPROGY)との親善試合、平成 30 年には、第 68 回全日本実業団バドミントン選手権大会（周南市・下松市)、令和 3 年には、再春館製薬所が出場した S/J リーグ WEST などが開催された。このように協会として国内トップレベルの大会や行事の運営に携わったことにより、組織力のさらなる強化が図られた。

こうした組織力の評価から、2020 東京五輪では、下松市がベトナムのホストタウンに登録され、ACT SAIKYO と連携し、ベトナム女子バドミントン選手グエン･トゥイ･リン選手の事前合宿等の受け入れに協力し、国際的な視野も広がった。

現在、男子 5 団体、女子 6 団体のほか、個人が多数協会に登録しているが、この四半世紀は、レディース部を中心とした女性陣が協会の原動力であり、大きな財産になっている。

〈 歴代会長 〉昭和 37 年～令和 6 年度

初代会長　渡辺　浮人　昭和 37 年～
2 代会長　岩崎　重男　昭和 40 年～
3 代会長　椎山　昭二　昭和 43 年～
4 代会長　河村　尚男　平成 14 年～
5 代会長　武内　恵弐　平成 16 年～
6 代会長　国井　益雄　平成 26 年～

役員

令和 6 年度下松市バドミントン協会役員

役職名	氏　名	所　属
会長	国井　益雄	
副会長	河村　則彦	日立笠戸
顧問	大段　宏	東洋鋼鈑
理事長	豊島　洋一	花岡ＦＢＣ
副理事長	伊藤　義雄	下松クラブ
審判部長	吉村　剛	東洋鋼鈑
審判部副部長	利行　謙一	下松市役所
審判部副部長	井内　京子	スピリッツ
レディース部長	成田美智子	エンジェル
競技部長	角　和浩	下松市役所
競技部副部長	山下　恭子	フレンズ
指導部長	棟居　秀行	ACT SAIKYO
指導部副部長	山平　直輝	下松市役所
常任理事	松本　祐里	ミラクル
常任理事	山本　美幸	エンジェル
理事	角　和浩	下松市役所
理事	武内　敏寿	下松クラブ
理事	兼行　高史	花岡ＦＢＣ
理事	笹原　祐一	東洋鋼鈑
理事	梅津　侑祐	日立笠戸
理事	山中裕季子	下松同好会
理事	有吉真由美	ショットレディース
理事	武居　静枝	中村Ｂ．Ｃ．
理事	倉本　恵子	下松エンジェル
理事	利行　誓子	スピリッツ
理事	山下　恭子	フレンズ
理事	中村　麻裕	ACT SAIKYO
理事	福本　翔太	華陵高等学校
理事	廣中　陽子	中体連（末武中）
理事	田坂愛希子	中体連（久保中）
理事	兼行　高史	花岡ジュニア（小中）
理事	羽山　侑二	下松ジュニア（小中）
理事	竹光　章浩	ADVENTURE ATTESA
監事	中原　繁	
監事	三奈木正紀	
会計	三奈木洋子	スピリッツ
事務局長	松友　貴弘	下松市役所

活動のあゆみ

○市内大会

湯木杯争奪大会、下松オープン小学生大会、協会結成記念大会、市長杯争奪大会（団体戦）、下松オープン大会、県中学生大会、会長杯争奪大会（団体戦）、レッドソン杯（団体戦）、市総合選手権大会

○主な成績（平成10年以降）

平成12年　下松ミラクル（長峰恵子監督）が全日本レディースバドミントン選手権で３位入賞

平成15年　河村文子が全日本シニアバドミントン選手権大会 50 女子単で３位入賞

平成16年　河村則彦（オービーズ）が第２回世界シニアバドミントン40・45複で準優勝

平成22年　華陵高校女子バドミントン部が全国高校総体初出場

平成26年　桐田和樹（久保中出身）が全国高校総体男子単で３位入賞

平成27年　ACT SAIKYO 日本リーグ１部（S/J リーグ）昇格

令和３年　新見桃芭（末武中出身）、相本珠杏（下松中出身）が所属する柳井商工高校が全国高等学校選抜バドミントン大会団体戦で初優勝。

下松ジュニアが若葉カップ全国小学生バドミントン大会女子団体で３位入賞

新見桃芭、相本珠杏が所属する柳井商工高校が全国高校総体バドミントン団体戦で初優勝

令和４年　新見桃芭、相本珠杏が所属する柳井商工高校が全国高等学校選抜バドミントン大会２連覇。新見桃芭は女子複で準優勝。

田中琴裕幸・河村美咲ペアが全日本レディースバドミントン競技大会２部Ａで優勝。

今後の展望

ジュニア、中学生は、競技人口が増加傾向にあるが、一般、レディースは各団体とも減少傾向にある。今後、ホームチームであるACT SAIKYOを中心としたバドミントンクリニックなどにより競技人口の裾野を広げながら、全国や世界で活躍する選手の育成に努めたい。また、トップ選手を招聘するなど、下松市のわがまちスポーツである「バドミントン」を通じて、健康増進や地域の活性化に寄与していきたい。

理事長　豊島　洋一

‖ 周南市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

周南市バドミントン協会は、昭和 24 年頃に浜岡静（当時徳山曹達社員）によって徳山曹達（現トクヤマ）にバドミントンが紹介されたのを機会に、26 年には徳山曹達バドミントン同好会、徳山鉄板（現日鉄ステンレス）バドミントン部、日本精蝋バドミントンクラブが設立されるとともに発足した。

その後徳山市では、昭和 29 年に徳山高校バドミントン部、41 年に出光興産バドミントン部、44 年に徳山工業高校バドミントン部（現徳山商工）が設立され、さらに学校や企業及び各地区に多くの同好会やクラブが誕生した。2003 年には徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の２市２町が合併し周南市が誕生、当協会も周南市バドミントン協会となり現在に至っている。

令和６年２月現在の協会登録団体数は 27 団体、登録人数は 500 人をこえている。

〈 歴代会長 〉※所属は就任当時

初代会長　坂井　　猛（徳山鉄板）
２代会長　高原　正光（徳山曹達）
３代会長　有馬　　晋（徳山曹達）
４代会長　斎藤　敦彦（徳山曹達）
５代会長　浜岡　　静（徳山曹達）
６代会長　山本　　昴（出光興産）
７代会長　生田　喜夫（出光興産）
８代会長　福田　修三（山口放送）
９代会長　田村　弘實（トクヤマ）
10 代会長　澤田　恭治（関　　門）
11 代会長　内山　正也（ﾎﾜｲﾄﾛｰｽﾞ）

〈 歴代理事長 〉

品田　一越（昭和 40 年～46 年、48 年）
生田　喜夫（昭和 47 年）
金子　忠義（昭和 49 年、52 年、53 年）
大森　啓令（昭和 50 年～51 年、54 年）
東　悦穂　（昭和 55 年）
田村　弘實（昭和 56 年～）
内山　正也（平成５年～）
西本　剛　（平成 21 年～）
秋元　直幸（令和元年～）

役員

会長　　内山　正也
副会長　西本　　剛
理事長　秋元　直幸

活動のあゆみ

周南市におけるバドミントンは、当初企業中心であったが、協会関係者によるスポーツ教室開催などにより一般市民にも愛好者が増加していった。指導者諸氏の努力で優秀な選手育成が進められた。現在も強化練習会、小中高生合同練習会などを行い、県内トップレベルを維持し、幾多の選手が全国大会、中国大会で活躍している。

また、大会開催については昭和 55 年に当時徳山市市政 45 周年行事として、山口県で最初の日本リーグ大会を開催、平成 30 年には、全日本実業団バドミントン選手権大会を開催し、周南市役所、東ソー、トクヤマと地元チームも出場し、周南市役所がベスト 32 と健闘した。

現在も、総合スポーツセンター（ゼオンアリーナ周南）で多くの大会が開催されるようになっている。

【主な大会実績】

平成 30 年度　第 68 回全日本実業団バドミントン選手権大会
令和３年度　第 22 回中国地区シニアバドミントン選手権大会
令和４年度　バドミントン S/J リーグ 2022 山口大会
令和５年度　バドミントン S/J リーグ 2023 山口大会

理事長　秋元　直幸

‖ 防府市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長　長野　嘉久（昭和 50 年～）
２代会長　嘉村　悦男（平成 22 年～）
３代会長　松村　和美（平成 26 年～）
４代会長　藤田　　進（平成 30 年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長　長野　嘉久
２代理事長　嘉村　悦男
３代理事長　三好　信治
４代理事長　清水　隆行（平成 17 年～）

防府市バドミントン協会は、現顧問である長野嘉久氏を発起人とし、昭和 50 年３月 12 日に設立、同年山口県バドミントン協会へ加盟し、令和７年には設立 50 周年を迎える。設立当時は、小・中・高校でのバドミントンの部活がなく、市内に体育館施設もなかったため、マイナーなスポーツであったが、防府市古浜に防府スポーツセンター体育館が建設されたのを機に、防府市民を対象とした春季・秋季のバドミントン教室、防府市民選手権大会、団体戦、新人戦大会、小中学生大会等を年間を通して開催することにより、協会最大の目的であったバドミントンの普及・拡大に取り組むことができた。

しかしながら、大会への参加者を防府市民を対象としており、そのことが原因か定かではないが、徐々に参加者が減ってきたため、平成 17 年頃から防府市民だけの参加による大会ではなく、オープン参加の大会として広く市外、県外から愛好者の参加を募り交流を深めたことにより、協会の事業も順調に推移していった。

平成 22 年には、現キリンレモンスタジアム「ソルトアリーナ防府」が竣工し、バドミントンコート面数が 12 面となり、大きな大会も開催出来るようになったため、平成 25 年から、男性 50 歳以上、女性 45 以上のバドミントン愛好者で開催するグランドシニアバドミントンフェスティバル in 防府を開催。この大会は関東、関西、中国、四国、九州地方と最大約 350 名が全国各地から参加される大きな大会となっており、令和６年の大会は第 10 回の記念大会となり、防府市スポーツ協会 100 周年記念事業とコラボで開催した。

また、毎年防府市スポーツ協会（旧防府市体育協会）主催で、年１回、競技人口の増加及び競技力の向上を目的としバドミントン教室を開催しており、令和元年から令和３年の３年間は ACT SAIKYO の選手を講師として招いて開催（例年は防府市バドミントン協会から講師を派遣）した。教室の中では選手の模擬試合も行われ、実業団の選手のプレーが間近に見れることもあり、参加者から歓喜の声が上げられた。

今後も各種大会、講習会、教室等を開催し、バドミントンプレーヤーの親睦を図るとともに、競技だけでなく生涯スポーツとして多くの方に楽しんでもらえるよう取り組んで参りたい。

役員



〈藤田　進　会長〉

（令和６年度役員）
会長　　藤田　進
副会長　野村　房子
理事長　清水　隆行
理事　　柳井　るみ子（審判・指導）
理事　　勝間　幸恵【サルビア防府代表】

理事　　古屋　陽子【サルビア防府代表】
理事　　杉原　和恵【HOFU CITY 代表】
理事　　三家本　哲志【虎っ子クラブ代表】
理事　　伊部　昭宏【ブリヂストン代表】
理事　　属　　一枝
理事　　大野　友美
監事　　能見　綾乃
監事　　藤原　裕樹



活動・経過

（年間スケジュール）

ここ数年は、下記のとおり大会や教室等を開催しています。

◎グランドシニアバドミントンフェスティバル in 防府（令和６年は 10 回記念大会）
◎防府市レディース連盟会長杯バドミントン大会
◎夏季防府市オープンバドミントン大会
◎防府市総合オープンバドミントン大会
（令和６年は 50 回記念大会）
◎防府市新春ダブルスバドミントン大会
◎春季防府市オープンバドミントン大会（団体戦）
◎市内クラブ交流会
◎バドミントン講習会





将来の展望

（ジュニア世代の指導・育成）

バドミントンの普及・拡大、技術力の向上を目指すにはジュニア世代の育成は必要不可欠である。

こうした中、現在、少子化による部活動の減少や教員の働き方改革を背景に学校部活動の地域クラブへの移行が進んでいる。子どもたちが地域で活動するためには外部の部活動指導者の確保が必須となる。防府市バドミントン協会としてもバドミントン環境の整備や人材の確保に協力するとともに、教育委員会等に地域クラブ活動にかかる費用の補助や支援の働きかけを行っていきたい。そして、防府市から将来の県代表、日本代表を輩出できることを願っている。



理事長　清水　隆行

‖山口市バドミントン協会‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長　長井　秋穂（昭和 25 年～）

・・・・・・・省略・・・・・・・・・

８代会長　藤井　豊秋（平成 10 年～）

９代会長　杉山　昇　（平成 25 年～）

10 代会長　河村　弘　（平成 27 年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長　佐久間　貫弌（昭和 25 年～）

・・・・・・・省略・・・・・・・・・

12 代理事長　森野　和彦（平成 13 年～）

13 代理事長　岡　健一　（平成 16 年～）

14 代理事長　中村　明浩（平成 19 年～）

15 代理事長　岡　健一　（平成 22 年～）

16 代理事長　中村　明浩（平成 23 年～）

17 代理事長　岡　健一　（平成 25 年～）

18 代理事長　本田　聡　（平成 29 年～）

19 代理事長　倉重　太貴（令和３年～）

山口市バドミントン協会は、昭和 25 年（1950 年）４月１日に発足し、今年で山口県バドミントン協会の創立と同じく 75 年を迎える。市協会発足から平成 11 年（1999 年）までの 50 年間の歩みは、県協会創立 50 年史に寄稿・掲載されているので、今回は平成 12 年（2000 年）からこれまでの 25 年間の活動と今後の展望を寄稿する。

山口市バドミントン協会は、平成 17 年の平成の大合併や、平成 22 年の阿東町との合併を機に、旧山口市と旧吉敷郡、旧阿東町の協会が一つになり、新たな山口市バドミントン協会となった。

山口市バドミントン協会のこれまで 25 年間の事業活動は、大きく４つである。

１つ目は、市協会主催の大会運営である。平成 30 年度までは、市内及び近郷在住者を対象とした春季、夏季、秋季、冬季、クラブ対抗の５大会と、小学生対象の夏季と冬季の２大会並びに山口市近郷中学校大会を運営してきた。このうち、社会人対象の５大会は、市協会登録者の減少等により参加者が年々減少し、平成の後期には、毎回ほぼ同じ顔ぶれの少数参加となってきたため、令和元年度からは、５大会すべてをオープン大会に切り替えた。これにより、大会参加者数が大きく増加するとともに、市協会登録者の競技力向上にも繋がっている。

２つ目は、ジュニア育成である。山口市内の競技人口の増加のためには、ジュニア育成が重要であることから、平成 15 年度から新たな取組として、小学生のオープン大会を開催してきた。大会開催にあたっては、県下全てのジュニアチームに参加を要請した結果、会場のフロア全面をフルに使う盛大な大会となった。また、市内の小学生は、県ランキング上位の選手との対戦や、プレーを見たことで、その後の競技力向上にも繋がっている。なお、今後、中学校部活動の地域移行にともない、多くのスポーツ競技が転換期を迎える。山口市バドミントン協会としては、こうした変化に対応し、ジュニア世代が引き続きバドミントンに打ち込めるよう環境を整備することを第一に活動していきたいと考えている。

３つ目は、県協会や小学生連盟、中体連、高体連等の大規模大会の引き受けである。これまで、県域、中国地区、全国規模の大会を数多く引き受けてきたが、紙面の都合上、ここでは、全国規模の大会に絞って紹介する。市協会として最も大変であったのは、平成 15 年 12 月 13 日に開催された日本リーグの引き受けである。山口市では初開催だったため、準備に関するノウハウがなく、大会実行委員会の立ち上げから、様々な準備、大会当日の対応まで多くの苦労があったと当時の役員から聞いている。なお、大会には、当時女子ダブルスで美人ペアとして人気が

あった小椋・潮田（オグシオ）が所属する三洋電機の試合もあり、多くの観客が来場する盛大な大会となった。このほかにも、平成17年3月25日～28日には全国高等学校選抜大会、平成30年8月18日～21日には全国中学校体育大会が山口の地で開催され、日本のトッププレーヤーの試合を間近で見ることができ、多くの方々にバドミントンを身近に感じていただく機会となった。なお、令和6年11月2日～3日には、S／Jリーグが山口市の維新大晃アリーナで開催され、地元のACT SAIKYOや多くの現役オリンピアンが出場予定であることから、再び盛大な大会になることを期待している。

４つ目は、東京五輪やパリ五輪で日本勢が活躍したパラバドミントン競技の普及である。千葉県に拠点を置くパラバドミントンの普及に取り組むＮＰＯ法人と連携して、令和元年度から市内の小中学校での出前授業の開催や、年に1回、健常者と障害者が参加するインクルーシブのパラバドミントンの講習会及び大会運営にも携わっている。イベントには、市内の小中学生を積極的に招待しており、日頃体験できない貴重な経験を通じて、より一層バドミントンへの関心を高める良い機会になればと思っている。

最後に、今後の活動の展望である。合併直後の市協会登録者数は、200名弱であったが、近年の人口減少に伴い、令和6年度はさらに137名まで減少している。また、協会役員も人員不足により、主催大会当日の本部運営役員等の確保が難しくなってきている。オリンピック等で日本勢が活躍し、国内でもバドミントン人気が盛り上がりを見せている。これを機に市協会活動の活性化にも繋げていく必要があると考えている。特に、山口市に住む愛好者の方々が、今後も楽しくバドミントンをやっていけるよう、情報発信や大会運営など積極的に行っていきたい。



理事長　倉重　太貴

‖ 宇部市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長 岩沢　　栄（昭和 35 年～）
２代会長 東谷　正三（昭和 38 年～）
３代会長 広重　市郎（平成４年～）
４代会長 黒川　康弘（平成 23 年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長 松岡　　宏（昭和 35 年～）
２代理事長 松村　哲幸（昭和 45 年～）
３代理事長 山縣　保夫（昭和 60 年～）
４代理事長 河野　敬三（平成 16 年～）
５代理事長 吉川　直樹（令和４年～）

宇部市では昭和 31 年６月に教員や宇部興産（現 UBE）の社員が中心となり同好会からバドミントンの活動が始まった。昭和 35 年に宇部市バドミントン協会が誕生し、宇部市体育協会に加盟を行った。その発起の中心となった山縣保夫氏が昭和 36 年に国体出場を果たしたことで、宇部市のバドミントン熱が盛り上がり、企業や地域にバドミントンクラブが増えた。

昭和 50 年にはレディースの宇部シャトルズがクラブを立ち上げ、それに追随するように複数のレディースのクラブチームが結成された。

そして平成５年には河野敬三氏（現副会長）が小学生・中学生を対象とした宇部ジュニアバドミントンクラブを創設し、全国大会に出場する選手を輩出している。また、それまで宇部市の中学校にはバドミントン部はなかったが、ジュニア育成からの延長で中学校にも理解いただき、常盤中学校にバドミントン部が創設されたことも大きい成果である。またその後、フォルティッシモ等のジュニアクラブが作られ、選手は切磋琢磨しながら、高校・大学や社会人でも多くが競技を継続している。

役員



〈黒川会長〉

会　長　黒川　康弘
副会長　河野　敬三
理事長　吉川　直樹
理　事　羽迫　幸博
理　事　松下　哲也
理　事　藤井　忠雄
理　事　磯部　良子
理　事　瀬戸口　透
監　事　安田　耕司
事務局　江口　和正



〈宇部市協会役員〉

活動・経過

〈宇部市民大会・オープン大会を年に６回開催〉

宇部市のみならず県内各地より 100 名を超える参加がある。

〈小学生教室・大会〉

宇部市体育協会主催による、宇部市内の小学生を対象とした教室を土曜日の午前中に開催している。

〈一般向け教室〉

宇部市体育協会と連携し、月曜日・水曜日・金曜日に午前の部と夜の部にクラスを分けて一般の方向けに教室を開講している。日頃の運動不足の方や、初めてラケットを握る方へ啓発活動を行っている。

〈レデースクラブやジュニアクラブへの支援〉

実業団チームや経験者による技術指導を行っている。

〈トップアスリート事業〉

ジュニア他、学生・レディース・一般・実業団において全国大会に出場の際は、トップアスリート事業として支援を行っている。

その支援の成果もあり、レディースの宇部シャトルズは全国大会出場の常連となり、宇部高専は全国制覇を果たし、また実業団の UBE チームは S/J リーグⅡで活躍をしている。



〈宇部シャトルズ〉

将来の展望

実業団の UBE チーム、レディース、ジュニアの各選手がより集中して競技に取り組めるように努め、さらにバドミントン競技人口のすそ野を広げる PR と仲間づくりを宇部市バドミントン協会がけん引していきたいと考えている。



〈宇部市大会〉

理事長 吉川　直樹

‖山陽小野田市バドミントン協会‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉
初代会長　笹尾　克之（平４年～）
２代会長　稲津　孝秋（平 23 年～）

前身である小野田市バドミントン協会は、昭和 51 年 10 月に小野田市役所にバドミントン同好会が開設されたことにより、市内の同好者が集まり、昭和 54 年４月１日付けで小野田市体育協会にバドミントン部を設置したことに端を発する。

同年８月には第１回市民バドミントン大会を開催し、昭和 62 年３月に小野田市市民体育館が落成したことにより、昭和 63 年からは山口県ヨネックスカップ大会、平成３年度からは山口県都市対抗大会を引き受けて開催することとなり、会長に笹尾克之、副会長に三輪初代と羽迫幸博、事務局を稲津孝秋、他理事等 16 名で、平成４年４月１日に小野田市バドミントン協会を設立した。

協会発足当初、発足前から開催していた年４回のバドミントン大会をはじめ、校区対抗大会（団体戦）、県協会主催の都市対抗大会の引き受け開催に引き続き、平成８年度には各小学校校区（当時７校区）においてバドミントン教室を開講し、平成 17 年３月 22 日に小野田市と山陽町が合併したことにより、協会名を現在の山陽小野田市バドミントン協会とした。平成 23 年からは現会長・稲津孝秋にバトンタッチし、市民大会の改革や、オープン大会の新設、会員数の減少やコロナ禍の大会中止などを経て、協会活動の規模を縮小しつつも、現在、会長をはじめ副会長、理事等、計６名の役員にて運営を行っている。

役員（令和６年度）

会長・事務局	稲津　孝秋
副会長	篠田　由紀恵
理事	本川　典子
理事	青木　美知子
レディス	杉原　加寿子
会計	榎田　史織

被表彰者

《功労賞》
笹尾　克之（平成 23 年）
《優秀選手賞》
福田　光博（平成 19 年）
《メダル栄光》
福田　光博（平成 19 年、26 年、28 年、30 年、令和１年）
福永　正一（令和４年）

活動・経過

《山口県都市対抗大会について》

山口県都市対抗大会は、昭和 49 年に見直しにより中止された郡市対抗を改正し、男子フリー複２、35 歳以上複１、45 歳以上複１、女子フリー複２、30 歳以上複１の合計７複対抗で、２回以上競技ができる方法とされ、昭和 59 年に第１回が改めて開催された。その後、平成３年度の第８回より山陽小野田市（旧小野田市）にて開催され、以降、県協会主催大会の改変により大会が廃止となる平成 30 年の第 35 回まで山陽小野田市市民体育館で開催された。途中、平成の大合併（市町村廃置分合）によるチーム数について検討され、旧市郡として出場可や、合併後に２チーム出場可にするなどの改変や、出場選手の年齢に合わせて、フリーを１複に減して年齢別を１複増やすことや、年齢別に混合複を１つ入れて７複にするなど、７複の構成内容を変更しながら開催された。

《市協会開催大会について》

第１回市民バドミントン大会は昭和 54 年８月に実施、年間行事としてその後年４回ペースで開催、その他に、校区対抗大会、ミックスダブルス大会、近郷大会を実施していた。

市民大会はその後、競技人口の増加により県内各地からの参加が増え、市協会員、特に初級者の出場者の活躍の場が失われる状況となったため、市民大会を市協会員限定の大会とし、市協会員、教室受講者の大会とした。しかし、試合を敬遠する状況は変わらず、市民大会は参加者少数により不成立になることが多くなり、平成 31 年２月の第 143 回を最後に一時中断している。

また、７複で行われる校区対抗大会についても、選手が高齢化し、新規競技者の増加につながらず、７複の人数確保も難しくなり、令和５年度を最後の開催とした。

なお市民大会の参加資格変更に伴い、ミックスダブルス大会と近郷大会を廃止して、第１回山陽小野田市オープンバドミントン大会の開催を新設した。この大会はコロナ禍の中止を余儀なくされる期間や、各級で少数による不成立などの場合もあったが、現状年４回のペースで実施しており、開催種目は、男女単・男女複が年２回、混合複・男女複が年２回で、交互に行っている。令和６年 10 月には第 57 回山陽小野田市オープンバドミントン大会を県内外含む参加者９９名で開催した。



〈令和６年 10 月オープン大会の様子〉

《バドミントン教室について》

会員数の増加と、技術の向上を目指して、平成８年度から、各小学校校区（当時７校区）にてバドミントン教室を開催していた。

令和６年度は山陽小野田市バドミントン協会が共催する教室は１か所となっており、メインコーチ２名を含む上級者が初心者を含む受講者に指導するスタイルで、受講者・コーチ含め登録者数は現在 88 名である。教室開催は週１回でコート６面使用し、基礎練習からゲーム練習まで約２時間強、コンスタントに約 25 人～30 人が参加している。



今後について

会員数の減少や、競技者の減少、高齢化などにより、市民大会や校区対抗大会の中断や廃止を余儀なくされており、今後は団体戦でなく、個人戦にすることも視野に市民大会再開のきっかけになるような大会を模索していくこととなる。役員数も減っており、オープン大会の運営もままならないことも多いが、周りの協力も得ながら小さな組織体なりにその振興発展に努めていきたい。

会長　稲津　孝秋

‖ 下関市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈歴代理事長〉

初代理事長　大野　倍弘
２代理事長　三原　一郎　平成 18 年～
３代理事長　渡邊　光男　平成 23 年～
４代理事長　林　　征男　平成 30 年～
５代理事長　西村　亮介　令和５年～

下関市バドミントン協会は昭和 26 年４月に交野盛賢氏（長門産業）を会長として発足した。

昭和 32 年から 36 年までは亀井再平氏（市会議員）、昭和 37 年から 39 年までは角定雄氏（水上署長）が会長を務めた。昭和 40 年から宮崎伊三郎氏（医師）、平成に入ってから岩田整氏（当時：山口合同ガス社長）、加藤滋夫氏（同）、その後林芳正氏（現：衆議院議員）、以後現在の会長塩満久雄氏（現：県会議員）に至る。

協会組織としては、レディース連盟をはじめ、最近ではジュニアを対象とした小学生連盟も発足し組織運営を行っている。協会として、年間 12 回を目途に試合運営等を行っており、市内外のバドミントン愛好家との交流を行っている。

さて、私たちがこれまで主に利用してきた下関体育館は、今年新総合体育館として生まれ変わった。下関体育館は昭和 38 年の国民体育大会を機に建設され、バドミントン競技の会場として利用された。その後昭和 56 年 12 月と平成元年 12 月には日本リーグが開催された他、昭和 61 年８月には全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が開催された。

下関市体育館の特殊な外観を見られた方も多いと思うが、「今までにない構造」とするために双曲放物線で構成された大屋根を用いた設計とし、東側の正面では傾斜柱がハの字の形、徐々に屋根の傾斜が変化して西側の側面では傾斜柱が逆ハの字を描いている。屋根は鉄骨のトラス構造となっており、この大屋根によって体育館内のアリーナと客席は無柱空間となっていた。全体的な造形として、直線や曲線といった数学的な幾何学図形で構成された。また、体育館といえば観戦するためにアリーナを囲む４辺全てに客席を配置するのが通常であるが、集会機能等ももたせるため客席をコの字の配置にしていた。これは旧国立競技場などを手掛けた日本を代表する構造家、坪井善勝氏が構造のみならずデザインまで唯一設計した建築作品が「下関市体育館」であった。

このような文化的にも貴重な体育館だったが、築後 58 年が経過し老朽化に加え新耐震基準を満たしていない状況、また近年多発する自然災害に備えた防災拠点施設としての機能も必要なことから新総合体育館へ生まれ変わる運びとなった。

こうして、令和６年８月にこれまでの下関市体育館が担ってきた機能を引き継ぎ、誰もがいつでも身近で気軽にスポーツを楽しみことができる施設として、また大規模大会や各種イベントができる新しいスポーツ・レクリエーションを支えるスポーツ拠点して運用が始まった。バドミントンコートは、メインアリーナに 12 面（2 階固定席約 1,800 席）、サブアリーナに 4 面（観客席約 40 席）が整備され、大型ビジョンも完備された。下関市バドミントン協会としても新総合体育館を利用しての記念大会を検討しているところである。

昨今バドミントンの競技人口が増加している反面、試合の参加人数は減少の一途を辿っている。この新しい下関市総合体育館を起爆剤として下関市内外からの試合参加の人数の増加を期待しつつ、下関市バドミントン協会の新たな可能性を切り開いていきたい。

理事長　西村　亮介

‖ 長門市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈歴代会長〉

初代会長　大藤　之典（昭和 37 年～）
２代会長　藤田　亮太（平成 17 年～）
３代会長　重原　敏男（平成 21 年～）
４代会長　重廣　正美（令和３年～）

〈歴代理事長〉

初代理事長　大藤　之典
２代理事長　山根　隆司
３代理事長　大石　清二
４代理事長　木下　大介
５代理事長　木下　大介
６代理事長　村上　大輔
７代理事長　大石　清二

長門市バドミントン協会は、昭和 37 年に誕生し、今年で 62 年目を迎えた。設立当初は、バドミントンの競技人口は少なかったが、「バドミントンを愛する全ての人は、仲間である」「もっとたくさんの人にバドミントンの楽しさを味わってもらおう」を合言葉に歴代の会長を初めとする諸先輩方の普及に対するご尽力のお陰で今日に至っている。

役員



〈重廣正美　会長〉

会　　長	重廣　正美
事 務 局	大石　清二（県理事）
監　　事	五嶋　保宏　木下　大介
地区理事	新谷　一成　中野　安智
	木下　大介　五嶋　保宏
	中山　敦史　村上　大輔
	山根　拓也

現在の役員は、会長が重廣正美、理事長兼事務局が大石清二で、協会に加盟している所属団体からの代表７名が理事となって協会の運営を行っています。現在協会加盟団体は、８団体 107 名となっている。

活動・経過

協会主催の大会は、以前は年４回の大会を開催していたようであるが、現在は６月に会長杯大会、１月にバドミントン大会、２月に団体戦と年３回開催している。令和５年度に参加者拡充を目的に参加資格を見直し、従来の長門市・萩市・美祢市のほか下関市からの参加を募ることとした。

また西京銀行長門支店と医療法人社団成蹊会岡田病院の協力で、県内を活動拠点としてバドミントン活動している ACT SAIKYO の選手を招き、市内を中心に活動しているバドミントン競技者を対象に模範試合と交流戦による教室を開催し、バドミントン人口の普及拡大に努めた。



将来の展望

長門市を含め山陰地区全般において、バドミントン部のある企業や学校が少ないため、指導者や経験者が不足していることから、技術の習得、向上にかなりの年月を要するのが現状である。協会としては、各種大会の開催を通じて、バドミントン人口の底辺拡大に努め、発足当初の「バドミントンを愛する全ての人は、仲間である」「もっとたくさんの人にバドミントンの楽しさを味わってもらおう」の合言葉を忘れず、役員一同協会の発展に微力ながら寄与できるよう努力する所存である。

理事長　大石　清二

‖ 萩市バドミントン協会 ‖

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長　松井孝一（昭和 35 年～）
２代会長　神村重男（平成 10 年～）
３代会長　能美五郎（平成 18 年～）
４代会長　泉　隆義（平成 26 年～）
５代会長　岡本達彦（令和２年～）

〈 歴代理事長 〉

初代理事長　泉　隆義（平成 14 年～）
２代理事長　岡本達彦（平成 25 年～）
３代理事長　田中一孔（令和２年～）

萩市バドミントン協会は、昭和 35 年 10 月に初代会長の松井孝一氏らが中心となり創立されました。当時、市内にあった製紙会社に、技術習得のために来萩していたインドネシアの方との交流もあり、競技愛好者や活動が増加し、盛んに競技が行われていました。しかしながら、活動は一時停滞期を迎え、昭和 48 年までは大会を開催していなかったようです。

その後、昭和 49 年から、大会が再開されることとなり、秋季バドミントン大会を旧明倫小学校体育館で開催したという記録が残っています。この大会は、萩市長杯争奪バドミントン大会と名称を改め、今年度も開催を予定しています。

協会としても、バドミントンを生涯スポーツとして、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるように、様々な観点から支援を行い、バドミントンの普及に努めていきます。

役員



〈岡本達彦　会長〉

会　　長	岡本　達彦
顧　　問	中原佳洋江
	泉　　隆義
	（連盟理事：県協会）
副 会 長	小原　浩二
理 事 長	田中　一孔
常任理事	松村　一城（総務部長）
	山本　隆志（普及部長）
	堀　　泰明（強化部長）
	山根　眞弘（競技部長）
事務局長	末永　洋祐
連盟理事	長岡　　修（ジュニア）
	大田　征枝（レディース連盟）
理　　事	飯田眞由美
	武安　和孝
	大田　泰之
	上田　貴志
	川畑　　清
	山崎　笑子
	若松屋総幸
	藤田ひとみ
会計幹事	飯田真由美
	阿武　知弘

活動・経過

昭和 54 年に萩市民体育館が開館してからは、だれもが気軽に屋内競技を楽しむことができる環境が整備されました。

そこで、本協会普及部から講師を派遣し、初心者を対象としたバドミントン教室を開催しました。また、経験者には、実業団をはじめとする経験豊富な指導者を招くなど、技術習得の支援に努めた結果、市内の競技人口は広がりを見せ始めました。

このことから、昭和 54 年に萩市職域団体大会、昭和 56 年に萩市会長杯大会、平成 12 年に萩レディースオープン大会、平成 16 年には萩オープン選手権大会を新たに開催し、現在では年５回の大会を開催するに至っています。

協会組織においても、強化部を配置し、選手強化を図った結果、徐々に成果が表れ、平成 23 年度に山口県体育大会において、男子年齢別Ⅱ部で初優勝を勝ち取りました。同種目においては、令和４年度から三連覇を果たしています。

（大会の開催）

５月　萩市会長杯争奪バドミントン大会
６月　萩レディースオープンバドミントン大会
７月　小中学生バドミントン教室(全４回)
９月　バドミントン教室（全 10 回）
10 月　萩市長杯争奪バドミントン大会
12 月　萩オープンバドミントン選手権大会
　　ジュニアバドミントン教室(全２回)
２月　協会結成記念　バドミントン大会（団体戦）
年間　ジュニアクラブ（毎週火曜日）

（主な大会の成績）

山口県体育大会

平成 23 年度	男子年齢別Ⅱ部	優勝
平成 24 年度	〃	準優勝
平成 25 年度	〃	準優勝
	男子年齢別Ⅰ部	３位
平成 26 年度	男子年齢別Ⅱ部	３位
令和元年度	〃	３位
令和４年度	〃	優勝
令和５年度	〃	優勝
令和６年度	〃	優勝



将来の展望

これまでのジュニアバドミントン教室や技術講習会の開催等の活動が実を結び始め、近年では、市内中学校から強豪高校へ進学し、実業団等で活躍している選手もいます。また、公認審判員や公認スポーツ指導者資格を取得される方も増えており、生涯スポーツとしての認識も高まっています。

今後は、学校部活動の地域移行の推進やシニア大会の充実など、バドミントンを生涯スポーツとして広い年齢層の方々が触れ合える環境づくりを考えていきたいと思います。



事務局長　末永　洋祐

専門部・連盟の歩み

競技部

沿革・歴史

〈 歴代競技部長 〉

初代　山縣　保夫（昭和 51 年～）
２代　末廣　秀樹（昭和 55 年～）
３代　三井　裕　（昭和 57 年～）
４代　松本　克芳（平成６年～）
５代　沖　貞雄　（平成 18 年～）
６代　髙橋　和也（平成 29 年～）

昭和 51 年にバドミントン協会専門委員会規約が施行され、競技に関することは指導委員会が担当した。初代会長山縣保夫委員長のもと、各専門部委員が各大会運営に従事した。昭和 55 年に末廣秀樹氏に交代し、昭和 57 年に山口県バドミントン協会専門委員会規約が改正され、委員長として三井裕氏が着任した。その後、平成６年に松本克芳氏が就任。平成９年に、山口県バドミントン協会規約の全面改定により、委員会制度を廃止し、競技部が設置された。その後、沖貞雄氏に引き継がれ、平成 29 年度より髙橋和也が努めている。

交代後まもなく、昇級試合として活発に開催できていた東部・中部・西部の３地区での新人大会の参加者が減り、種目成立３組以上の参加もが難しくなった。場合によってはＡ，Ｂ級合同の試合になってしまった。この参加者激減の状況を踏まえ、新人大会、並びに全国シニア選考会同日に下関で開催していた協会結成大会なども廃止とした。同時にランキングと階級制も廃止した。現在Ａ級は１部、Ｂ級以下は２部に変更となった。これまで続けてきた県総合選手権大会は山口オープン・西京銀行杯と兼ねることとし、大会種目を１部男女単複、２部男女単複、U-16 男女単、U-13 男女単に変更し、県外選手の参加も認める大会となった。

自己申告制に変更後、コロナウィルスの猛威に侵され、2019 年度から 2022 年度までは大会が中止となったこともあり、自己申告制度の問題は発生していない。現在残っている県協会主催大会は、国体選考会、全日本シニア選考会、中国総合選考会、高体連・中体連主体の全日本ジュニア予選、中学生大会、中国シニア選考会（兼会長杯）、小学生大会、そして山口県オープンとなった。県協会主催大会のいくつかが廃止となったことは残念ではあるが、その分、各市郡協会の市民大会、オープン大会、近郊大会などが誕生し、活性化しているのはうれしい限りである。

役員



〈６代競技部長　髙橋和也〉



〈国体ブロック大会（岩国）の運営の様子〉

競技部の活動・経過

＜大会要項の作成と大会参加者集計＞

競技部の最大の仕事は、何と言っても県協会主催の各大会参加選手の集約作業である。時を経て、昔は郵送だけの世界から、今は「ＦＡＸ、パソコン、インターネット、メ

ール」等が普及し、メールでも申込できる時代になった。大会申込者の情報はパソコンで日本バドミントン協会ホームページより登録番号で検索抽出、その後エクセルに名簿を移し、表計算にて参加料金と参加者を集約し、申込に間違いがないか毎回確認している。

また、大会に関する緊急連絡が発生した場合、山口県協会ホームページを利用しながら、個人の携帯電話に連絡して対応している。携帯電話が普及し、いつでも連絡可能となり、大会参加者に諸連絡をするのは昔より非常に容易になったが、緊急時の連絡は、夕方から携帯を片手に申込責任者全員に連絡して、今でも大変な労力がかかる。先人の方々は郵送、固定電話、紙による参加者集計などで、その苦労は今の比ではなかったことが推測される。

参加料金だけは郵便局の口座振込のままとなっている。郵便局より届く振込通知書（１回 110 円）と参加集計名簿の参加料が間違いないかを毎回確認している。また、競技部では運営費の送金も行っているが、送金手続きは私の妻が行っており、集金管理はすべて任せきりである。大会毎に「参加者集計書・申込書の写し・領収証」を大会開催協会に郵送しているが、この郵送も妻にお任せである。このように競技部の仕事は家族の協力なしにはできない。



〈2018 年　ミニ国体　成年女子〉

＜活動２・各年度大会予定表の作成＞

競技部の２番目に大きな仕事は大会スケジュール表の作成である。毎年 1 月のスケジュール会議と、その後の３月の総会でスケジュール決定となるが、スケジュール連絡は日本バドミントン協会→中国地区協会→各専門部→各市郡協会の優先順で連絡がまわってくる。エクセルのファイルは作成時の ver１から、最終的には ver13 となり、なかなか大変な業務である。その他にも山口県で開催される中国地区大会、S/J リーグの役員として出席し、主に監督者会議の司会を担当している。

将来の展望

（後継者問題ですね・・・）

現在でも、各家庭全てにパソコン・インターネット環境がそろっているわけではないので、郵送での申込・ＦＡＸの人が多く残っている。パソコンが無くてもスマホを持っている方は申込書を写メして、メールで送っていただけると有難いのですが・・・。

最後に今の私があるのはバドミントンを教えてくださった「佐藤純一」先生のお陰である。感謝の気持ちは忘れることができない。この場を借りてお礼申し上げたい。


〈第 68 回全日本実業団山口大会の模様〉

（余談）

この記念誌ができ上がる頃には、後継者が見つかっていると嬉しいです。誰か希望者はいませんか、１～10 まで全て引き継ぎますよ。

競技部長　髙橋　和也

強化部

沿革・歴史

〈 歴代部長 〉

初代部長	沖	貞雄（平成９年～）
２代部長	末廣	秀樹（平成 13 年～）
３代部長	高橋	良明（平成 15 年～）
４代部長	棟居	秀行（平成 21 年～）
５代部長	渡邊	和人（令和３年～）

平成９年　指導委員会を国体強化部と指導普及部に分割し国体強化部が発足した。

平成 14 年　高知国体にてベスト８入賞、少年男子（監督・渡辺光男、選手・竹光唯至・山縣圭太・三崎剛）。

平成 18 年　山口国体での全種別入賞を目標にした競技力向上と県民代表との意識付けを目的に小学生から成年選手が一同に会して継続的な強化練習・合宿・遠征等を実施しようと「チーム山口」が発足した。

平成 20 年　成年男子強化の為、トナミ運輸の大束真也氏を招聘、選手兼宇部興産のコーチに就任。成年男子のチーム力が飛躍的に向上した。

平成 22 年　成年女子バドミントンチーム ACT SAIKYO が発足した。

平成 23 年　山口国体にて３位入賞、成年男子（監督・大束真也、選手・松尾光平・山平直輝・米元優樹）。



平成 25 年　東京国体にて３種別がベスト８入賞、成年男子（監督・原本俊也、選手・松尾光平・山平直輝・米元優樹）成年女子（監督・棟居秀行、選手・安念幸恵・北吉穂香・西友理）少年男子（監督・松原康則、選手・古川優太・桐田和樹・岩永廉）。

第 32 回全日本ジュニア選手権にてジュニアの部男子単３位・桐田和樹。

平成 26 年　長崎国体にて４位入賞、少年男子（監督・松原康則、選手・桐田和樹・岩永廉・上坂時歩）。小学生高学年と中学生を対象にしたチーム山口ジュニアが発足した。

平成 27 年　和歌山国体にて３種別ベスト８入賞、成年男子（監督・山平直輝、選手・松尾光平・米元優樹・桐田和樹）少年男子（監督・松原康則、選手・岩永廉・上坂時歩・田中開登）少年女子（監督・竹光唯至、選手・永田瑞稀・岩永　鈴・水津優衣）。

平成 28 年　岩手国体にてベスト８入賞、成年男子（監督・山平直輝、選手・松尾光平・米元優樹・桐田和樹）。

第 35 回全日本ジュニア選手権にてジュニアの部女子単　３位・岩永鈴、ジュニアの部女子複　準優勝・岩永鈴・水津優衣。

第 15 回ジュニアグランプリにて準優勝、女子団体（岩永鈴・水津優衣・金廣美希・松本みなみ・金廣真希・水津愛美）。

平成 29 年　愛媛国体にて準優勝、少年女子（監督・竹光唯至、選手・宮内公佳・柳井咲那・浅井和奏）。ベスト８入賞、成年女子（監督・棟居秀行、選手・米元陽花・今井優歩・齋藤栞）。



皇后杯（女性）２位、天皇杯（総合）４位という成績を収めることができた。山口国

体を機に山口県全体の力を結集したチーム山口の一貫指導の成果が成績に繋った。

平成 30 年　福井国体にてベスト８入賞。少年女子（監督・竹光唯至、選手・浅井和奏・金廣美希・鈴木沙也夏）。

第 37 回全日本ジュニア選手権にてジュニア新人の部女子単　準優勝・金廣真希、３位・明地陽菜。

令和元年　茨城国体にて準優勝。少年女子（監督・竹光唯至、選手・金廣美希・長廻真知・水津愛美）。



令和４年　栃木国体にてベスト８入賞。少年女子（監督・竹光唯至、選手・明地陽菜・田口真彩・宮崎友花）。

第 41 回全日本ジュニア選手権にてジュニアの部女子単　優勝・宮崎友花。ジュニア新人の部女子単　優勝・阿波芽衣咲。

令和５年　鹿児島国体にて優勝、少年女子（監督・竹光唯至、選手・田口真彩・宮崎友花・砂川温香）。３位、成年女子（監督・棟居秀行、選手・重田美空・斎藤栞・久湊菜々）。皇后杯（女性）優勝、天皇杯（総合）２位という山口県最高成績を収めることができた。山口国体以来の合言葉である「山口県をバドミントン王国へ」にさらに一歩近づいた大会であった。

第 42 回全日本ジュニア選手権にてジュニアの部女子単　３位・白川菜結。



令和６年　佐賀国体にて優勝。少年女子（監督・棟居秀行、選手・砂川温香・中原心優・松本紗季）。ベスト８入賞。成年女子（監督・小宮山元、選手・齋藤　栞・水津優衣・水津愛美）。皇后杯２位、天皇杯４位となり、少年女子は２連覇を達成した。

将来の展望

チーム山口として活動が始まり１８年がたち、山口県のバドミントンレベルも当時に比べて格段に向上している。女子種別はACT SAIKYOがＳ／Ｊリーグで活躍、柳井商工は全国大会優勝の常連チームになった。男子種別でもＵＢＥがＳ／ＪリーグⅡで活躍し、少年男子もジュニアからの指導で優秀な選手がたくさん出てきている。今後はさらなる発展のために、県全体での指導者育成やジュニア期での新しい取組が必要だと考えている。そのためには他競技のスポーツ競技関係者と連携を取ることで、指導者スキルの向上を図り、ジュニア期に多種多様なスポーツを経験させることで、成人になってからの競技レベル向上やケガ防止につなげることができると考える。さらに日本スポーツ協会もマルチスポーツ推進ということで競技・種目の変更（キャリアトランジション）への抵抗感を軽減し、長い目でのタレント発掘にも貢献することが期待できると言っている。

少子化や働き方改革により部活動の在り方も変わっていく中で、次世代をどうやって育てていくかを関係各所と相談し活動を推進していきたい。

強化部長　渡邊　和人

総務部

〈 歴代部長 〉

初代部長　山下 新一（平成９年～）
２代部長　田内 正彦（平成 22 年～）
３代部長　野村 義徳（平成 24 年～）
４代部長　山本 和義（平成 27 年～）

歴史・沿革

平成９年に、林芳正会長、三井理事長、久次事務局長の新体制となった際、組織が再編、総務部も位置付けられ、初代部長には山下氏が就任した。これと同時に行われた規約改正に沿って、それまで競技委員会（後の競技部）が担っていた登録事務を平成 10 年から総務部が登録事務を担当した。また、総会資料の作成も総務部の業務範囲であった。

平成 20 年度に小学生連盟が創設されて、山下氏が連盟理事に就任し、総務部長は平成 21 年度に事務局次長だった田内氏に引き継がれた。山本は平成 23 年の山口国体で記録副主任を担当した縁で久次事務局長の依頼を受け、平成 25 年度より総務部長を担当している。

山口国体と会員登録システム

総務部の歴史から離れるが、山口国体と会員登録システムについてふれておきたい。山口国体当時は、開催県が作成するコンピュータプログラムで組合せ抽選を行うことになっていたため、企業の情報システム部部員であった山本が担当することになった。国体では、スコアシートの印刷、トーナメント結果表の出力を短時間のうちに行わなければならなかったため、このためのプログラムも作成したが、これらは後年開催の長崎国体、東京国体にも提供した（実際に利用されたかは不明）。

登録事務は総務部の主要業務の１つであるが、山本が引き継いだ時は、まだ会員番号は各都道府県で付与し、それを Excel にまとめて日本バドミントン協会に送付する仕組みであった。当時日本バドミントン協会では、会員登録のシステム化が検討されており、平成 26 年には、システムの説明会などへの参加や、システムに適した山口県における登録フローの検討も必要となった。

平成 27 年度(2015)にスタートした会員登録システムでは、各会員に全国統一の会員番号が自動で付与され、改姓や都道府県をまたがる移動があっても、そのままの会員番号を使い続けることになっている。当初は、登録・会費支払いの確認の際には１名ずつクリックする必要があったり、山口県全員分の会員カードがまとめて送られてきたりして、それを各市郡協会や学校向けに仕分けして、郵送しなければならないなど、とてつもなく作業負荷が上がり悲鳴をあげた。会員カードについては、各人に配布しなければならない市郡協会の方々、各校の顧問の先生も大変だったと思う。

会員登録システムは、担当者会議での課題の指摘や意見交換を経てかなり使い勝手が良くなっていったが、システム稼働から丸４年を経過せずして平成 31 年３月(2019)には新システムに移行された。移行にあたって全面刷新されて、登録業務がかなり簡便になり、会員証もシステム上で表示されるようになったことで、カード配布作業が無くなったなど、作業負荷がかなり下がってきているのはありがたいことである。

現在、登録業務において特に手がかかっているのは、氏名や生年月日の間違いの確認、他都道府県からまたは他都道府県への移動者の確認などである。一方、各市郡協会や小中高・学生連盟からの申請を受けて、会員登録システムに登録したり、日本バドミントン協会に会費を支払ったりする際には、Excel の関数やマクロを多用している。Excel を使わなくてもできない業務ではな

いが、おそらく数倍の手間がかかるので、次の部長になっていただける方は Excel などを習熟されていることが望ましいと思う。

現在山口県では、会員登録システムへの登録、会費の支払いは、一部の例外を除いて総務部で一括して行うようにしている。これは会員登録システムのスタート当初、市郡協会や各校の顧問でもできるようにしていたが、ミスの修正に却って多大な労力がかかったためであるが、会員登録（更新）や会費支払いを全て会員個人ごとにさせている県もあると聞いている。どちらにするかは一長一短なので、総務部長交代時には、それも視野に入れて登録・支払い方法を検討しても良いかもしれない。

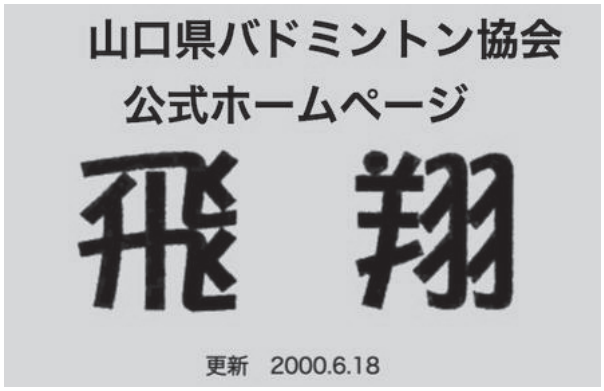
山口県バドミントン協会ホームページ

総務部では、山口県バドミントン協会ホームページの構築、運用も担当している。山口県バドミントン協会ホームページは、当時の久次事務局長と相談して山本がサポートする形で 2000 年５月にスタートした。2002 年には、宇部市（山陽小野田市）のイワン氏から、同氏が店舗のホームページ管理用に開発したシステム利用の提案があり、そちらに移行した。このシステムは、利用者が記事を更新できるようになっていて、当時としては先進的なものであったが、後にイワン氏が多忙になって運営が難しくなったため、2016 年から再び総務で引き受けることになった。この際、山口県バドミントン協会のドメイン（yamaguchi-bad.org）を取得し、利用している。

この頃には、ホームページ構築には、CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）が利用されるようになっていた。CMS では、イワン氏のシステムと同様、記事の更新は Web サイトの専門知識がなくてもできるようになっているので、新ホームページでは、これを採用し、大会要項や結果の掲載、審判講習会や指導者講習会などの案内は、各専門部に更新してもらっている。一方、ホームページに用意してある問い合わせの対応は、総務部で担当している。件数はさほど多くないが、問い合わせ内容は、登録や会員番号に関するもの、練習場所に関するものなど多岐にわたる。

このように通常のホームページ運営は各専門部に分担させてもらっているが、サーバの構築や CMS の設定などには、ある程度専門的な知識が必要となる。後任の部長は、その方面の知識を持っているか、学んでいただけることが望ましいが、難しい場合には外部委託も含めて検討すれば良いだろう。

現在は、日本最大手のインターネットサービス事業を行っている業者の標準的なサービスを使っているので、外部委託する場合でも、費用は多少かかるようになるが委託は比較的容易だと考えている。



〈初期のホームページ〉



〈現在のホームページ〉

総務部長　山本　和義

市郡協会・連盟別 日バ登録者数

加盟団体	R05	R04	R03	R02	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
玖珂郡	岩国市に統合						18	20	24	24	21	20
岩国市	82	83	79	87	86	96	96	105	92	96	106	105
柳井市	17	17	14	13	14	13	14	13	15	23	20	10
熊毛郡	18	18	20	21	25	26	28	27	31	31	31	41
光市	31	28	30	30	33	32	46	47	43	44	51	52
下松市	114	124	123	127	127	128	135	133	120	110	115	116
周南市	109	111	111	118	119	133	127	131	141	141	160	167
防府市	34	29	28	24	28	35	38	35	41	34	42	46
山口市	101	104	101	97	109	100	96	99	102	101	98	110
宇部市	69	71	69	58	72	69	86	82	88	85	83	80
山陽小野田市	28	26	24	22	22	26	34	31	30	33	28	32
下関市	47	45	51	57	66	68	75	77	80	73	63	77
長門市	9	9	3	2	6	5	19	4	9	6	10	10
萩市	22	23	24	25	25	28	34	33	32	27	24	28
学生連盟	83	92	96	19	113	100	134	136	138	150	125	111
高体連(含教員)	972	983	1037	756	998	945	984	950	845	833	773	786
中体連(含教員)	624	610	626	572	620	690	710	709	626	660	620	636
小学生連盟	208	198	186	180	192	229	231	226	232	255	233	226
	2568	2571	2622	2208	2905	2858	2905	2858	2689	2723	2603	2653

指導普及部

沿革・歴史

〈 歴代部長 〉

初代部長　松原　康則（平成９年～）
２代部長　佐々木辰博（平成 19 年～）
３代部長　原本　俊也（平成 23 年～）
４代部長　河本　泰　（平成 27 年～）

指導普及部の設置

県協会が創立されてからその組織の中には様々な専門部署が設置されてきたが、その中に指導委員会があった。昭和 55 年頃には末廣秀樹氏が委員長に就任し、指導・強化を狙った活動が行われていた。その活動は国体で成果を出すための強化につながるものが中心で、強化練習会や合宿、県外遠征等を行った。関係者の地道な努力により中国地区の中では岡山県に匹敵するような力をつけ、男子では常にブロック予選を突破できるだけのところまでには来たように思われた。しかしながら恒常的な発展を目指していくためには、もっともっと裾野の拡大が必要であり、それにはバドミントンの魅力を伝えられる確かな指導理論を身に付けた指導者の養成や現場での正しい練習方法の浸透が急務であった。これを解決すべく平成９年度より指導委員会を強化部と指導普及部に分離して松原康則氏（当時柳井工業高校勤務）が初代部長に就任した。平成 11 年度には、光市のスポーツ交流村においてヤマハの飯野佳孝氏と宮崎大学の廣田彰教授を講師に招いて、指導者講習会の開催などを行った。多数の参加者は、皆一様に指導者としてバックボーンを創ることの必要性を感じておられたようであった。

初期の指導普及部の主な活動

その後、２代目佐々木辰博部長のもとでも、指導普及部の主な活動としては、こうした講習会を行う際の講師の調整や、要請のあった県内各地の団体やサークルなどへの出張指導を行ったりするものであった。

折しも時代はＪリーグをスタートさせた日本サッカー協会のモデルに倣って、日本体育協会（現日本スポーツ協会）が各競技団体における指導者のライセンス制度を進めている最中であった。今後指導者がライセンスを持つことが必務になるとのことから、県下からも毎年公認指導者養成講習会への参加を始めている。なお、日本バドミントン協会は各県に対して、協会登録者総数の５％の人数の有資格指導者（山口県の場合約 100 名）を確保することを目指していた。

公認指導者の養成

こうした流れのもとで、３代目原本俊也部長の時の平成 25 年に県内で公認指導者４級（現在のコーチ１）の養成講習会を行った。宇部興産バドミントン部（現ＵＢＥバドミントン部）の選手をはじめジュニア・中学・高校の指導者等 19 名が受講し、翌年資格を取得した。この結果平成 26 年度の県内有資格者は 35 名となったが、日本バドミントン協会の求める登録者数の５％にはまだまだ程遠い状況であった。さらに指導者資格は４年ごとに更新研修を行う必要があり、これが今後の指導普及部の課題となった。

更新研修を兼ねたコーチングキャンプの実施



〈講義をされる渡辺先生〉
〈奥に座っておられる方が阿部先生〉

原本部長から平成 27 年に指導普及部を引き継いだ４代河本部長のもと、資格更新の

ための義務研修を兼ねた「コーチングキャンプ in 山口」が平成 28 年１月に周南市学び交流プラザで開催された。講師に筑波大学名誉教授で日本におけるバドミントン指導者理論のパイオニアでもある阿部一佳先生をはじめ、指導者連盟の渡辺雅弘先生など日本のトップ指導者を招き、県内外から 60 名を超える受講者が集まった。当時の最先端の指導理論を用いた講義と実技講習が２日間にわたり行われ、会場は新鮮な理論に触れ、生き生きとした受講生の雰囲気に包まれた。



〈後にインターハイ・選抜・国体で日本一に導いた竹光先生（中央奥）も受講〉



〈阿部先生による実技指導〉

コーチングキャンプの実施により県内 17 名の指導員（現在のコーチ 1）の資格更新が行えたことに加え、指導者の資質向上にもつながったと考えられる。

全国巡回バドミントン講習会（バドミントンキャラバン）の実施

このころオリンピック等での日本選手の活躍により、日本におけるバドミントン人気は高まった。日本バドミントン協会は協会結成 75 周年記念事業として、さらなるバドミントン普及のために、平成 30 年から全国 47 都道府県を５年間かけて回る全国巡回バドミントン講習会（バドミントンキャラバン）をスタートさせた。中国地区では令和元年に鳥取県で開催され、山口県では令和２年に開催する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため令和２年度のバドミントンキャラバンはすべて中止となった。翌令和３年度も感染は収まらず、開催は延期された。山口県でのバドミントンキャラバン開催は、ようやく感染が収まった令和４年 12 月であった。



〈周南市内の小学生、近隣のジュニアクラブ等に約 1 万枚配布したポスター〉

キャラバンは「初めてのバドミントン教室」「ジュニア教室」「オリンピアンによる講

演会」「指導者講習会」から構成され、日本バドミントン協会の宮崎賢一さん、渡辺雅弘さん、オリンピアンの前田美順さんが講師を務められた。初めてのバドミントン教室には４歳から 50 歳までの 85 人、ジュニア教室には小学生・中学生・高校生の 82 人、指導者講習会には 22 人、オリンピアンによる講演会には 160 人以上が参加した。



〈中央後方のピンク色のジャージがオリンピアンの前田美順さん〉

コロナ禍のもと３年越しの開催となったが、多くの参加者のおかげで盛大なキャラバンとなり、山口県バドミントンの普及・発展に貢献できたと考えている。

中学校部活動の地域移行に伴う指導者の育成

令和５年度から、中学校部活動の地域移行がスタートした。これにより地域クラブには最低 1 人以上の有資格指導者が必要になり、県内でも指導資格取得の要望が高まった。令和５年度の中国地区指導委員会では、こうした要望に応えるために、毎年中国 5 県のどこかでコーチ 1 の養成講習会を開催し、計画的に指導者を養成していくことが決定した。令和５年度は島根県・岡山県、令和６年度は広島県、令和７年度は鳥取県、令和８年度には山口県で開催することとなった。今後の指導普及部の大きな課題としては令和８年度の養成講習会と定期的な資格更新研修会の開催によって、県内の有資格者数を日本バドミントン協会の求める 100 人以上にすること、さらにこうした指導者によって山口県バドミントンのさらなる普及と発展を支えていくことだと考えている。

指導普及部長　河本　泰

審判部

沿革・歴史

〈 歴代部長 〉

渡辺　恒輔（昭和 51 年～）
（平成 9 年 3 月まで審判委員会委員長として業務に従事）

利行　好男（平成 9 年～）

沖　　貞雄（平成 25 年～）

田中　康行（平成 27 年～）

審判部の歩み

県協会審判委員会として、昭和 51 年 4 月 1 日に発足。初代委員長には、渡辺恒輔氏が就任。平成 9 年 4 月、県協会専門部の組織変更により審判部と改名、今日に至る。

審判部の役割

発足当初より、審判員の育成活動を行ってきた。審判部の主の役割として、公認審判員資格取得のための資格取得検定会の開催、審判能力向上のための講習会の開催、県協会主催、後援大会の審判員派遣、審判資格更新手続きなどを行っている。

公認審判員資格検定会開催に必要な公認審判員資格審査認定委員は、山口県協会として 6 名（2024 年度末時点）の有資格者を保有。他県同等の人員が維持できており、遅滞なく検定会を開催することが可能となっている。

県協会の有審判資格者数は、1 級 23 名、2 級 57 名、3 級 594 名、準 3 級 558 名、合計 1232 名（2024 年 5 月時点）となっており、日本バドミントン協会の普及活動も有り、ここ 10 年間で大幅な増加となっている。

審判資格関連の変遷

審判資格関連として、ここ数年間に幾つか改定がされた。主要な改定としては日バシステムの導入に伴い、審判手帳の廃止が挙げられる。

2020 年度　審判手帳の廃止

ルール改定

主要なルール改定として以下が行われた。細かい改定が多くあるが、主要な改定を以下に示す。

2007 年度　セット数の変更

2019 年度　サービスの変更

主要な県内開催大会

県協会として過去に携わった主要な全国大会を以下に示す。

2011 年　第 66 回国民体育大会

2018 年　第 68 回全日本実業団バドミントン選手権大会





左出展：公益財団法人日本バドミントン協会ホームページより
右出展：全日本実業団バドミントン連盟ホームページより

両大会ともに多くの県内審判員の方々のご協力を頂き、無事に大会を終えることができた。

最後に、今後も引き続き山口県内で 1 種大会、2 種大会が開催される。大会運営には多くの審判員が必要となるため、新規取得推進及び技能向上を進めながら、皆さんのご協力を得て大会運営にあたりたいと考えている。

審判部長　　田中　康行

表彰部

歴史・沿革

〈 表彰委員長 〉

初代委員長　植田　博宣（昭 48 年～）
２代委員長　岡崎　光弘（昭 51 年～）
３代委員長　藏成　秋次(昭 57 年～平９年)

〈 歴代部長 〉

初代部長　内山　正也（平成 10 年～）
２代部長　田内　正彦（平成 25 年～）
３代部長　原本　俊也（平成 27 年～）
４代部長　野村　房子（平 28 年～）
５代部長　杉原加寿子（令和２年～）

昭和 25 年４月１日に山口県バドミントン協会が発足。現在の表彰部の前身となる表彰委員会が発足したのは 23 年後の昭和 48 年６月１日。

設立当初の表彰規定の内規は、

・功労賞　役員として 10 年以上、会長、副会長は無条件該当。
・優秀選手賞　国体５回以上出場、中国大会以上で優勝、県内同一大会同一種目に３年以上連続優勝。

と選考基準を定めていたが、昭和 54 年 11 月 24 日付けで内規の一部改正と合わせて、まず表彰委員会で審査、選考した結果を理事会で承認決定することとなり、その後昭和 57 年には表彰委員会の構成を被表彰者７名とした。

昭和 63 年頃からは選考基準に問題が提起され、２、３年理事会で協議された結果、下記内容（要約）が内規に追加された。

１　功労者の対象年齢を 50 歳以上とし、役員のみならず市郡協会役員のみの場合 20 年以上顕著な業績があれば被表彰とした。
２　功労者の条件に「指導普及等の分野で特に顕著な業績が認められるもの」と明記した。
３　優秀選手賞は、学生時代・社会人時代の生涯２回に限定した。(現在は小学・中学・高校・高専・大学・社会人の各１回に限定)
４　「年齢別・教職員・家庭婦人等の特殊種目では中国大会以上の大会で３年連続あるいはそれに相当すると認められる成績を残したもの」と明記された。(現在、家庭婦人はレディースに変更)

優秀選手賞の選考に対して明確な記載となり、のちに設立当初の「県内同一大会同一種目３年以上連続優勝」と「総合選手権の成績とランキングを考慮」については、県内大会の変更に伴い削除されたが、現在の表彰規定までの礎となっている。(現在の表彰規定については資料を参照のこと。)

平成６年度には、表彰委員会の構成が改組され、委員長、理事長、競技委員長、指導委員長、事務局長他、必要に応じて中体連・高体連・学生の各専門委員長で構成され、平成９年の県協会の大幅な組織改組により、表彰委員会は表彰部と位置づけされている。

以降、主催大会や組織変更などにより、内規に軽微な変更を加えながら運用し、令和４年度には県協会表彰が個人を対象としているものであるため団体表彰の規定を加えることについても検討したが、協議の結果、理事会で不採用となった。



現在、表彰者の決定は、各市郡協会・各専門部の推薦により、表彰部で取りまとめ、理事会で承認されており、表彰委員会設置から現在までに、功労者 70 名、優秀選手 224 名を表彰している。

令和５年３月に、平成９年の組織改組時より 26 年という長きにわたり会長職を務められた林芳正様を名誉会長に、その功績を引き継ぎ、令和５年４月より新会長に西京銀行取締役会長の平岡英雄氏を迎えた。

近年では、選手の育成、指導者の育成により、各年代にわたり優秀選手の素晴らしい成績が増え、またその成績により、各種団体から優秀な指導者として表彰されているのは好ましいことである。
益々の活躍が期待される。

表彰者数

（昭和 48 年～令和５年度）

・山口県バドミントン協会長表彰

功労者　　70 名
優秀選手　224 名
団体　　２団体（昭和 52 年）
※詳細は被表彰者一覧参照

・日本バドミントン協会表彰

《功労賞》　４名
田中萬亀太（山口）植田博宣（下関）
（上記は昭和 54 年度以前）
津守幸介（山口）
津守幸介（山口）叙勲（瑞宝双光章）
三井　裕（山口）

《顕讃賞》　16 名
渡辺　忠（新南陽）岡崎光弘（下関）
松村哲幸（宇部）　尾上　忠（山口）
藏成秋次（山口）　岸野保則（下関）
末廣秀樹（宇部）　嘉村悦男（防府）
松村和美（防府）　石崎幸亮（下関）
山縣保夫（宇部）　古賀孝博（玖珂）
田村弘實（周南）　三井房子（山口）
久次　優（下松）　利行好男（下松）

・山口県体育協会体育功労賞　25 名

・山口県メダル栄光（体育賞）157 名

山口県バドミントン協会表彰式

令和５年度山口県バドミントン協会表彰式は、令和６年３月６日（日）に光市総合体育館にて行った。表彰者９名のうち、功労賞・石永裕記様、優秀選手賞・梯拓斗様、利行瑛心様の３名に出席いただいた。当日同会場では第 24 回山口県オープンバドミントン選手権大会が開催であったため、出場選手の方々の拍手の中、表彰式典を行った。





〈令和６年３月６日　表彰式の様子〉

表彰部長　杉原　加寿子

山口県レディースバドミントン連盟

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉
初代会長　林　万里子（平成元年～）
２代会長　林　裕子（平成９年～）

〈 歴代理事長 〉
初代理事長　松村　和美（平成元年～）
２代理事長　三井　房子（平成 19 年～）
３代理事長　清水　世津子（平成 25 年～）
４代理事長　山中　佐知子（令和３年～）

本連盟は、平成元年、山口県が中国地区家庭婦人大会の主管に決定された際に発足し、平成 12 年度からは「家庭婦人」を「レディース」と改称し、活動を続けてきました。

連盟を設立してから、困難あり、感動あり、喜びもあり、積み重ねた歴史は連盟の糧となり、組織の礎として連綿と引き継がれ、現在に至りました。

誰もが参加でき、歳を重ねても生き生きと「輝」ける場づくりをモットーに、技術講習会や合同練習会、交流会、オープン大会等開催し、更に中国地区大会、全日本大会へ多数の選手を輩出しています。

現在、57 クラブ、496 名（R６）の会員とともにレディースバドミントンの親睦、普及に努めています。



〈第 17 回全日本レディースバドミントン競技大会〉
〈個人戦　優勝　河村美咲・田中琴裕幸 ペア〉

会　長　林　裕子
副会長　野村　房子
副会長　清水　世津子
理事長　山中　佐知子
副理事長（光）　久次　由貴子
副理事長（山陽小野田）　杉原　加寿子
理事（岩国）　藤島　佳子
理事（熊毛）　松岡　敬子
理事（下松）　成田　美智子
理事（周南）　有福　美紀
理事（防府）　古屋　陽子
理事（山口）　國弘　恭代
理事（宇部）　古谷　祥子
理事（萩）　小田　陽子
理事（長門）　中野　光子
理事（下関）　早川　美奈子
理事（輝楽会）　池田　素子
監事　古城　周子
監事　松村　美千代



〈前列の中央左が林裕子会長〉

活動・経過

毎年度、主催・主管する大会
２月　全日本レディースバドミントン選手権大会・都道府県対抗山口県予選会
　　中国地区レディースバドミントン選手権大会クラブ対抗予選会
３月　中国地区レディースバドミントン選手権大会年齢別対抗山口県予選会
４月　山口県レディース連盟会長杯
５月　全国大会・中国地区大会・選手合同練習会
６月　輝楽会・交流会

９月　輝レディースオープン
10 月　強化練習会
　　輝楽会・交流会
その他、審判講習会開催、ヨネックス講師を招聘し、技術講習会を年間３回程度開催。

表彰・成績

平成９年　石井伸子・香井晴江―中国地区家庭婦人バドミントン連盟より優秀賞（中国地区年齢別競技会４部３年連続優勝）
平成 10 年　松村和美―中国地区家庭婦人バドミントン連盟より優秀賞（全日本シニアバドミントン大会 50 歳代ダブルス優勝）
松村和美・三井房子・古城周子・松村美千代・岡崎君江―山口県家庭婦人バドミントン連盟より功労賞
平成 12 年　古城周子・嶋田文江―中国地区レディースバドミントン連盟より優秀賞（中国地区年齢別競技会３部３年連続優勝）
平成 13 年　松尾真澄―中国地区レディースバドミントン連盟より優秀賞（全日本シニアバドミントン大会 40 歳代シングルス優勝）
平成 15 年　松村和美―全日本レディースバドミントン連盟より功労賞（連続 15 回全国大会出場）
平成 17 年　松村和美・三井房子―中国地区レディースバドミントン連盟より功労賞
平成 20 年　松村和美―山口県レディースバドミントン連盟より特別功労賞
三井房子・古城周子・岡崎君江・中野光子・清水世津子―山口県レディースバドミントン連盟より功労賞
平成 25 年　松村和美―日本レディースバドミントン連盟より特別功労賞
上野富江・松村美千代―日本レディースバドミントン連盟より指導者表彰
平成 27 年　石井伸子―山口県レディースバドミントン連盟より記念品（全日本シニア 70 代ダブルス、シングルス優勝）
平成 30 年　古城周子・中野光子・清水世津子・野村房子―山口県レディースバドミントン連盟より功労賞
令和５年　石井伸子―日本レディースバドミントン連盟より技能賞（全日本レディースバドミントン大会個人戦５年連続優勝）
河村美咲・田中琴裕幸―中国地区レディースバドミントン連盟より優秀賞（全日本レディースバドミントン競技大会個人戦優勝）
令和６年　青見愛梨・佐野新菜―中国地区レディースバドミントン連盟より優秀賞（全日本レディースバドミントン競技大会個人戦優勝）

将来の展望

これまでさまざまな関係者のご尽力のおかげで長年にわたり連盟の活動が行われてきました。

幅広い世代の方に参加して頂けるようにホームページを開設し、強化練習会も年２回開催するとともに、審判講習会等で指導者の育成にも力を入れています。

また、クラブ交流会や、50 歳以上のバドミントン愛好者を対象に設立した輝楽会など、どなたでも参加できるような場づくりを行ってまいりました。

これからも優秀な選手の育成、指導者の育成、会員の皆様との親睦を図ることとし、山口県レディースバドミントン連盟の発展を目指してまいります。

理事長　山中　佐知子

山口県教職員バドミントン連盟

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

初代会長	植田　博宣
２代会長	津守　幸介
３代会長	三井　裕
４代会長	福永　正一

〈 歴代理事長 〉

初代理事長	三井　裕
２代・６代理事長	松本　克芳
３代・５代・７代理事長	福田　光博
４代理事長	岡　　健一
８代理事長	中野　未千尋

【中国地区教職員バドミントン選手権大会】

第１回大会が鳥取県米子市で、1991 年（平成３年）12 月 26 日～27 日の２日間で開催された。種目は団体戦と個人戦で、団体戦では第１～３回大会まで山口県が３連覇を果たした。個人戦では、第１回大会の 40 歳男子単で三井裕選手、複でも三井裕・松本克芳組が優勝をした。第２回大会では一般の女子で鶴田恵美子選手、30 歳女子単で江夏久美子選手、40 歳男子単で福永正一選手、同じく複で松本克芳・福永正一組、50 歳男子複で津守幸介・杉原哲彦組が優勝を飾っており、個人戦の優勝者が増えた。第３回大会以降は女子選手の活躍も目立ち始め、栄光の記録に多くの山口県選手の名前が刻まれるようになった。第 34 回山口大会では、団体一般も団体壮年も３位となり、優勝こそ逃したが、個人戦では 19 のカテゴリの内、９つのカテゴリで優勝を飾った。今後も山口県選手団の活躍が期待される。

【全国教職員バドミントン選手権大会】

第１回大会が 1962 年（昭和 37 年）８月 10 日～11 日に東京都文京区立第二中学校体育館で開催され、現在に続く歴史ある大会となっている。全国の精鋭が集まるこの大会において、第 24 回 1985 年（昭和 60 年）福井県大会で 40 歳男子単杉原哲彦選手が優勝、第 27 回 1988 年（昭和 63 年）奈良県大会では杉原哲彦・三井裕組が 40 歳複で優勝。翌年第 28 回 1989 年（平成元年）香川県大会では壮年の部団体戦で全国３位となり、団体戦で初のメダル獲得となった。最近の大会では、第 56 回 2017 年（平成 29 年）福島県大会で三奈木正紀・村田泰己組が 60 歳男子複で優勝。第 58 回 2019 年（令和元年）長崎県大会で 65 歳男子複松本克芳・福田光博組が優勝。第 61 回 2022 年（令和４年）愛媛県大会では 70 歳男子単松本克芳選手、70 歳男子複で福永正一・松本克芳組が優勝。さらに第 62 回 2023 年（令和５年）北海道大会では松本克芳選手の男子 70 歳単２連覇があった。今年度の第 63 回 2024 年（令和６年）熊本大会では、一般女子単で重信萌夏選手が２位。70 歳男子単で福田光博選手、70 歳男子複で松本克芳・福田光博組が優勝を遂げており、全国の舞台での山口県勢の活躍が見られる。

【山口県教職員バドミントン連盟】

2024 年（令和６年）で山口県教職員大会が第 47 回開催となり、本連盟も 47 歳を迎えた。初代会長の植田博宣氏、初代理事長の三井裕氏をはじめとし、松本克芳氏、福永正一氏、福田光博氏など多くの先輩方のご尽力、そして、熱意とたゆみない努力により、今年も盛大に県教職員大会や中国教職員大会（山口大会）を開催することができた。

これからも本連盟が県協会と共に、ますます発展していくよう心より願っている。

理事長　中野未千尋

山口県実業団バドミントン連盟

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉
初代会長　永岡　得三（昭和 51 年～）
２代会長　西村　栄時（昭和 57 年）
３代会長　升守　一典（昭和 58 年～）
４代会長　岩田　　整（昭和 61 年～）
５代会長　笠井　　明（昭和 63 年～）
６代会長　広重　市郎（平成３年～）
７代会長　末廣　秀樹（平成 23 年～）
８代会長　平岡　英雄（平成 27 年～）

〈 歴代理事長 〉
初代理事長　松村　哲幸（昭和 51 年～）
２代理事長　末岡　通典（昭和 57 年）
３代理事長　善本　公志（昭和 58 年～）
４代理事長　三原　一郎（昭和 61 年～）
５代理事長　末廣　秀樹（昭和 63 年～）
６代理事長　吉川　直樹（平成 20 年～）
７代理事長　秋元　直幸（令和５年～）

実業団連盟発足前の昭和 34 年６月に第９回全日本実業団選手権大会に宇部興産（現 UBE）・山陽パルプ岩国工場（現日本製紙）が初出場を果たし、昭和 44 年に第１回中国実業団選手権大会が倉吉市で開催された。

昭和 50 年に中国実業団連盟が結成され、翌昭和 51 年に山陽国策パルプ（現日本製紙）・日新製鋼・宇部興産・下関大丸・下関市役所・林兼造船の 7 事業所の賛同を得て山口県実業団バドミントン連盟が設立された。

実業団として山口県・中国地区・全国でしのぎを削り、平成元年には山陽国策パルプが日本リーグ２部に参戦を決定した。その後山陽国策パルプ・宇部興産が全日本実業団大会でベスト 16 入りし全国でもその名を轟かせた

また、平成 17 年には宇部興産がチャレンジリーグに参戦し、平成 21 年にチャレンジリーグ優勝し入れ替え戦に勝利して平成 22 年に２部リーグに昇格。平成 23 年に２部リーグで優勝するも入れ替え戦で敗退し、それ以降２部に属し現在に至る。（現 S/J リーグⅡ）一方女子は昭和 56 年～平成元年までは日新製鋼や下関大丸が活躍をしたがそれ以降企業チームが低迷していた。山口国体を前に平成 22 年に西京銀行を母体とした ACT SAIKYO が参入し、山口県に神風を起こした。その年のチャレンジリーグでは初出場ながら優勝を飾り、平成 26 年には２部リーグを制し、S/J リーグ昇格を果たした。現在では上位 TOP4 を脅かす存在になっている。また、平成 29 年に三菱重工もチャレンジリーグ（現 S/J リーグⅢ）に参戦し現在に至る。

実業団は企業の理解と支援があってチームの活動が成り立つもので、現在は ACT SAIKYO・UBE・日本製紙・トクヤマ・周南市役所・東ソー・三菱重工・日立笠戸の８チームが加盟している。

役員



〈写真　平岡英雄会長〉

会　長　平岡　英雄
副会長　黒川　康弘
副会長　吉川　直樹
理事長　秋元　直幸（周南市役所）
副理事長山縣　真也（UBE）
理　事　米元　優樹（UBE）
理　事　髙橋　和也（日本製紙）
理　事　植野　敏行（トクヤマ）

理　事　古谷　　亮（三菱重工）
理　事　山崎　敦司（東ソー）
理　事　棟居　秀行（ACT SAIKYO）
理　事　鈴木　三大（日立笠戸）
監　事　吉川　応史（日本製紙）
事務局　中村　麻裕（ACT SAIKYO）



活動・経過

〈第 68 回全日本実業団選手権山口大会〉

平成 30 年に周南市・下松市を会場として全日本実業団大会を初誘致。県協会の全面協力と末廣秀樹氏、久次優氏のご尽力で盛大に大会を開催。

〈中国実業団大会〉

中国実業団大会は昭和 44 年に第 1 回大会が開催され、回を重ねること令和５年で 55 回となるが、第 1 回からの連続出場は中国全県からしても山口県の UBE チームのみ。

過去男子は宇部興産・山陽国策パルプ・徳山市役所（現周南市役所）、女子は山陽パルプ・下関市役所・日新製鋼・下関大丸・ACT SAIKYO が優勝している。



〈S/J リーグ〉

2022 大会は、ACT SAIKYO は６位、S/J リーグⅡで UBE２位、三菱重工は S/J リーグⅢに出場。



将来の展望

実業団チームは企業の経営状況と社員の採用の有無に左右され、長きにわたって継続が困難な場合がある。チーム事情は様々あると思うが、継続について実業団連盟も可能な限り支援を行う所存である。また学生からの経験者が地元企業に就職し、実業団チームという受け皿があり競技を続けられ、その後女性はレディースに男性はシニアプレイヤーとして、バドミントンが生涯スポーツの一因のファンクションでありたいと切望する。

理事長　秋元　直幸

高体連バドミントンの歩み

沿革・歴史

〈 歴代委員長 〉 平成９年以降

（平成９年～） ５年間
　永茂　勝弘（野田学園高校）

（平成14年～） ４年間
　佐々木　辰博（山口中央高校）

（平成18年～） ４年間
　松原　康則（柳井商工高校）

（平成22年～）12年間
　河野　強志（下関南高校）

（令和４年～）
　中嶋　良樹（下関南高校）

バドミントン競技が高体連に加入したのは昭和27年である。昭和30年代は下関西高校、下関南高校、山口県鴻城高校、山口高校、徳山高校、聖光高校、柳井商工高校の８校であった。現在（令和６年度）は、高体連バドミントン競技は、男子22校、女子25校が加盟し、県協会登録者数は、男子463人、女子437人と、少子化で生徒数が減少している中、加盟校数を維持、また、登録者数についてはこの25年で400名近く増加している（平成9年度男子217人、女子300人）。これもひとえに各学校において顧問の先生方を含め、山口県バドミントン協会関係者の丁寧な指導、普及活動の成果だと思っている。また、2003年には山口県山口市において第32回全国高校選抜バドミントン大会が開催され、多くの関係者皆様の多大なるご尽力により無事成功を収めた。

役員

委員長	中嶋　良樹	（下関南高校）
総　務	河野　強志	（下関商業高校）
	柳澤　秀明	（徳山高専）
競　技	松原　康則	（新南陽高校）
強　化	西本　剛	（山口県桜ケ丘高校）
会　計	中村　健太	（山口総合支援）

＜地区役員＞

岩柳地区　重信　萌夏　（柳井商工高校）
周南地区　福本　翔太　（華陵高校）
山防支部　上野　将太郎（山口高校）
宇部地区　堀之口　達也　（宇部鴻城高校）
下関地区　堀江　拓人　（下関西高校）

活動・経過

近年の活動状況を見ると、現在４月に中国高校山口県予選、６月に山口県高校総体、11月に山口県スポーツ大会と大きな大会を３回実施している。男子は柳井商工の活躍が続き、女子は中村女子・熊毛北から華陵へ、そして現在の柳井商工へとその活躍の中心は移り変わっている。特に、現在柳井商工女子は、学校対抗でインターハイ４連覇、全国選抜４連覇と輝かしい成績を収めており、個人対抗においても、優勝をはじめ多くの上位入賞を果たしている。

また、毎年、８月にはジュニア強化合宿、３月には経験者の部と高校から始めた選手の部を分けた１年生大会を開催するなどして、競技力強化と振興に努めている。

最近の全国大会・中国大会の活躍の様子を以下に記す。

【全国高校総体（インターハイ）】
　※西暦はすべて年度

・男子学校対抗
　ベスト８：柳井工業2004，柳井商工2021
・男子シングルス
　第３位：桐田和樹2014
・女子学校対抗
　優勝：柳井商工2021～2024（４連覇中）
　第３位：柳井商工2017，2019
・女子ダブルス
　優勝：明地陽菜・田口真彩（柳井商工）2021
・女子シングルス
　優勝：宮崎友花（柳井商工）2023，2024
　第３位：明地陽菜（柳井商工）2021
　　水津愛美（柳井商工）2021
　　砂川温香（柳井商工）2024

【全国選抜】
・男子学校対抗
ベスト８：柳井商工2014
・女子学校対抗
優勝：柳井商工2020～2024（５連覇中）
ベスト８：柳井商工2016，2017，2018
・女子個人対抗ダブルス
優勝：砂川温香・長廻優茉（柳井商工）2023
準優勝：新見萌芭・日野石杏（柳井商工）2021
中西香菜・西田優（柳井商工）2023
大津妃奈乃・中原心優（柳井商工）2024
第３位：岩永鈴・水津優衣（柳井商工）2016
・女子個人対抗シングルス
優勝：水津愛美（柳井商工）2020
明地陽菜（柳井商工）2021
宮崎友花（柳井商工）2022
準優勝：永田萌恵（柳井商工）2020
白川菜結（柳井商工）2023
第３位：岩永鈴（柳井商工）2016

【中国高校選手権大会】優勝のみ掲載
・男子学校対抗
柳井工業2002，2004、柳井商工2014，2015，2021
・男子個人対抗ダブルス
竹光・河野（柳井工業）2002、橋本・山平（柳井工業）2004、青見・田村（柳井商工）2009、飛高・藤本（柳井商工）2011、吉崎・桐田（柳井商工）2014、金丸・棟居（柳井商工）2019
・男子個人対抗シングルス
水津諒一（徳山）2000、竹光唯至（柳井工業）2002、桐田和樹（柳井商工）2013，2014、金丸純也（柳井商工）2019
・女子学校対抗
熊毛北2001，2006、柳井商工2016，2017，2021～2024
・女子個人対抗ダブルス
折中・白石（柳井商工）2017、長廻・松本（柳井商工）2019、新見・日野石（柳井商工）2022、長廻・砂川（柳井商工）2023，2024
・女子個人対抗シングルス
水津優衣（柳井商工）2017、鈴木沙也夏（柳井商工）2018、水津愛美（柳井商工）2019、白川菜結（柳井商工）2023、砂川温香（柳井商工）2024

【中国選抜大会】優勝のみ掲載
・男子学校対抗
柳井工業2002　柳井商工2008、2010、2013、2016、2019、2020
・男子個人対抗ダブルス
河野・山平康（柳井工業）2002、橋本・山平直（柳井工業）2003、飛高・藤本（柳井商工）2010、吉崎・桐田（柳井商工）2013、永田・増田（柳井商工）2020
・男子個人対抗シングルス
竹光唯至（柳井工業）2001、山平直輝（柳井工業）2002、増田翔（柳井商工）2020
・女子学校対抗
中村女子1999　柳井商工2016、2018～2023
・女子個人対抗ダブルス
辻・矢上（柳井商工）2013、岩永・水津（柳井商工）2017、松本・長廻（柳井商工）2018、金廣・長廻（柳井商工）2019、田口・明地（柳井商工）2021、吾妻・佐藤（柳井商工）2022、西田・中西（柳井商工）2023
・女子個人対抗シングルス
岩永鈴（柳井商工）2016、金廣美希（柳井商工）2018、水津愛美（柳井商工）2019、永田萌恵（柳井商工）2020、明地陽菜（柳井商工）2021、宮崎友花（柳井商工）2022、砂川温香（柳井商工）2023

将来の展望

現在の柳井商工の活躍は目を見張るものがある。これもひとえに、「山口県をバドミントン王国へ」のスローガンのもと、ジュニアから社会人にかけての連携・協働が上手くいっていること。また、柳井工業高校（現柳井商工高校）の卒業生で、現在、日本協会ジュニアナショナルチーム（U19）のコーチを務めておられる竹光唯至先生

の高い指導力や、その指導を求めて全国から優秀な選手が集まってきていることが大きな要因である。

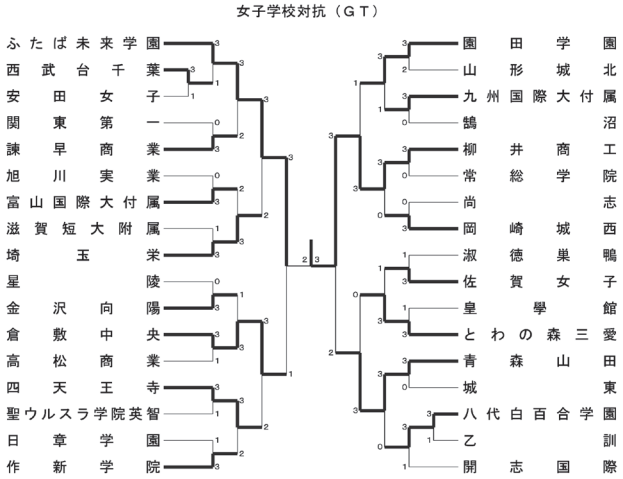
しかし、その一方で中学校の地域移行の開始や週２日以上の休養日の推奨など、ここ数年で部活動の在り方も変化してきている。そのため、年々高校からバドミントンを始めた生徒との競技力の差が開いてきているように感じる。また、中学校でバドミントン部に入部していたが、高校では違う部活動に入部するという生徒も少なくない。そのため、今後も高校部活動の普及・継続を図れるように、教員も競技力の向上だけでなく、バドミントンを通して生徒にどのような力を身につけさせたいかを今まで以上に考えていく必要がある。

そして、この記念誌が発刊される令和７年度には、全国総合体育大会（インターハイ）が40年ぶりに山口県で開催される。この大会を通じて、山口県バドミントンの盛り上がりを、さらに加速できるよう大会成功に努めていきたい。

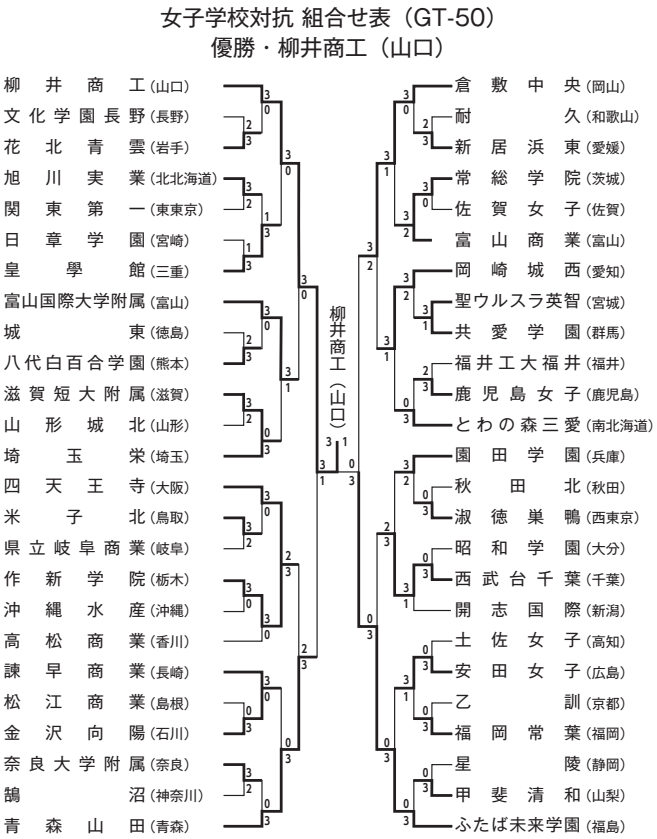
令和２度から世界中に大きな影響を与えた新型コロナウィルス感染症は、高校生の活動にも大きな影響を与え、令和２年２月28日～５月24日まで山口県の高校でも休校の措置が取られた。それに伴い、令和２年度の中国高校予選と山口県高校総体が中止を余儀なくされた。そのため、この年の３年生は最後の県大会を行うことなく引退することとなった。この時の生徒の残念そうな表情は今でも忘れることはできない。その後も、部活動の制限、無観客や応援の声出し禁止での大会など、今まで当たり前にできていたことができなくなった。現在では大会を以前のように部活動や大会の開催を行えるようになったが、これらの経験を通して、ただコロナ禍前と同じように活動を行うのではなく、さらに発展したものになるよう努めていきたい。

そして、コロナ禍においては、山口県バドミントン協会を始めとして、様々な方々の支援をいただいた。この場をお借りして感謝申し上げたい。

最後に、山口県バドミントン協会の創立75周年を心よりお喜び申し上げるとともに、バドミントン競技に日頃から熱心に取り組まれておられる関係者の皆様に心から敬意を表したい。



〈第 49 回全国選抜バドミントン選手権大会結果（福島県郡山市・福島市）（全国大会初優勝）〉



〈第 72 回全国高校総体結果(富山県高岡市)（全国高校総体初優勝）〉

専門委員長　中嶋　良樹

全国高等学校総合体育大会出場校・出場者一覧

回	年度		学校対抗	シングルス	シングルス	ダブルス	ダブルス
1	昭和25（1950）	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
2	昭和26（1951）	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
3	昭和27（1952）	男子	山口				
		女子	山口				
4	昭和28（1953）	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
5	昭和29（1954）	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
6	昭和30（1955）	男子	山口	長峰精一郎（山口）	山本　準（山口）	山本・森近（山口）	栗崎・松永（山口）
		女子	下関南	秋山瑞穂（下関南）	西村美保子（下関南）	秋山・松崎（下関南）	西村・谷野（下関南）
7	昭和31（1956）	男子	柳井商工	富永　武（柳井商工）	鍬原栄治（柳井商工）	久保田・堀（柳井商工）	富永・鍬原（柳井商工）
		女子	参加なし				
8	昭和32（1957）	男子	山口	宮内達雄（山口）		宮内・泉（山口）	
		女子	柳井商工	吉野早智子（柳井商工）		吉野・藤井（柳井商工）	
9	昭和33（1958）	男子	山口				
		女子	徳山				
10	昭和34（1959）	男子	柳井商工	小原　重信（山口）	岩本（柳井商工）	小原・三島（山口）	岩本・谷本（柳井商工）
		女子	下関南	明石（徳山）	光田（徳山）	小林・武信（徳山）	小室・山田（下関南）
11	昭和35（1960）	男子	山口	井藤（山口）	山田　熙（山口）	三島・右田（山口）	横田・倉橋（山口）
		女子	山口	中島ノリ子（下関南）	岡（山口）	池田・松本（徳山）	津森・中島（下関南）
12	昭和36（1961）	男子	山口	山田　熙（山口）	吉岡　淳（山口）	山田・田中（山口）	大内・吉岡（山口）
		女子	柳井商工	田房晶子（柳井商工）	三浦登美子（徳山）	小林・岡（山口）	上津原・堀田（下関南）
13	昭和37（1962）	男子	山口	吉岡　淳（山口）	林　道彦（山口）	吉岡・林（山口）	末廣・右田（山口）
		女子	徳山	野村靖子（徳山）	山崎和江（徳山）	野村・石田（徳山）	山崎・古谷（徳山）
14	昭和38（1963）	男子	柳井商工	二宮修三（柳井商工）	右田光宏（山口）	二宮・高橋（柳井商工）	右田・原田（山口）
		女子	柳井商工	貞安百合子（柳井商工）	守田友子（下関南）	伊藤・藤井（徳山）	平原・福岡（柳井商工）
15	昭和39（1964）	男子	山口	西元満晴（柳井商工）	塩谷俊次郎（柳井商工）	末廣・野村（山口）	能丸・松下（山口）
		女子	徳山	川向京子（柳井商工）	原田光子（徳山）	川向・藤田（柳井商工）	原田・藤井（徳山）
16	昭和40（1965）	男子	山口	松下健二（山口）	河添忠夫（柳井商工）	西本・宮崎（柳井商工）	石川・河添（柳井商工）
		女子	徳山	岸本邦子（高森）	木下美津子（下関南）	藤井・高松（徳山）	藤田・宮川（柳井商工）
17	昭和41（1966）	男子	山口	小倉和久（山口）	秋本　清（山口）	小倉・秋本（山口）	行友・小村（柳井商工）
		女子	下関南	西村和美（下関南）	福好雅子（下関南）	西村・角（下関南）	永田・福好（下関南）
18	昭和42（1967）	男子	柳井商工	宮田泰典（柳井商工）	広田哲男（山口）	宮田・萩原（柳井商工）	中村・宮地（下関商業）
		女子	下関南	松田文子（下関南）	土生由子（下関南）	渡辺・風間（下関南）	山本・東城（長府）
19	昭和43（1968）	男子	柳井商工	友弘純次（柳井商工）	中原清隆（柳井商工）	堀江・友弘（柳井商工）	中原・兼森（柳井商工）
		女子	下関南	柳村由紀子（柳井商工）	高橋由美（下関南）	柳村・釜山（柳井商工）	高橋・勝谷（下関南）
20	昭和44（1969）	男子	下関商業	利行好男（柳井商工）	坂本賢二（柳井商工）	和田・吉村（下関商業）	松田・樋口（下関中央工業）
		女子	下関南	浜田理恵子（下関南）	西田茂子（長府）	永田・浜田（下関南）	西田・藤本（長府）

21	昭和45 (1970)	男子	下関商業	坂本賢二（柳井商工）	富田正四郎（下関中央工業）	坂本・中原（柳井商工）	辻中・河村（山口）
		女子	高森	原田裕巳子（長府）	中山美代子（長府）	田中・野島（高森）	時田・山崎（高森）
22	昭和46 (1971)	男子	下関商業	城　保彦（柳井商工）	沖堀保雄（柳井商工）	城・沖堀（柳井商工）	上林・西本（柳井商工）
		女子	長府	門田満恵（長府）	礎部純子（高森）	門田・末岡（長府）	渡辺・中村（下関南）
23	昭和47 (1972)	男子	下関商業	竹中信行（下関中央工業）	橋本光義（下関商業）	竹中・渡辺（下関中央工業）	上林・末長（柳井工業）
		女子	下関商業	冨盛晶子（長府）	浅繁京子（長府）	島田・大石（下関商業）	大峯・寺本（高森）
24	昭和48 (1973)	男子	下関中央工業	永富正史（下関中央工業）	山本昭生（下関中央工業）	永富・山本（下関中央工業）	金田・上利（下関中央工業）
		女子	下関南	西川都子（長府）	武内睦美（下関商業）	山内・武内（下関商業）	多和・青木（下関南）
25	昭和49 (1974)	男子	下関商業	重永光弘（下関商業）	小林　実（山口）	水戸・重永（下関商業）	吉村・白石（下関商業）
		女子	徳山	田上裕子（下関南）	穂積繁子（下関商業）	武居・竹広（徳山）	田上・加戸（下関南）
26	昭和50 (1975)	男子	下関中央工業	白石　恒（下関商業）	瀬戸清志（下関中央工業）	瀬戸・竹中（下関中央工業）	白石・増山（下関商業）
		女子	下関商業	市野豊子（下関商業）	川上美由紀（下関商業）	市野・川上（下関中央工業）	柿本・楠（早鞆）
27	昭和51 (1976)	男子	柳井工業	宮川真二（下関中央工業）	平川京澄（柳井工業）	平川・内藤（柳井工業）	坂村・戸沢（下関中央工業）
		女子	下関南	野口奈津美（下関商業）	楠　幸恵（早鞆）	楠・山村（早鞆）	河野・林（下関南）
28	昭和52 (1977)	男子	柳井工業	喜良明文（柳井工業）	川原美信（柳井工業）	喜良・川原（柳井工業）	内田・山村（山口）
		女子	下関南	浜田真澄（柳井工業）	西川すが子（下関商業）	上利・穂積（下関商業）	國弘・横山（山口）
29	昭和53 (1978)	男子	山口	藤井明夫（山口）	岸田潤三（山口）	藤井・西村（山口）	岸田・吉村（山口）
		女子	下関南	井上雅美（下関南）	平井幸恵（下関南）	須田・中岡（下関南）	井上・平井（下関南）
30	昭和54 (1979)	男子	下関中央工業	伊藤　宏（山口）	大畑隆史（下関中央工業）	伊藤・原田（山口）	大畑・金子（下関中央工業）
		女子	下関南	今本真利子（柳井工業）	小林登世子（下関南）	今本・広兼（柳井工業）	川越・津村（長府）
31	昭和55 (1980)	男子	山口	村上弘明（柳井工業）	内山秀樹（柳井工業）	村上・内山（柳井工業）	松本・本間（山口）
		女子	早鞆	中原弘子（柳井工業）	岡村可奈江（早鞆）	中村・乾（下関南）	田畑・福島（下関南）
32	昭和56 (1981)	男子	柳井工業	杉山　覚（山口）	田原暢也（山口）	森永・尾園（柳井工業）	末長・高橋（柳井工業）
		女子	岩陽	藤中修子（岩陽）	笠井早苗（岩陽）	笠井・岩尾（岩陽）	藤中・友兼（岩陽）
33	昭和57 (1982)	男子	柳井工業	沖　貞雄（柳井工業）	田原暢也（山口）	沖・高橋（柳井工業）	田原・三戸（山口）
		女子	岩陽	守川洋子（岩陽）	溝辺恵子（岩陽）	中司・高月（下関南）	守川・溝辺（岩陽）
34	昭和58 (1983)	男子	柳井工業	高橋和也（柳井工業）	沖　貞雄（柳井工業）	沖・高橋和（柳井工業）	高橋祐・田中（柳井工業）
		女子	下関南	小笠原和子（岩陽）	俵　まり（下関南）	俵・渡辺（下関南）	西田・清水（徳山）
35	昭和59 (1984)	男子	柳井工業	田中伸幸（柳井工業）	河野強志（徳山）	山崎・田中（柳井工業）	河野・広谷（徳山）
		女子	下関南	俵　まり（下関南）	渡辺真理子（下関南）	俵・渡辺（下関南）	石川・村田（山口）
36	昭和60 (1985)	男子	柳井工業	田中伸幸（柳井工業）	河野強志（徳山）	田中・森本（柳井工業）	河野・広谷（徳山）
		女子	下関南	村田浩子（新南陽）	泉田康子（下関西）	沖村・楠瀬（長府）	有馬・末政（徳山）
37	昭和61 (1986)	男子	柳井工業	内富　進（柳井工業）	田内正彦（新南陽）	内富・金子（柳井工業）	曽我部・寺尾（下関中央工業）
			下関中央工業	近藤正俊（柳井工業）	平上満義（下関中央工業）	平上・金子（下関中央工業）	吉村・白石（下関商業）
		女子	高森	村田浩子（新南陽）	田辺佳代（高森）	田辺・松原（高森）	藤井・叶井（高森）
			新南陽	藤井孝子（高森）	松原久美子（高森）	田中・鶴田（下関南）	村田・西村（新南陽）
38	昭和62 (1987)	男子	柳井工業	柳　宏幸（柳井工業）	田中貴光（柳井工業）	吉岡・柳（柳井工業）	田中・近藤（柳井工業）
		女子	高森	藤井孝子（高森）	末政由美子（新南陽）	藤井・寺嶋（高森）	内田・槙埜（下関南）
39	昭和63 (1988)	男子	柳井工業	柳　宏幸（柳井工業）	吉岡哲夫（柳井工業）	吉岡・柳（柳井工業）	内富・遠藤（柳井工業）
		女子	高森	藤井美佐子（高森）	山東美穂（徳山）	藤井・西町（高森）	山東・工藤（徳山）
40	平成1 (1989)	男子	柳井工業	棟居秀行（柳井工業）	遠藤正徳（柳井工業）	遠藤・木村（柳井工業）	棟居・武内（柳井工業）
		女子	高森	藤井美佐子（高森）	西町由紀（高森）	藤井・西町（高森）	清田・松野（下関商業）

41	平成2 (1990)	男子	柳井工業	棟居秀行（柳井工業）	武内敏寿（柳井工業）	棟居・武内（柳井工業）	秋元・生島（徳山工業）
		女子	高森	西町由紀（高森）	村田悦子（高森）	西町・村田み（高森）	村田悦・増田（高森）
42	平成3 (1991)	男子	柳井工業	柳　孝三（柳井工業）	相本浩一（柳井工業）	相本・中山（柳井工業）	森野・山根（下関中央工業）
		女子	柳井工業	村田みつえ（高森）	木村真澄（柳井工業）	村田・桂（高森）	木村・中島（柳井工業）
43	平成4 (1992)	男子	下関中央工業	柳　孝三（柳井工業）	中山　整（柳井工業）	柳・中山（柳井工業）	内田・中村（下関中央工業）
		女子	柳井工業	村田みつえ（高森）	木村真澄（柳井工業）	木村・中島（柳井工業）	山野井・池上（柳井工業）
44	平成5 (1993)	男子	下関中央工業	中村淳一（下関中央工業）	内田英樹（下関中央工業）	内田・中村（下関中央工業）	吉村・末岡（柳井工業）
		女子	山口中央	松田亜希子（長府）	小野妙子（山口中央）	小野・前田（山口中央）	松田・伊藤（長府）
45	平成6 (1994)	男子	柳井工業	米川真司（柳井工業）	山野井幸治（柳井工業）	山田・松原（下関中央工業）	山野井・米川（柳井工業）
		女子	柳井工業	杉村紀子（華陵）	蔵成路恵（山口中央）	吉村・松中（柳井工業）	蔵成・阿部（山口中央）
46	平成7 (1995)	男子	下関中央工業	立石恵介（下関中央工業）	長岡尚樹（西京）	立石・山元（下関中央工業）	長岡・青木（西京）
		女子	柳井工業	松中満美（柳井工業）	西本慶子（柳井工業）	松中・西本（柳井工業）	諏佐・谷川（中村女子）
47	平成8 (1996)	男子	野田学園	米川真司（柳井工業）	藤井経久（山口）	米川・中本（柳井工業）	藤井・中原（山口）
		女子	柳井工業	西本慶子（柳井工業）	宮崎彩子（下関南）	西本・河邨（柳井工業）	有森・青見（柳井工業）
48	平成9 (1997)	男子	西京	中原利通（山口）	青木昌彦（西京）	村松・宮岡（野田学園）	渡邊・小西（下関中央工業）
		女子	中村女子	三好紗也香（山口中央）	川田弘美（山口中央）	稲子田・森永（中村女子）	三好・川田（山口中央）
49	平成10 (1998)	男子	山口	坂本忠昭（山口）	竹本圭吾（山口）	坂本・竹本（山口）	國重・磯部（西京）
		女子	中村女子	森永裕美（中村女子）	川田弘美（山口中央）	川田・川副（山口中央）	森永・中村（中村女子）
50	平成11 (1999)	男子	山口	竹本圭吾（山口）	坂本忠昭（山口）	坂本・竹本（山口）	山根・岩田（山口）
		女子	山口中央	中村貴美子（中村女子）	中原千雅（山口中央）	三輪・中村（中村女子）	川副・中原（山口中央）
51	平成12 (2000)	男子	柳井工業	竹光章浩（柳井工業）	竹光唯至（柳井工業）	江田・浅原（下関中央工業）	山縣・石渡（下関中央工業）
		女子	熊毛北	中村貴美子（中村女子）	松繁依里（熊毛北）	中村・西村（中村女子）	宇多村・土田（山口）
52	平成13 (2001)	男子	柳井工業	竹光章浩（柳井工業）	竹光唯至（柳井工業）	竹光・竹光（柳井工業）	内藤・米澤（柳井工業）
		女子	熊毛北	松繁依里（熊毛北）	末長夏樹（熊毛北）	松繁・松尾（熊毛北）	末長夏・末長南（熊毛北）
53	平成14 (2002)	男子	下関中央工業	竹光唯至（柳井工業）	松尾光平（柳井工業）	三﨑・山縣（下関中央工業）	竹光・河野（柳井工業）
		女子	熊毛北	松尾杏澄（熊毛北）	林　幸代（中村女子）	松尾・末長南（熊毛北）	林・藤山（中村女子）
54	平成15 (2003)	男子	柳井工業	山平直輝（柳井工業）	松尾光平（柳井工業）	河野・山平康（柳井工業）	橋本・山平直（柳井工業）
		女子	熊毛北	末長　南（熊毛北）	越智ひとみ（熊毛北）	末長・川崎（熊毛北）	安野・藤山（中村女子）
55	平成16 (2004)	男子	柳井工業	橋本侑二（柳井工業）	松尾光平（柳井工業）	山平・橋本（柳井工業）	松尾・髙柳（柳井工業）
		女子	熊毛北	越智ひとみ（熊毛北）	藤井綾香（熊毛北）	越智・川崎（熊毛北）	花本・逸見（熊毛北）
56	平成17 (2005)	男子	柳井工業	河村光将（柳井工業）	高松哲平（柳井工業）	河村・高松（柳井工業）	秋友・梯（柳井工業）
		女子	熊毛北	藤井綾香（熊毛北）	花本陽菜（熊毛北）	花本奈・逸見（熊毛北）	藤井・河村（熊毛北）
57	平成18 (2006)	男子	柳井工業	吉本直樹（柳井工業）	石原大資（柳井工業）	石原・吉本（柳井工業）	上原・鈴木（柳井工業）
		女子	熊毛北	藤井綾香（熊毛北）	逸見雪乗（熊毛北）	逸見・藤井（熊毛北）	河村・鈴木（熊毛北）
58	平成19 (2007)	男子	柳井工業	吉本直樹（柳井商工）	江藤真二（山口県鴻城）	吉本・上原（柳井工業）	田村・内富（徳山工業）
		女子	熊毛北	花本陽菜（熊毛北）	河村彩香（熊毛北）	鈴木・河村彩（熊毛北）	花本・河村冴（熊毛北）
59	平成20 (2008)	男子	柳井商工	青見将吾（柳井商工）	田村　翼（柳井商工）	青見将・青見領（柳井商工）	秋友・田村（柳井商工）
		女子	熊毛北	三上亜砂美（山口県鴻城）	河村彩香（熊毛北）	鈴木・河村（熊毛北）	兼清・濱田（熊毛北）
60	平成21 (2009)	男子	柳井商工	青見　領（柳井商工）	田村　翼（柳井商工）	青見・田村（柳井商工）	秋友・保木（柳井商工）
		女子	熊毛北	濱田有希子（熊毛北）	松本百里香（柳井商工）	豊重・松本（柳井商工）	兼清・濱田（熊毛北）
61	平成22 (2010)	男子	柳井商工	飛高健太郎（柳井商工）	保木伸吾（柳井商工）	保木・飛高（柳井商工）	藤山・瀬島（徳山高専）
		女子	華陵	河村美咲（徳山高専）	松本百里香（柳井商工）	古城・河村（徳山高専）	坂口・片山（華陵）

62	平成23 (2011)	男子	柳井商工	飛高健太郎（柳井商工）	藤本亮汰（柳井商工）	飛高・藤本（柳井商工）	桐田・近本（柳井商工）
		女子	華陵	吉松ことみ（華陵）	橋本裕里　（下関南）	坂口・片山（華陵）	藤田・水津（華陵）
63	平成24 (2012)	男子	柳井商工	桐田啓吾（柳井商工）	桐田和樹（柳井商工）	桐田圭・近本（柳井商工）	古川・桐田和（柳井商工）
		女子	柳井商工	重信萌夏　（柳井商工）	上野貴瑛　（華陵）	辻・矢上（柳井商工）	重信・福本（柳井商工）
64	平成25 (2013)	男子	柳井商工	桐田和樹（柳井商工）	古川優太（柳井商工）	古川・桐田（柳井商工）	岩永・上阪（柳井商工）
		女子	柳井商工	福本涼香　（柳井商工）	重信萌夏　（柳井商工）	重信・福本（柳井商工）	辻・矢上（柳井商工）
65	平成26 (2014)	男子	柳井商工	桐田和樹（柳井商工）	岩永　廉（柳井商工）	吉崎・桐田（柳井商工）	岩永・上阪（柳井商工）
		女子	柳井商工	重信萌夏　（柳井商工）	辻　瑞貴　（柳井商工）	重信・福本（柳井商工）	辻・矢上（柳井商工）
66	平成27 (2015)	男子	柳井商工	岩永　廉（柳井商工）	上阪時歩（柳井商工）	上阪・岩永（柳井商工）	折中・山下（柳井商工）
		女子	柳井商工	岩永　鈴　（柳井商工）	水津優衣（柳井商工）	永田・岩永（柳井商工）	西村・新田（柳井商工）
67	平成28 (2016)	男子	柳井商工	森永雅弘（柳井商工）	澄川考志（柳井商工）	森永・木村（柳井商工）	亀田・辻（柳井商工）
		女子	柳井商工	岩永　鈴（柳井商工）	水津優衣（柳井商工）	岩永・水津（柳井商工）	折中・宮内（柳井商工）
68	平成29 (2017)	男子	柳井商工	福間璃来（柳井商工）	長友壮志（西京）	澄川・長村（柳井商工）	栗木・福間（柳井商工）
		女子	柳井商工	水津優衣（柳井商工）	岩永　鈴（柳井商工）	岩永・水津（柳井商工）	折中・白石（柳井商工）
69	平成30 (2018)	男子	柳井商工	栗木洸太（柳井商工）	福間璃来（柳井商工）	栗木・福間（柳井商工）	長村・棟居（柳井商工）
		女子	柳井商工	淺井和奏（柳井商工）	長廻真知（柳井商工）	淺井・日野（柳井商工）	金廣・松本（柳井商工）
70	令和１ (2019)	男子	柳井商工	金丸純也（柳井商工）	末元千優（柳井商工）	末元・高村（柳井商工）	棟居・金丸（柳井商工）
		女子	柳井商工	水津愛美（柳井商工）	鈴木沙也夏（柳井商工）	長廻・松本（柳井商工）	日野・西村（柳井商工）
71	令和２ (2020)	男子	新型コロナ感染症感染拡大のため大会中止				
		女子					
72	令和３ (2021)	男子	柳井商工	増田　翔（柳井商工）	永田拓己（柳井商工）	永田・増田（柳井商工）	大野・本田（柳井商工）
		女子	柳井商工	水津愛美（柳井商工）	明地陽菜（柳井商工）	明地・田口（柳井商工）	水津・新見（柳井商工）
73	令和４ (2022)	男子	柳井商工	中村陵雅（柳井商工）	長岡敏毅（柳井商工）	中山・中村（柳井商工）	前田・生田（柳井商工）
		女子	柳井商工	明地陽菜（柳井商工）	宮崎友花（柳井商工）	明地・田口（柳井商工）	新見・日野石（柳井商工）
74	令和５ (2023)	男子	柳井商工	中山康平（柳井商工）	中村陵雅（柳井商工）	中山・中村（柳井商工）	生田・松本（柳井商工）
		女子	柳井商工	宮崎友花（柳井商工）	白石菜結（柳井商工）	田口・宮崎（柳井商工）	吾妻・佐藤（柳井商工）
75	令和６ (2024)	男子	柳井商工	河村匠悟（桜ケ丘）	嶋田圭佑（柳井商工）	木村・立脇（柳井商工）	吉高・沖堀（柳井商工）
		女子	柳井商工	宮崎友花（柳井商工）	砂川温香（柳井商工）	砂川・長廻（柳井商工）	西田・中西（柳井商工）

中体連バドミントンの歩み

沿革・歴史

昭和30年代　県下最初のバドミントン部が日新中に創部され、下関市中体連に加入。

昭和55年　山口県中体連に加入し、バドミントン競技として第１回の県大会を実施。参加校は日清中・彦島中・玄洋中・安岡中・大殿中・須々万中の６校。

昭和55年　第１回中国中学校選手権大会が岡山県で実施され、シングルスで沖貞雄（須々万中）、ダブルスで高橋和也・松原康則組（須々万中）が優勝し全国大会に出場。

昭和62年　第８回中国中学校選手権大会の男子団体で浅江中が山口県勢初の優勝を遂げた。

平成元年　山口市で全国中学校選手権大会を開催。男子団体で須々万中がベスト８に、女子シングルスでも村田みつえ（串中）がベスト８。

平成８年　第17回中国中学校選手権大会の女子団体で鴻南中が山口県勢初の優勝を遂げた。

平成22年　第31回中国中学校選手権大会の女子団体で柳井中が山口県勢として14年ぶりに優勝を遂げた。

平成26年　第35回中国中学校選手権大会の男子団体で柳井中が山口県勢として22年ぶりに優勝を遂げた。

平成30年　全国中学校選手権大会を山口市で開催。女子シングルスで金廣真季（柳井中）が３位入賞。

令和元年　全国中学校選手権大会で、明地陽菜（柳井中）が女子シングルスで山口県勢初の優勝を果たした。

令和２年　新型コロナウイルス感染拡大防止のため大会が中止となった。

令和３年　全国中学校選手権大会で、宮崎友花（柳井中）が女子シングルスで優勝。

令和５年　地域スポーツ団体が中体連に加盟。

令和５年　全国中学校選手権大会で、阿波芽衣咲（柳井中）が女子シングルスで優勝。

〈 歴代専門委員長 〉

（昭和55年～）12年間
　尾上　忠
（平成５年～）４年間
　津守　信治
（平成９年～）10年間
　野村　義徳
（平成19年～）５年間
　加藤　高広
（平成24年～）２年間
　林　淳生
（平成26年～）６年間
　佐藤　雄吾
（令和２年～現在）５年間
　平岡　大

現状と将来の展望

令和５年度から地域スポーツ団体の中体連参加が可能となり、現在、中学校の部活動と地域スポーツ団体が入り混じって大会を実施している。これは国が進める部活動の地域移行の一環として実施され、令和８年度には県内全ての地域で土日の部活動は活動しないこととなる予定である。また、市によっては平日の部活動も地域移行する予定である。これにより、これまでバドミントン競技の普及を担ってきた中学校の部活動が衰退し、地域スポーツ団体がその役割を担うこととなる。ただし、この変革には、指導者や練習場所の確保、保護者の費用負担など数多くの問題点が指摘されており、山口県及び各市郡のバドミントン協会の協力とリーダーシップが必要不可欠であると思われる。ぜひ、この地域移行をチャンスと捉えていただき、バドミントン競技の普及と競技力向上に関係者のご協力を仰ぎたいと考えている。

最後に、山口県バドミントン協会の創立75周年を心よりお喜び申し上げます。

専門委員長　平岡　大

《男子》山口県中学校バドミントン選手権大会　栄光の記録

種目／回	団体			シングルス			ダブルス		
	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位
第1回	須々万	川中	彦島	沖	坂本	中村(彦島)	高橋・松原	藤田・小河	加藤・堀(彦島)
			日新	(須々万)	(日新)	為近(川中)	(須々万)	(川中)	金子・田村(彦島)
第2回	日新	須々万	彦島	田中	平上	磯辺(彦島)	中村・上野	河野・広谷	長谷川・林(川中)
			川中	(須々万)	(日新)	山本(川中)	(日新)	(須々万)	江木・和田(玄洋)
第3回	須々万	川中	大殿	田中	尾上	内富(下松)	河野・広谷	中村・古川	吉田・品川(川中)
			彦島	(須々万)	(日新)	田内(須々万	(須々万)	(日新)	安田・池本(川中)
第4回	須々万	川中	日新	田内	平上	林(川中)	村田・嘉津	岸村・津村	金子・吉村(川中)
			浅江	(須々万)	(日新)	品川(川中)	(須々万)	(須々万)	大西・岡崎(川中)
第5回	須々万	彦島	川中	田中	金子	上野(日新)	岡村・白石	中村・松尾	田村・田村(須々万)
			大殿	(須々万)	(川中)	緒方(彦島)	(川中)	(彦島)	斉藤・大柳(川中)
第6回	須々万	日新	大殿	河本	虎谷	井上(日新)	藤井・佐藤	大内・井上	泉谷・砂川(浅江)
			浅江	(太華)	(大殿)	茨木(川中)	(須々万)	(浅江)	村田・広瀬(日新)
第7回	垢田	彦島	浅江	遠藤	松岡	中村(浅江)	倉永・平岡	品川・山村	秋元・山東(須々万)
			須々万	(須々万)	(垢田)	犬塚(日新)	(彦島)	(垢田)	浜崎・吉野(日新)
第8回	浅江	宮野	彦島	生島	藤原	緒方(彦島)	秋元・山東	友口・藤本	岡田・徳重(大殿)
			垢田	(太華)	(垢田)	尾上(宮野)	(須々万)	(浅江)	太田・山内(彦島)
第9回	宮野	彦島	垢田	永尾	伊藤	高崎(宮野)	山田・松岡	伊川・宇津巻	有園・久保(彦島)
			須々万	(須々万)	(宮野)	新田(川中)	(垢田)	(宮野)	友口・西村(垢田)
第10回	須々万	堀	垢田	河村	吉本	末岡(鴻南)	睦田・森広	藤本・藤井	江本・吠木(垢田)
			宮野	(須々万)	(宮野)	浦吉(川中)	(須々万)	(須々万)	岡藤・井上(宮野)
第11回	垢田	潟上	宮野	長広	河村	梅田(宮野)	内田・中村	金山・波田	児玉・田村(宮野)
			大殿	(潟上)	(末武)	入江(垢田)	(垢田)	(垢田)	生田・宮崎(潟上)
第12回	垢田	末武	潟上	増田	江本	吉村(宮野)	瀬良・菅原	末岡・三井	山田・宮崎(垢田)
			宮野	(末武)	(垢田)	塩田(浅江)	(潟上)	(鴻南)	石田・長岡(鴻南)
第13回	末武	宮野	鴻南	増田	長岡	米川(下松)	日塚・濱田	大藤・白石	守永・宮部(潟上)
			潟上	(末武)	(鴻南)	田中(末武)	(末武)	(垢田)	徳重・峰(大殿)
第14回	末武	潟上	宮野	米川	藤井	松崎(潟上)	石田・長嶺	岡本・後小路	岸本・清水(浅江)
			浅江	(下松)	(鴻南)	中島(潟上)	(末武)	(潟上)	大屋・藤本(宮野)
第15回	宮野	鴻南	潟上	中原	石田	中野(鴻南)	西村・光永	村松・宮岡	光永・中尾(潟上)
			大殿	(鴻南)	(末武)	松村(佐波)	(垢田)	(宮野)	杉村・久保田(須々万)
第16回	宮野	大殿	鴻南	石田	立石	野村(潟上)	久野・脇山	工野・片山	片岡・藤井(熊毛)
			末武	(末武)	(垢田)	田村(鴻南)	(末武)	(宮野)	石川・加藤(鴻南)
第17回	鴻南	潟上	宮野	水津	坂本	福嶋(鴻南)	岩田・山根	瀬戸・片山	磯部・堀之口(潟上)
			大殿	(太華)	(宮野)	柳(鴻南)	(鴻南)	(大殿)	池田・豊田(宮野)
第18回	宮野	大殿	熊毛	水津	沖本	小野(宮野)	常久・長廣	池田・宮原	長見・森重(宮野)
			潟上	(太華)	(末武)	坂田(熊毛)	(潟上)	(大殿)	花田・竹光(末武)
第19回	末武	大殿	宮野	竹光	齊藤	泉屋(鴻南)	浅原・礒部	米澤・佐々木	多田・竹光(末武)
			二島	(末武)	(潟上)	山縣(厚南)	(二島)	(大殿)	内藤・松田(末武)
第20回	彦島	二島	末武	竹光タ	山縣ケ	松田(彦島)	田村・波多野	徳田・勝谷	林・十川(熊毛)
			鴻南	(末武)	(厚南)	三崎(彦島)	(鴻南)	(宮野)	石村・尾木(大殿)

種目 / 回	団体			シングルス			ダブルス		
	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位
第21回	末武	彦島	山の田	松尾	山平	河野(川上)	福田・奥	田中・吉冨	熊野・橋本(末武)
			鴻南	(浅江)	(日積)	高柳(下松)	(彦島)	(山の田)	岡本・吉松(宮野)
第22回	末武	華陽	鴻南	松尾	橋本	山平(日積)	北乗・脇	下山・吉武	兼行・有間(末武)
			潟上	(浅江)	(末武)	高柳(下松)	(潟上)	(華陽)	中繁・山本(末武)
第23回	久保	末武	二島	江藤	河村	上田(久保)	梯・高松	金近・松下	藤次・宝迫(浅江)
			宮野	(宮野)	(末武)	吉本(柳井南)	(久保)	(久保)	松中・石原(日積)
第24回	末武	久保	鴻南	吉本	石原	伊藤(柳井南)	石川・深海	馬庭・林亮	藤本・青木(鴻南)
			大内	(柳井南)	(日積)	上原(柳井南)	(久保)	(末武)	山本・林克(末武)
第25回	末武	久保	鴻南	吉本	上原	伊藤(柳井南)	瀬島・金近	内冨・臼井	林・津田(末武)
			大内	(柳井南)	(柳井南)	鈴木(桃山)	(末武)	(久保)	林・前田(鴻南)
第26回	末武	鴻南	大内	伊藤	青見	田村(宮野)	河村・田村	青木・守永	清水・妹尾(末武)
			浅江	(柳井南)	(柳井南)	青見(柳井南)	(末武)	(鴻南)	西山・小池(末武)
第27回	末武	久保	平川	青見	田村	飛高(華陽)	秋友・重森	田村・岡嵜	山本・杉村(熊毛)
			二島	(柳井南)	(宮野)	保木(柳井)	(末武)	(末武)	森永・森永(島田)
第28回	柳井	久保	末武	保木	上阪	飛高(華陽)	重森・瀬島	原田・北村	藤山・藤本(柳井)
			島田	(柳井)	(久保)	近本(佐波)	(末武)	(二島)	伊藤・白石(平川)
第29回	末武	島田	平川	飛高	桐田	石本(平川)	瀬島・玉野	藤本・近本	伊藤・白石(平川)
			二島	(華陽)	(久保)	岡田(宮野)	(末武)	(柳井)	森永・四方田(島田)
第30回	柳井	末武	久保	桐田	近本	岡田(宮野)	金井・村上	長村・西本	三浦・白上(佐々並)
			佐々並	(久保)	(柳井)	横沼(二島)	(末武)	(柳井)	保木・泉(柳井)
第31回	末武	柳井	久保	桐田	吉川	岩永(柳井)	村上・山下	内田・福永	兼光・古川(浅江)
			平川	(久保)	(白石)	筒井(山の田)	(末武)	(平川)	石山・田代(平川)
第32回	柳井	佐々並	長成	桐田	岩永	蔵本(菊川)	吉崎・逑金	山下・折中	長尾・宮本(長成)
			久保	(久保)	(柳井)	上阪(久保)	(柳井)	(柳井)	河口・村上(末武)
第33回	柳井	佐々並	内日	岩永	田中	上阪(久保)	山下・折中	永田・美村	村上・田村(末武)
			末武	(柳井)	(大殿)	亀田(安岡)	(柳井)	(佐々並)	長友・藤川(柳井)
第34回	柳井	島田	明木	長友	森永	木村(高千帆)	藤川・辻	河口・片山	美村・刀祢(明木)
			末武	(柳井)	(島田)	亀田(安岡)	(柳井)	(末武)	片岡・谷國(末武)
第35回	柳井	明木	久保	長友	福間	砂原(東岐波)	藤川・辻	美村・刀祢	片岡・福本(末武)
			末武	(柳井)	(潟上)	木原(明木)	(柳井)	(明木)	浅田・池田(久保)

《女子》山口県中学校バドミントン選手権大会　栄光の記録

種目 / 回	団体			シングルス			ダブルス		
	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位
第1回	玄洋	川中	安岡	矢野	山本	岸野(川中)	大藤・藤村	原・諸戸	楯・杉(日新)
			日新	(玄洋)	(玄洋)	渡辺(川中)	(川中)	(川中)	古山・佐伯(日新)
第2回	川中	大殿	日新	俵	渡辺	熊野(日新)	徳本・堀	酒田・村田	坂本・鶴田(安岡)
			玄洋	(川中)	(川中)	永田(玄洋)	(大殿)	(川中)	寺尾・大久保(日新)
第3回	須々万	大殿	日新	村田	泉田	堀(大殿)	遠藤・末政	鹿本・藤本	西村・中本(川中)
			川中	(須々万)	(玄洋)	宮本(日新)	(須々万)	(大殿)	坂口・幾度(川中)
第4回	須々万	安岡	大殿	村田	松尾	山田(川中)	鹿本・高山	鶴田・藤本	松原・藤井(須々万)
			彦島	(須々万)	(彦島)	三木(安岡)	(大殿)	(安岡)	楠瀬・田中(彦島)
第5回	須々万	大殿	山の田	浦吉	犬塚	徳本(大殿)	藤井・末政	内田・西田	長田・白石(山の田)
			安岡	(川中)	(日新)	矢野(大殿)	(須々万)	(安岡)	有光・下川(安岡)
第6回	大殿	安岡	垢田	浦吉	山東	山下(玄洋)	矢野・江本	首藤・中原	磯部・林(垢田)
			川中	(川中)	(須々万)	辻(太華)	(大殿)	(安岡)	塩見・茨木(大殿)
第7回	大殿	安岡	垢田	西町	藤井	田上(川中)	古里・原田	吉川・福田	清田・山田(安岡)
			浅江	(垢田)	(須々万)	辻(太華)	(大殿)	(浅江)	石井・池田(大殿)
第8回	垢田	熊毛	須々万	西町	村田	辻(太華)	徳本・貞森	石川・山本	福元・清田(熊毛)
			大殿	(垢田)	(須々万)	多田(熊毛)	(大殿)	(大殿)	磯部・福島(垢田)
第9回	宮野	大殿	安岡	佐藤	村田	伊藤(宮野)	田中・井上	加藤・木戸	瀬口・田中(宮野)
			串	(須々万)	(串)	江見(山の田)	(大殿)	(彦島)	岡本・平田(鴻南)
第10回	大殿	須々万	宮野	村田	三井	木下(浅江)	山根・橋本	和田・原	松田・松原(須々万)
			串	(串)	(鴻南)	鮎川(垢田)	(大殿)	(宮野)	吉原・新田(浅江)
第11回	大殿	須々万	熊毛	久保田	中島	野村(串)	小野・前田	秋元・山崎	中山・入屋(大殿)
			潟上	(須々万)	(太華)	岡屋(潟上)	(大殿)	(須々万)	末広・小熊(浅江)
第12回	大殿	浅江	山の田	杉村	蔵成	河野(大殿)	宮原・脇	田中・縄田	蔵本・貞森(大殿)
			鴻南	(須々万)	(平川)	弘中(大殿)	(大殿)	(鴻南)	宮内・川久保(山の田)
第13回	大殿	山の田	鴻南	岡崎	属	村田(垢田)	谷川・吉岡	宮崎・和田	川本・岩城(平川)
			須々万	(浅江)	(大殿)	武波(鴻南)	(鴻南)	(山の田)	恩田・田中(山の田)
第14回	浅江	大殿	鴻南	河邨	矢田部	米澤(大殿)	松西・小野原	林・廣中	宮崎・宮下(垢田)
			宮野	(串)	(鴻南)	末永(宮野)	(大殿)	(大殿)	森岡・田原(垢田)
第15回	大殿	末武	山の田	古川	稲子田	石田(大殿)	米澤・三好	脇山・宮島	寺田・沖満(大殿)
			鴻南	(末武)	(鴻南)	諏佐(潟上)	(大殿)	(末武)	池川・大田(山の田)
第16回	大殿	鴻南	末武	中村	中邑	河上(鴻南)	川田・森永	伊藤・大村	竹光・藤井(末武)
			山の田	(末武)	(大殿)	金澤(鴻南)	(鴻南)	(大殿)	花田・島田(末武)
第17回	鴻南	大殿	末武	藤井	中末	河上(鴻南)	三輪・大西	川副・中野	木村・中原(鴻南)
			宮野	(末武)	(大殿)	山賀(久保)	(大殿)	(鴻南)	岡・田中(宮野)
第18回	久保	大殿	平川	中村	末永	佐川(上宇部)	山崎・竹内	久次・松繁	柴田・木村(大殿)
			浅江	(常盤)	(大殿)	松尾(浅江)	(常盤)	(久保)	寺本・白石(常盤)
第19回	浅江	久保	常盤	松繁	松尾	梅田(周陽)	宇多村・松岡	山崎・竹内	土田・原田(鴻南)
			大殿	(久保)	(浅江)	近藤(末武)	(大殿)	(常盤)	末長・林(浅江)
第20回	浅江	華陽	久保	藤山	松尾	末長(浅江)	佐々木・林	中村・横沼	山方・倉吉(大殿)
			潟上	(二島)	(浅江)	岡田(鴻南)	(常盤)	(二島)	脇・杉山(潟上)

種目 / 回	団体			シングルス			ダブルス		
	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位	優勝	第2位	第3位
第21回	二島	大殿	鴻南	藤山	末長	中本(浅江)	中村・横沼	石津・徳本	中村・高橋(常盤)
			潟上	(二島)	(浅江)	高橋(鴻南)	(二島)	(大殿)	藤野・安野(鴻南)
第22回	潟上	末武	二島	紙川	横沼	道中(二島)	川崎・渡邊	岡崎・原田	吉野・登根(玄洋)
			華陽	(東岐波)	(二島)	上田(華陽)	(潟上)	(福川)	戸高・有福(玄洋)
第23回	浅江	華陽	末武	紙川	増原	佐伯(二島)	上原・弘津	花本・山下	安達・松原(華陽)
			潟上	(東岐波)	(末武)	岡村(華陽)	(柳井南)	(浅江)	田中・逸見(浅江)
第24回	浅江	末武	鴻南	弘津	沖堀	花本(浅江)	河村・鈴木	江山・徳永	逸見・山下(浅江)
			大内	(柳井南)	(柳井)	藤井(久保)	(末武)	(大内)	野津・村田(潟上)
第25回	末武	浅江	大内	花本	瀬戸口	逸見(浅江)	河村・鈴木	神部・田中	永末・山根(大内)
			潟上	(浅江)	(西岐波)	河村(末武)	(末武)	(浅江)	木本・藤野(潟上)
第26回	末武	浅江	潟上	逸見	河村	瀬戸口(西岐波)	鈴木・久保	神部・田中	藤井・新(末武)
			富田	(浅江)	(末武)	三上(川上)	(末武)	(浅江)	宝迫・片山(末武)
第27回	末武	久保	浅江	河村	久保	沖(上宇部)	國本・兼清	古城・大宮	吉村・津江田(島田)
			鴻南	(末武)	(末武)	板垣(鴻南)	(浅江)	(久保)	中杉・松村(末武)
第28回	末武	久保	潟上	久保	河村	沖(上宇部)	河村・松村	古城・大宮	吉村・津江田(島田)
			島田	(末武)	(末武)	上野(久保)	(末武)	(久保)	坂口・片山(末武)
第29回	末武	久保	潟上	久保	菊谷	吉松(二島)	坂口・片山	石田・中村	藤田・高松(久保)
			玄洋	(末武)	(末武)	上野(久保)	(末武)	(潟上)	伊藤・亀井(潟上)
第30回	柳井	末武	久保	菊谷	上野	福本(柳井)	水津・森永	大宮・吉岡	岡村・宮﨑(平川)
			平川	(末武)	(久保)	古賀(周陽)	(島田)	(久保)	惣田・吉田(柳井西)
第31回	柳井	末武	富海	福本	宮久	森永(島田)	辻・矢上	吉中・西村	山村・河本(末武)
			周陽	(柳井)	(川上)	森重(周陽)	(柳井)	(柳井)	藤田・中道(柳井)
第32回	柳井	末武	大殿	福本	中道	西村(常盤)	矢上・吉中	辻・西村	松本・曽田(柳井)
			富海	(柳井)	(柳井)	藤田(柳井)	(柳井)	(柳井)	藤本・浅海(柳井)
第33回	柳井	末武	浅江	岩永	筒井	清川(柳井)	西村・吉中	曽田・新田	浅海・永田(柳井)
			長成	(柳井)	(山の田)	折中(柳井)	(柳井)	(柳井)	梅田・皿田(柳井)
第34回	柳井	末武	平川	岩永	折中	水津(柳井)	永田・新田	清川・皿田	西村・逑金(柳井)
			長成	(柳井)	(柳井)	木本(浅江)	(柳井)	(柳井)	宮内・山田(明木)
第35回	柳井	平川	平川	岩永	西村	日野(柳井)	折中・水津	西村・浅井	宮内・山田(明木)
			長成	(柳井)	(柳井)	藤川(柳井)	(柳井)	(柳井)	大川・河口(末武)

回	期日	種目		優勝	2位	3位	3位
第36回	平成27年7月21・22日	男子	団体	萩市立明木中学校	山口市立鴻南中学校	下松市立末武中学校	下関市立勝山中学校
			シングルス	砂原　颯矢 （東岐波中学校）	坂村　一樹 （彦島中学校）	福間　璃来 （鴻南中学校）	高橋　尚也 （中須中学校）
			ダブルス	矢田部陸翔 木原　龍哉 （明木中学校）	長村　憲志 沖山　侃右 （柳井中学校）	杉山　義貴 刀祢　兼成 （明木中学校）	吉田　　空 篠原僚太郎 （高千帆中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	山口市立平川中学校	山口市立鴻南中学校
			シングルス	金廣　美希 （柳井中学校）	藤川　侑芽 （柳井中学校）	日野　智然 （柳井中学校）	廣中　理彩 （鴻南中学校）
			ダブルス	淺井　和奏 西村　真美 （柳井中学校）	角戸　琴音 岡部　紫保 （久保中学校）	小松菜々未 金子　英未 （鴻南中学校）	磯辺　美帆 磯辺　詩帆 （久保中学校）
第37回	平成28年7月21・22日	男子	団体	下松市立末武中学校	山口市立鴻南中学校	光市立浅江中学校	柳井市立柳井中学校
			シングルス	砂原 颯矢 （東岐波中学校）	篠原 僚太郎 （高千帆中学校）	髙橋 尚也 （中須中学校）	小籔 郁哉 （勝山中学校）
			ダブルス	金丸 純也 棟居　　諒 （末武中学校）	浅原 大暉 大川 竜之介 （末武中学校）	高山 泰征 中野 佳大 （鴻南中学校）	橘 佑典 大野 陽輝 （末武中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	山口市立鴻南中学校	下関市立内日中学校
			シングルス	金廣 美希 （柳井中学校）	瀬戸 香織 （末武中学校）	水津 愛美 （柳井中学校）	吉村 真琴 （内日中学校）
			ダブルス	日野 智然 西村 真美 （柳井中学校）	松本 みなみ 勝谷 元郁 （末武中学校）	藤川 侑芽 吉松 佳純 （柳井中学校）	原田 未来 中村 涼音 （周陽中学校）
第38回	平成29年7月24・25日	男子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	山口市立鴻南中学校	萩市立旭中学校
			シングルス	篠原 僚太郎 （高千帆中学校）	末元 千優 （末武中学校）	髙橋 尚也 （須々万中学校）	大野 陽輝 （末武中学校）
			ダブルス	永田 拓己 淺井 歩昂 （柳井中学校）	大川 竜之介 浅原 大暉 （末武中学校）	相本 丈太朗 髙村 有翔 （下松中学校）	藤永 健人 山本 拓実 （鴻南中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	下関市立垢田中学校	下関市立勝山中学校
			シングルス	金廣 美希 （柳井中学校）	水津 愛美 （柳井中学校）	金廣 真季 （柳井中学校）	吉村 羽紗 （内日中学校）
			ダブルス	松本 みなみ 勝谷 元郁 （末武中学校）	浦田 歩穂 吉松 佳純 （柳井中学校）	藤井 天音 末元 美優 （末武中学校）	新見 桃芭 及川　　歩 （末武中学校）
第39回	平成30年7月24・25日	男子	団体	柳井市立柳井中学校	山口市立鴻南中学校	萩市立旭中学校	下松市立末武中学校
			シングルス	大野 陽輝 （末武中学校）	立石 翔馬 （垢田中学校）	廣中 瞬 （鴻南中学校）	河本 周磨 （菊川中学校）
			ダブルス	永田 拓己 淺井 歩昂 （柳井中学校）	藤永 健人 山本 拓実 （鴻南中学校）	藤村 崇宏 白上　　樹 （旭中学校）	楯田 恭己 川﨑　　薫 （内日中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	山口市立鴻南中学校	下関市立勝山中学校
			シングルス	水津 愛美 （柳井中学校）	金廣 真季 （柳井中学校）	明地 陽菜 （柳井中学校）	伊藤 天音 （柳井中学校）
			ダブルス	兵頭 更紗 髙田 穂奈美 （柳井中学校）	橘 里依 新見 桃芭 （末武中学校）	川岡 萌 吉松 佳純 （柳井中学校）	伊藤 瞳 及川 歩 （末武中学校）
第40回	令和元年7月23・24日	男子	団体	萩市立旭中学校	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	光市立浅江中学校
			シングルス	前田　健心 （柳井中学校）	長岡　毅晃 （旭中学校）	兵頭　蒼季 （柳井中学校）	羽生　祐己 （川中中学校）
			ダブルス	生田　壮志 中山　康平 （柳井中学校）	佐々木　奎人 中村　陵雅 （旭中学校）	松本　大吾 松村　悠来 （末武中学校）	石田　奏楽 谷上　友亮 （浅江中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	下関市立垢田中学校	下関市立勝山中学校
			シングルス	明地　陽菜 （柳井中学校）	金廣 真季 （柳井中学校）	相本　珠杏 （下松中学校）	宮崎　友花 （柳井中学校）
			ダブルス	新見　桃芭 及川　歩 （末武中学校）	折中　エマ 西田　優 （柳井中学校）	今岡　咲絵 野田　遥加 （末武中学校）	古田　志穂 林　知衣奈 （久保中学校）

回	期日	種目		優勝	2位	3位	3位
第41回	令和2年	男子	団体	優勝	2位	3位	3位
			シングルス	新型コロナ感染症感染拡大のため大会中止			
			ダブルス				
		女子	団体				
			シングルス				
			ダブルス				
第42回	令和3年7月17・18日	男子	団体	下松市立末武中学校	柳井市立柳井中学校	山口市立大内中学校	光市立浅江中学校
			シングルス	棟居　樟（末武中学校）	木村　凌大（柳井中学校）	神代　隼（東部中学校）	羽生　陽洋（川中中学校）
			ダブルス	原田　凌汰 内冨　翔空（柳井中学校）	上野　寛和 吉髙　来星（末武中学校）	末元　千陽 立脇　悠羽（末武中学校）	沖堀　光一 井向　優太（柳井中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	下関市立垢田中学校	下関市立勝山中学校
			シングルス	宮崎　友花（柳井中学校）	文元　日菜（柳井中学校）	古田　志穂（久保中学校）	田村　玲夢（勝山中学校）
			ダブルス	西田　　優 大西　絢心（柳井中学校）	田原　日葵 沼田　唯李（柳井中学校）	水津　七海 近藤　花那（末武中学校）	本田　花笑 木全　希羽（柳井中学校）
第43回	令和4年7月21・22日	男子	団体	下松市立末武中学校	柳井市立柳井中学校	山口市立平川中学校	山口市立鴻南中学校
			シングルス	河村 匠悟（末武中学校）	嶋田 圭佑（浅江中学校）	木村 凌大（柳井中学校）	三隅 蓮生（末武中学校）
			ダブルス	末元 千陽 立脇 悠羽（末武中学校）	鈴木 修斗 石谷 翔吾（末武中学校）	越智 恵太朗 中山 航（柳井中学校）	小川 翔大 末安 晟汰（平川中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校	下関市立垢田中学校	山口市立大殿中学校
			シングルス	突沖 花歩（柳井中学校）	阿波芽 衣咲（柳井中学校）	西川 楓（柳井中学校）	井上 美穂（柳井中学校）
			ダブルス	田原 日葵 文元 日菜（柳井中学校）	飯田 ひかり 野田 紋花（末武中学校）	本田 花笑 木全 希羽（柳井中学校）	光永 安咲姫 中野 瑚子（垢田中学校）
第44回	令和5年7月24・25日	男子	団体	下松市立末武中学校	山口市立大内中学校	nextUBE	山口市立鴻南中学校
			シングルス	三隅　蓮生（末武中学校）	小嶋　庵里（nextUBE）	前　勇奨（大内中学校）	林　歩睦（下松ジュニア）
			ダブルス	越智　恵太朗 中山　　航（柳井中学校）	石谷　翔吾 立脇　唯羽（末武中学校）	山下　裕太 塩満　晄來（長成中学校）	椙本　篤弘 木谷　歩（大内中学校）
		女子	団体	柳井市立柳井中学校	YANAI	下松ジュニア	下松市立末武中学校し
			シングルス	阿波　芽衣咲（柳井中学校）	樫尾　雫玖（YANAI）	松村　柑奈（YANAI）	沖本　愛音（YANAI）
			ダブルス	本田　花笑 木全　希羽（柳井中学校）	西川　　楓 井上　美穂（柳井中学校）	松戸　海 冨田　琴子（YANAI）	兵頭　真尋 沼田　唯李（柳井中学校）
第45回	令和6年7月20・21日	男子	団体	nextUBE	柳井市立柳井中学校	山口市立大内中学校	下松市立末武中学校
			シングルス	中山　　航（柳井中学校）	立脇　唯羽（ACTアカデミー）	林　歩睦（下松ジュニア）	児玉　陽彗（鴻南中学校）
			ダブルス	吉松　涉 小嶋　来夢（nextUBE）	江口　虎太郎 前　充隼（大内中学校）	光田　貴洋 平村　陽向（柳井中学校）	横田　悠真 市村　悠宇（勝山中学校）
		女子	団体	YANAI	下松ジュニア	柳井市立柳井中学校	下松市立末武中学校
			シングルス	阿波　芽衣咲（YANAI）	冨田　千晴（YANAI）	羽山　心陽（下松ジュニア）	小松　桃子（柳井JBC）
			ダブルス	沖本　愛音 樫尾　雫玖（YANAI）	井上　美穂 松戸　海（YANAI）	松村　柑奈 冨田　琴子（YANAI）	内山　蘭 古田　紗也（下松ジュニア）

山口県小学生バドミントン連盟

沿革・歴史

〈 歴代会長 〉

・初代会長
　林　　芳正（平成 14 年～）
・２代会長
　山下　新一（令和４年～）

〈 歴代理事長 〉

・初代理事長
　河野　敬三（平成 14 年～）
・２代理事長
　山下　新一（平成 20 年～）
・３代理事長
　石永　裕記（令和６年～）

〈 発足・経緯 〉

・昭和 59 年山口県バドミントン協会組織に小学生担当理事を設置
・山口県小学生大会の開催
　（第１回柳井市、以後下松市、下関市）
・中国地区小学生選手権大会の開催
　（第４回下松市、以後柳井市、山口市、防府市、周南市）

活動報告（平成 10 年～令和６年）

昭和 59 年に山口県バドミントン協会の組織に小学生担当理事が配置され、第１回山口県小学生バドミントン大会が開催された。活動開始初期の頃から以下のような要望を出しながら少しずつ環境を整えていった。平成８年に山口県ジュニアバドミントン連盟が結成されると、平成 14 年には山口県小学生バドミントン連盟と改称し活動を継続している。

〈要望〉・・・・・・・・・・・・・・・・・

ここ数年の中国地区小学生大会での現状は、岡山をトップに広島、鳥取、島根、山口の順にランクされている。特に、岡山は、Ｎクラブを中心に活発な活動がなされており、全国大会でも上位クラスの選手が育っている。岡山に勝てば、全国で勝てると言われているほどである。また、広島では県小学生連盟で定期的な強化練習会を実施してレベルアップを図り、市協会が力をいれているＨジュニアでは、専任コーチによる強化策もなされている。いずれも、専門的指導者を招き、かなりの予算をジュニア育成に充てていると聞いている。

また、現在活躍している全国のトップクラスの選手は、ジュニア出身の選手がほとんどである。ジュニア期からの選手育成が強化には必要である。

日本バドミントン協会では、平成 12 年度から新規事業として中学生の都道府県対抗大会と小学生のＡＢＣ大会を開催するという世界を視野に入れた方策がすでに動き出している。

ところで、山口県においてはかつて優秀なジュニアの選手がいたが、その時の指導者の個人的な熱意による単独の選手育成によるものが多かった。また何をするにも全額個人負担で、県全体のレベルを上げていくための活動の環境が十分とは言えなかった。その状況は今日においても同じである。

最近では少子化傾向の中、選手数・指導者数も減少し、活動が低迷しているのが現状である。

山口県では、こうした状況を踏まえ、将来に向けジュニア対策に力をいれるべきである。それには、いろいろな考え方や方法もあるが、まずは、優秀なジュニア指導者を招き、トップの選手を育てるための強化練習会を開催することにより、中学、高校へとつなげていくことが必要である。また、指導者の育成も併せておこなう必要がある。ジュニア連盟としては、県協会の平成 11 年度からの中学生強化策に続き、平成 12 年度からのジュニア強化対策費の予算化をぜひお願いしたい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

この要望が実り、県協会で予算化され現

在に至っている。平成14年度には、名称も全国の歩調に合わせ「山口県小学生バドミントン連盟」と変更することとなった。さらに普及と強化を図るために、山口県独自の錬成会を継続し活性化を図っている。その特色は、柳井市バドミントン協会の歩みの中に詳細に記載しているので省略する。また、事業としても時期に応じて全国大会予選・中国大会予選を実施し、錬成会と県内大会がバランスよく回るように配置をしている。中国大会の会場について県内開催地は現状として３会場しかないが、その運営面では県協会、市協会及び小学生連盟が一体となり組織的に協力する体制ができている。

ただ、登録人数は、最近やや減少化傾向にある。普及のためには登録者数を増やすことが必要であり、さらに低学年のための練習会が必要と考えている。中国地区では発足当初から４年生以下の合宿を開催しており、山口県からも毎年選手を派遣している。令和４年度からは県内として独自の練習会を開催し、継続していくことにしている。さらに５・６年生の強化についてはチーム山口ジュニアと連携をとつて強化を続けている。

もう一つの特色ある活動として、西京銀行チャレンジカップ・ジュニアオープン大会がある。西京銀行地域支援部の物心両面のご支援により、この大会を平成27年度から開催している。「子どもたちによる手作りの大会」として好評を得ており、種別も山口県方式のABCDのクラスに分けて子どもたちが自身のレベルに応じて参加しやすいように、またチャレンジ精神の育成ができるように設定している。今後もこの大会は山口県小学生連盟の中心事業として継続していく予定である。

役員体制も平成25年度から常務理事として競技部・強化部・総務部を設置し、それぞれの部長を中心に連盟の運営に携わってきた。さらに令和３年度から常務理事を６人とし、事業運営面での役割分担を整備した。新型コロナ感染症対策としての新しい大会様式も定着化した。今後も「安全な環境作り」と「強さと道徳心を備えた選手の育成」に努め、「バドミントン王国・山口」に寄与していきたい。

将来の展望

山口県の小学生指導者の特色は、どのクラブの子どもたちにも分け隔てなくアドバイスや指導をしていただいているところである。このような環境の基で地域から愛される選手の育成がなされれば、将来地元にカムバックできる土壌もあり、更にはよりよい社会の実現に向けてあらゆる分野に大いに寄与できると思う。目標は、「楽しく・強く・礼儀正しく」を基本とし、道徳心や敬恕の念を備えた人間づくりであるが、最終的には子どもたちが幸せになることを願っている。こつこつと地味ながら山口県として特色ある活動を全国に発信していきたいと思っている。「万里一空」のごとく皆で力を合わせ継続し、質の高い活動に向けて一層の皆様のご支援とご協力をお願いしたい。



活動・経過

（大会・成績）

１　全国小学生ABC大会

第３回　ＧＢ３位　河村美咲
第５回　ＧＡ５位　河村美咲
第６回　ＢＢ３位　保木卓朗

第７回　ＢＡ５位　保木卓朗
第８回　ＢＡ５位　保木卓朗
第８回　ＧＣ１位　岩永　鈴
第 15 回　ＢＣ５位　棟居　樟
第 17 回　ＧＡ５位　金廣真季
第 20 回　ＧＣ５位　古田夏美
第 23 回　ＧＡ５位　松村柑奈

２　全国小学生選手権大会団体戦

第 25 回　女子５位
金廣真季・新見桃芭・及川歩・
相本珠杏・津畑朱音・橘良侑

３　全国小学生選手権大会個人戦

第４回　６ＢＤ５位　広中良章・好村正輝
第 13 回６ＧＳ３位　河村美咲
第 23 回６ＧＳ３位　金廣美希
第 25 回６ＧＤ３位　新見桃芭・及川　歩

４　若葉カップ全国小学生大会

第 35 回　女子５位　下松ジュニア
徳本　舞・久野結愛・羽山心陽・
古田紗也・井上美穂・田村心音
第 37 回　女子３位　下松ジュニア
内山　欄・羽山心陽・井上美穂・
田村心音・古田紗也・古田夏美

５　中国地区小学生選手権大会

第１回
ＢＤ１位　生島英治・川﨑政之
第３回
ＢＳ１位　柳　孝三
ＢＤ１位　中山　整・叶井政之
ＧＳ１位　山内雅恵
ＧＤ１位　木村真澄・山野井優子
第４回
ＢＳ１位　河村和美
ＧＳ１位　山内雅恵
第６回
ＢＳ１位　増田敏雄
ＢＤ１位　浜田享幸・日塚洋一
ＧＳ１位　松中満美
第 10 回
ＢＤ１位　高橋健二・水津諒一
第 17 回
４ＧＳ１位　瀬戸口奈菜
第 19 回
４ＧＳ１位　河村美咲
第 20 回
５ＧＳ１位　河村美咲
第 21 回
６ＧＳ１位　河村美咲
５ＧＳ１位　久保汐莉那
４ＢＤ１位　保木卓朗・山下智史
第 22 回
６ＢＳ１位　飛高健太郎
６ＧＳ１位　久保汐莉那
４ＢＳ１位　保木卓朗
第 23 回
５ＢＳ１位　保木卓朗
４ＧＳ１位　山田愛美
第 24 回
６ＢＳ１位　保木卓朗
第 26 回
６ＢＳ１位　岩永　廉
５ＢＳ１位　森永雅弘
第 28 回
６ＢＤ１位　藤川歩武・中尾匡輝
第 30 回
６ＧＳ１位　藤川侑芽
５ＢＤ１位　高橋尚也・浅原大暉
４ＢＳ１位　永田拓己
４ＧＤ１位　川岡　萌・吉松佳純
第 31 回
６ＢＤ１位　高橋尚也・浅原大暉
６ＧＳ１位　金廣美希
５ＧＳ１位　水津愛美
５ＧＤ１位　川岡　萌・吉松佳純
４ＧＤ１位　及川　歩・新見桃芭
第 32 回
６ＧＳ１位　水津愛美
６ＧＤ１位　川岡　萌・吉松佳純

第 33 回
　６ＧＤ１位　及川　歩・新見桃芭
　５ＧＤ１位　兵頭蒼季・述金玲音
　４ＧＤ１位　古田志穂・林　知衣奈
第 35 回
　６ＢＳ１位　棟居　樟
第 36 回
　５ＧＳ１位　本田花笑
　４ＧＤ１位　古田紗也・内山　欄
令和２年度(代替大会)
　４ＧＤ１位　冨田琴子・兼子結衣
令和３年度(代替大会)
　５ＧＤ１位　冨田琴子・兼子結衣
第 39 回
　６ＧＳ１位　松村柑奈
　５ＧＳ１位　古田夏美
　４ＧＤ１位　安藤里桜・久野紗良
第 40 回
　４ＢＤ１位　梯　拓翔・利行瑛心
第 41 回
　５ＧＳ１位　好村　唯
　４ＧＳ１位　山田楓叶
　５ＢＤ１位　梯　拓翔・利行瑛心
　５ＧＤ１位　菅　香穂・小田花愛

６　山口県小学生大会（選手権の部）

昭和 59 年度
　ＢＳ１位　棟居秀行
　ＢＳ２位　髙井　賢
　ＢＤ１位　生島英治・川﨑政之
　ＧＳ１位　山内映美
　ＧＳ２位　藤本恵美
　ＧＤ１位　重枝奈美江・木村真澄
昭和 60 年度
　ＢＳ１位　沖山勝美
　ＢＳ２位　相本浩一
　ＢＤ１位　大田了啓・松中誉樹
　ＧＳ１位　山内雅恵
　ＧＳ２位　武内秀恵
　ＧＤ１位　重枝奈美江・木村真澄
昭和 61 年度
　ＢＳ１位　柳　孝三
　ＢＳ２位　松中誉樹
　ＢＤ１位　中山　整・叶井孝博
　ＧＳ１位　山内雅恵
　ＧＳ２位　武内秀恵
　ＧＤ１位　木村真澄・山野井優子
昭和 62 年度
　ＢＳ１位　松中誉樹
　ＢＳ２位　河村和美
　ＢＤ１位　大田啓文・山野井幸治
　ＧＳ１位　山内雅恵
　ＧＳ２位　伊藤久美
　ＧＤ１位　西村知加子・松中満美
昭和 63 年度
　ＢＳ１位　山野井幸治
　ＢＳ２位　増田敏雄
　ＢＤ１位　河津雅広・沖原雅和
　ＧＳ１位　松中満美
　ＧＳ２位　吉村　恵
　ＧＤ１位　田村恭子・寒竹優子
平成元年度
　ＢＳ１位　増田敏雄
　ＢＳ２位　長嶺　宙
　ＢＤ１位　浜田享幸・日塚洋一
　ＧＳ１位　松中満美
　ＧＳ２位　松山麻美
　ＧＤ１位　河村智子・中島麻奈美
平成２年度
　ＢＳ１位　沖原雅和
　ＢＳ２位　長嶺　宙
　ＢＤ１位　米川真司・石田健太
　ＧＳ１位　青山祐子
　ＧＳ２位　玉井宏美
　ＧＤ１位　田中末香・青見真紀
平成３年度
　ＢＳ１位　石山健太郎
　ＢＳ２位　　石田剛史
　ＢＤ１位　　林　純自・往長孝治
　ＧＳ１位　　高木理江
　ＧＳ２位　　青見真紀
　ＧＤ１位　　原田祐子・古田由紀

平成４年度
ＢＳ１位　山本純平
ＢＳ２位　往長孝治
ＢＤ１位　石田剛史・岩本健一郎
ＧＳ１位　高木理江
ＧＳ２位　水津恵美子
ＧＤ１位　青柳てるや・原谷みち代
平成５年度
ＢＳ１位　沖原健司
ＢＳ２位　青見雄作
ＢＤ１位　水津諒一・高橋健二
ＧＳ１位　藤井麻美
ＧＳ２位　原谷みち代
ＧＤ１位　花田優子・山賀由佳里
平成６年度
ＢＳ１位　水津諒一
ＢＳ２位　青見雄作
ＢＤ１位　河本裕樹・河村　允
ＧＳ１位　河近裕子
ＧＳ２位　西村郁美
ＧＤ１位　吉本理恵・有田美恵子
平成７年度
ＢＳ１位　竹光章浩
ＢＳ２位　窓原　徹
ＢＤ１位　広中良章・好村正輝
ＧＳ１位　梅田京子
ＧＳ２位　松繁依里
ＧＤ１位　山崎志帆・竹内沙織
平成８年度
ＢＳ１位　山縣圭太
ＢＳ２位　上野光太郎
ＢＤ１位　利行謙一・久次雄一
ＧＳ１位　松尾杏澄
ＧＳ２位　窓原　梓
ＧＤ１位　福田絵理子・相本真紀
平成９年度
ＢＳ１位　松尾光平
ＢＳ２位　山平直輝
ＢＤ１位　山平康太・河野亮輔
ＧＳ１位　末長　南
ＧＳ２位　窓原　梓
ＧＤ１位　実近愛子・青見知英
平成 10 年度
ＢＳ１位　松尾光平
ＢＳ２位　山平直輝
ＢＤ１位　橋本侑二・兼行高史
ＧＳ１位　横沼麻美
ＧＳ２位　岡崎涼子
ＧＤ１位　藤井沙織・瀬戸口沙貴
平成 11 年度
ＢＳ１位　吉本直樹
ＢＳ２位　吉村太陽
ＢＤ１位　松中誉樹・石原大資
ＧＳ１位　紙川美津恵
ＧＳ２位　弘津志保里
ＧＤ１位　実近桃代・上原有紗
平成 12 年度
ＢＳ１位　吉本直樹
ＢＳ２位　末成俊宏
ＢＤ１位　三木鹿太郎・鈴木 瑛裕
ＧＳ１位　弘津志保里
ＧＳ２位　沖堀桐子
ＧＤ１位　山下朋子・逸見雪乃
平成 13 年度
６ＢＳ１位　吉本直樹
６ＢＳ２位　上原将馬
ＢＤ１位　吉本直樹・上原将馬
６ＧＳ１位　花本陽菜
６ＧＳ２位　瀬戸口奈菜
ＧＤ１位　花本陽菜・逸見奈月
平成 14 年度
６ＢＳ１位　伊藤勝広
６ＢＳ２位　青見将吾
ＢＤ１位　伊藤勝広・青見将吾
６ＧＳ１位　瀬戸内奈菜
６ＧＳ２位　河村彩香
ＧＤ１位　河村彩香・河村美咲
平成 15 年度
６ＢＳ１位　田村美輝
６ＢＳ２位　田村　翼
ＢＤ１位　保木紳吾・山下雅史
６ＧＳ１位　兼清由香理

６ＧＳ２位　森永彩香
ＧＤ１位　松中千明・加藤菜摘

平成 16 年度
６ＢＳ１位　保木紳吾
６ＢＳ２位　飛高健太郎
ＢＤ１位　保木紳吾・山下雅史
６ＧＳ１位　河村美咲
６ＧＳ２位　久保汐莉那
ＧＤ１位　河村美咲・大宮早貴

平成 17 年度
６ＢＳ１位　近本　哲
６ＢＳ２位　原田凌平
ＢＤ１位　飛高健太郎・森永達也
６ＧＳ１位　久保汐莉那
６ＧＳ２位　高松春香
ＧＤ１位　坂口萌香・片山美奈

平成 18 年度
６ＢＳ１位　横沼　一志
６ＢＳ２位　桐田啓吾
ＢＤ１位　近本　哲・山下智史
６ＧＳ１位　古賀　希
６ＧＳ２位　大宮千果
ＧＤ１位　上野貴瑛・橋本裕里

平成 19 年度
ＢＳ１位　保木卓朗
ＢＳ２位　山下智史
ＢＤ１位　内田皓介・吉川和輝
ＧＳ１位　森永理恵奈
ＧＳ２位　福本涼香
ＧＤ１位　山田愛海・森重瑞希

平成 20 年度
ＢＳ１位　桐田和樹
ＢＳ２位　岩永　廉
ＢＤ１位　長尾恭太・宮本雅也
ＧＳ１位　山田愛海
ＧＳ２位　島村彩花
ＧＤ１位　福本涼香・辻　瑞貴

平成 21 年度
ＢＳ１位　岩永　廉
ＢＳ２位　田中開登
ＢＤ１位　美村和樹・永田大務
ＧＳ１位　村谷唯菜
ＧＳ２位　岩永　鈴
ＧＤ１位　吉中　愛・西村美希

平成 22 年度
ＢＳ１位　森永雅弘
ＢＳ２位　木村聡志
ＢＤ１位　藤井晃太郎・亀田将也
ＧＳ１位　筒井いまり
ＧＳ２位　小川香月
ＧＤ１位　岩永　鈴・新田琴乃

平成 23 年度
ＢＳ１位　長友壮志
ＢＳ２位　福間璃来
ＢＳ３位　藤川歩武、美村　翼
ＧＳ１位　岩永　鈴
ＧＳ２位　森岡茅夏
ＧＳ３位　柳井咲耶、西本美裕

平成 24 年度
ＢＳ１位　坂村一樹
ＢＳ２位　福間璃来
ＢＳ３位　沖山侃右、矢田部陸翔
ＧＳ１位　浅井和奏
ＧＳ２位　西本美裕
ＧＳ３位　林　千鶴、相馬沙也佳

平成 25 年度
ＢＳ１位　砂原颯矢
ＢＳ２位　篠原僚太郎
ＢＳ３位　亀田晃大、高橋尚也
ＧＳ１位　西村真美
ＧＳ２位　藤川侑芽
ＧＳ３位　金廣美希、原田未来

平成 26 年度
ＢＳ１位　高橋尚也
ＢＳ２位　平井探希
ＢＳ３位　篠原僚太郎、壹岐拓海
ＧＳ１位　金廣美希
ＧＳ２位　関　葵子
ＧＳ３位　水津愛美、松本みなみ

平成 27 年度
ＢＳ１位　永田拓己

ＢＳ２位　立石翔馬
ＢＳ３位　淺井歩昂、羽生祐己
ＧＳ１位　吉村羽紗
ＧＳ２位　金廣真季
ＧＳ３位　川岡萌、水津愛美

平成 28 年度
ＢＳ１位　河本周磨
ＢＳ２位　羽生祐己
ＢＳ３位　長岡毅晃、前田健心
ＧＳ１位　金廣真季
ＧＳ２位　新見桃芭
ＧＳ３位　相本珠杏、津畑朱音

平成 29 年度
ＢＳ１位　生田壮志
ＢＳ２位　中山康平
ＢＳ３位　中村陵雅、松村悠来
ＧＳ１位　橘　良侑
ＧＳ２位　澁谷暁音
ＧＳ３位　野田遙加、寺本彩加音

平成 30 年度　中止

令和元年度
ＢＳ１位　木村凌大
ＢＳ２位　立脇悠羽
ＢＳ３位　河村匠悟、末元千陽
ＧＳ１位　羽山結月
ＧＳ２位　田原日葵
ＧＳ３位　野田紋花、飯田ひかり

令和 2 年度　中止

令和 3 年度　中止

令和 4 年度
ＢＳ１位　樋渡　優
ＢＳ２位　吉松　渉
ＢＳ３位　小嶋来夢、沖　央理
ＧＳ１位　松村柑奈
ＧＳ２位　冨田琴子
ＧＳ３位　兼子結衣、古田夏美

令和 5 年度
ＢＳ１位　沖　央理
ＢＳ２位　羽山碧人
ＢＳ３位　福田宝晴、梯　拓翔
ＧＳ１位　古田夏美
ＧＳ２位　伊藤夢莉
ＧＳ３位　石橋結陽、三浦満友

令和 6 年度
ＢＳ１位　吉川稜馬
ＢＳ２位　松田琉聖
ＢＳ３位　羽山碧人、梅野魁利
ＧＳ１位　清川亜弥
ＧＳ２位　好村　唯
ＧＳ３位　山根結奈、大浪莉結

7　山口県スポーツ大会（ｽﾎﾟｰﾂ少年団の部）

平成４年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　日積

平成５年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　新南陽Ａ

平成６年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　日積

平成７年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　新南陽Ａ

平成８年度
男子団体　１位　日積
女子団体　１位　日積

平成９年度
男子団体　１位　日積
女子団体　１位　日積

平成 10 年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　新南陽Ａ

平成 11 年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　新南陽Ａ

平成 12 年度
男子団体　１位　日積
女子団体　１位　柳井中央Ａ

平成 13 年度
男子団体　１位　日積Ａ

女子団体　１位　新南陽Ａ
平成 14 年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　新南陽Ａ
平成 15 年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　日積Ａ
平成 16 年度
男子団体　１位　日積Ａ
女子団体　１位　日積Ｂ
平成 17 年度
男子団体　１位　佐々並Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ
平成 18 年度
男子団体　１位　佐々並Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ
平成 19 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　桜木Ａ
平成 20 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
平成 21 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
平成 22 年度
男子団体　１位　佐々並Ｂ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
平成 23 年度
男子団体　１位　佐々並Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ｂ
平成 24 年度
男子団体　１位　佐々並Ｂ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
平成 25 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
女子団体　１位　桜木Ａ
平成 26 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
女子団体　１位　桜木Ａ
平成 27 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ
平成 28 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ
平成 29 年度
男子団体　１位　白石Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
平成 30 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
令和元年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
令和 2 年度
男子団体　１位　白石
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
令和 3 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
令和 4 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
令和 5 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ
令和 6 年度
男子団体　１位　柳井ＪＢＣ
女子団体　１位　柳井ＪＢＣ－Ａ

会長　山下　新一

寄　稿

第 32 回全国高等学校選抜バドミントン大会

平成 16 年３月 25 日～３月 28 日　維新百年記念公園アリーナ

山口県高体連　元専門委員長　佐々木　辰博

山口県バドミントン協会創立 75 周年おめでとうございます。

私が第 32 回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会に山口県高体連バドミントン専門部委員長として携わったのは平成 16 年３月のことでした。

平成 11 年８月に岩手県雫石市で行われたインターハイに監督として出場していたときに、その当時の専門委員長が宿舎にこられ、「中国地区で全国選抜を引き受けることになったのだが山口県で引き受けることが可能だろうか」と聞かれました。山口県の施設や補助員となる生徒の数、競技役員となる先生の数等考えて、「とても不可能だから絶対に断ってほしい」と、同じ宿舎の谷口先生(山口高校)ともども、答えたことを今でも覚えています。

その後、中国地区の専門委員長会議において山口県内の多くの先生方の反対もむなしく、山口県開催が平成 12 年に決定されました。とはいえ、当時私は高校の一顧問にすぎなかったので、あまり深くは考えていませんでした。ところが、全国選抜を引き受けてきた前委員長から、「平成 14 年は学校の事情でどうしても専門委員長を続けることができなくなった。だれか委員長を引き受けてくれる人はいないだろうか。」という相談がありました。それは、専門委員長だけでなく、もれなく全国選抜がついてくるわけで、そんなものを引き受ける人がいるわけありません。その後、紆余曲折ありましたが、結局私が専門委員長を引き受けることになってしまいました。

準備を始めて、全国選抜の運営の難しさを実感しました。主催は日本バドミントン協会で高体連は共催にすぎませんが、出場選手が高校生なので運営自体は高体連が主体にならざるを得ません。この矛盾が色々なところでスムーズな準備を妨げました。運営の相談は伊佐山先生(当時全国高体連専門部長)にするのですが、重要な書類の発行は日本バドミントン協会にお願いしなければなりませんでした。そのため色々大変なことが多く伊佐山先生には本当にお世話になりました。

さらに本番前年度の全国選抜静岡大会に視察に行き、大変驚かされました。大会運営の責任者は静岡県協会の理事の方々で、重要な書類を紙媒体で渡されたのです。当時はすでに PC 主体の大会運営になっていたので、全ての書類は電子データ化されているものと思っていたので、私の驚きと落胆は察していただけるものと思います。そこから必要な書類は全て作り直し、経費節減のため大会運営ソフトも自作しました。

万全の準備をして本番に臨んだつもりでしたが、大失敗が待っていました。団体戦のオーダー用紙が新ルール形式(平成 16 年４月から変更)だったのです。気づいたのが前日の 19 時で作り直すこともできず、全出場監督に連絡する羽目に。それでも、田部井先生（当時全国高体連事務局）が殆どの監督さんの連絡先を把握しておられたおかげで乗り切ることができました。田部井先生本当にありがとうございました。

以上のように全国大会は多くの先生方の献身的な努力により成り立っているのだと実感しました。携わっていただいた多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

東日本大震災復興支援　第 66 回国民体育大会

平成 23 年 10 月 7 日(金)～10 日(祝・日)　　光市総合体育館

元国体強化委員長　末 廣 秀 樹

９年間にわたる山口国体強化の歩み

平成 14 年、山口国体の選手強化について「やまぐち国体競技力向上対策本部」が設置され、国体強化委員会を開催、作業等の進め方について協議、現状・課題等に係る調査書を作成しました。

同年９月７日から８日に「先進県視察」として久次優・田内正彦・野村義徳・杉山　覚・松原康則・村田浩子・西本剛・末廣秀樹が岐阜県を視察、ジュニア期からの発掘・一貫指導体制の構築に向けて調査、山口国体全種別入賞を目標に掲げた国体強化計画を作成しました。

平成 15 年５月、山口国体を視野に飛躍的な競技力の向上と高い競技水準の維持・定着を目標にトップアスリート育成事業がスタートしたのでした。

平成 16 年４月、現状分析から各国体の目標と山口国体の目標を少年男子ベスト４、成年男女・少年女子はベスト８に設定した強化計画を策定、国体少年男女候補選手の強化を進めることとし、小学生３年以上の男女 16 名でヘンキー・イラワン氏の指導による強化練習会を開始しました。

平成 17 年４月、少年男女候補選手は月２回の強化練習会と夜間巡回練習会を山口市・周南市・光市の３地区に広げました。

同年 12 月、周南市で三井理事長と末廣副理事長へ棟居秀行氏から成年種目の強化について提案があり協議し、全国大会で活躍したいと思っている成年男女を集めることを決定しました。また、大会参加・合同練習会等で、一体感の醸成を図ろうと「チーム山口」の立ち上げることを決め、小学生連盟・中体連・高体連と協議しました。

平成 18 年４月、山口国体での全種別入賞を目標にした競技力向上と県民代表との意識付けを目的に小学生から成年選手が一同に会して継続的な強化練習・合宿・県外遠征等を実施するために「チーム山口」を発足させました。参加選手は成年男女各８名、少年男女各４名、中学生男女各４名、小学生男女各７名(山口国体候補選手)を選出、指導者は棟居秀行、増田敏雄、ヘンキー・イラワンの３氏が就任、総勢 50 名で年間 12 回の強化練習会や強化合宿を実施しました。山口国体少年男女候補選手は月２回の練習会と月６回の巡回練習会を３地区で実施し強化を加速させました。

各種別の強化状況については、成年男子は宇部興産(現 UBE)を軸に平成 20 年、トナミ運輸から大東真也選手を県教員に採用、選手兼宇部興産コーチに就任、宇部興産のチーム力を飛躍的に向上させました。平成 21 年、山平直輝選手を採用、チャレンジリーグ優勝、入替戦に勝利し日本リーグ 2 部昇格、平成 22 年、米元優樹選手を採用、山口国体プレ大会日本リーグ２部ひかり大会で４位と本国体に向け少し明かりが見えてきました。本国体までの３年間で日本リーグ１部のトナミ運輸等へ遠征し、格上チームと質の高い練習で速いスピードにも慣れ、勝負ができるようになり、飛躍的な競技力の向上を遂げました。

成年女子は平成 22 年４月、県体協・県協会が競技力向上のため、西京銀行に NPO 法人 ACT SAIKYO を創部、皆川友依選手と安念幸恵選手を採用、翌年、北吉穂香選手と竹内由佳里選手が加わり、平成 23 年チャレンジリーグに参戦し優勝、２部昇格、成年女子も上位を目指せる戦力が整ってきました。

少年男子は平成 15 年から平成 22 年の間、毎年選手が入れ替わる中、柳井商工高松原先生指導のもと、常にブロック突破と安定した成績を残していました。八代東高校・筑波大学等への遠征から、常にベスト８が狙

える競技力が維持され、全国で強豪校の一つに位置するまで強化され、期待できるチームとなりました。

少年女子は平成15年から平成22年の間、ブロック突破は２回あったものの、上位を狙える位置ではありませんでした。華陵高校佐々木先生の指導のもと熊本県・龍谷大学等への遠征から質の高い練習はできていましたが、選手の交代等からコマ不足は否めない状況でした。

国体少年男女候補選手の育成強化は、優秀選手の県外流失等もあり、立ち上げから残ったメンバーは男女１名ずつでした。地元高校生でのチームづくりの難しさを痛感させられました。

平成21年11月、競技別国体強化委員会が開催され、総合優勝に向けての取組を強力に推進することになり、目標を全種別ベスト４以上に設定変更しました。

平成22年３月、ムネスエスポーツに国体準備室を設置、会社から県協会への出向を拝命、大会準備等に専念することになりました。

同年９月、組合せ抽選会視察、千葉国体視察。千葉国体は、成年男子２回戦敗退、少年男子は１回戦敗退、成年女子・少年女子はブロック敗退と、各種別とも力は付いてきているのに、不本意な結果に終わりました。

平成23年、国体開催の年、強化も順調に進み、成年男子の宇部興産と成年女子のACTSAIKYOが全日本実業団大会５位入賞、本番に向け好成績を上げました。少年男子は青森インターハイの複で５位入賞と勢いを感じました。少年女子は着実にレベルアップしていましたが、２名の選手変更があり厳しい状況でした。

同年６月、山口国体監督・選手を正式に決定しました。

成年男子
監督　大東　真也　宇部総合支援学校
選手　山平　直輝　宇部興産
選手　松尾　光平　宇部興産
選手　米元　優樹　宇部興産

成年女子
監督　棟居　秀行　㈱ムネスエスポーツ
選手　皆川　友依　ACT SAIKYO
選手　安念　幸恵　ACT SAIKYO
選手　北吉　穂香　ACT SAIKYO

少年男子
監督　松原　康則　柳井商工高等学校
選手　飛高健太郎　柳井商工高等学校
選手　藤本　亮汰　柳井商工高等学校
選手　瀬島　史也　徳山工業高等専門学校

少年女子
監督　佐々木辰博　華陵高等学校
選手　坂口　萌香　華陵高等学校
選手　藤田　美里　華陵高等学校
選手　吉松ことみ　華陵高等学校

同年８月、各地区のブロック大会開催に伴い、九州地区は大東監督・末廣、四国地区は佐々木監督・末廣、近畿地区は松原監督、東海地区は棟居監督により視察し情報収集に努め、国体出場都道府県の戦力分析を行いました。９月、岸記念体育会館での組合せ抽選会に三井・久次・松本・田内・利行・山本・末廣が出席し全種別の組合が決定、万全を期して山口国体に臨みました。

国体までの長い道程ではありましたが、９年間にわたり県協会あげて競技力向上に努めました。全種別入賞の目標こそ未達となり残念な思いもありますが、皆様の声援を受け、成年男子が県勢として国体史上初の３位入賞を果たし、競技別総合成績も８位となり、山口県の国体総合優勝に少なからず貢献でき、有終の美を飾ることができたと感じています。

過ぎてしまえばあっという間の９年間でしたが、県体協・県協会・宇部興産・西京銀行・高体連・中体連・小学生連盟・光市・光市協会等の関係者のご協力、ご支援を頂きありがとうございました。

皆様のご指導ご鞭撻に感謝申し上げます。

～　山口国体でのチャレンジとレガシー　～

平成 23 年 10 月４日～10 月７日　光市総合体育館
柳井商工バドミントン部　元監督　松原　康則

柳井工業高校（現在の柳井商工高校）でバドミントンの指導をしていた時、山口県で２巡目の国体が開催されることになりました。その男子強化指定校に本校が選ばれたのをきっかけに、私も国体というものを強く意識するようになりました。自分の学校はもちろんのこと、山口県全体としてのレベルアップを図るため、県協会の強化部の主導による「チーム山口強化指定制度」を立ち上げ、成年・少年全ての種別から選ばれた選手が集まり、練習会や合宿を行うようになりました。国体の開催年が近づくにつれて、山口県体育協会からの補助金や様々なサポートがそれまで以上に増えていき、これが全県をあげた一大事業であることを否が応でも感じさせられるようになりました。山口国体で天皇杯を獲るために競技ごとに目標の獲得点数が設定され、バドミントン競技でも４種別で 30 点以上のノルマが課されました。バドミントン競技では１位 24 点、２位 21 点、３位 18 点、４位 15 点、５位（ベスト８以上）7.5 点です。全種別でベスト８以上に入れば 30 点には乗るのですが、成年種別は強豪実業団チームがひしめいており、必然的に少年種別に期待がかかっていました。私の担当した少年男子でも国体該当年に当たるゴールデンエイジの選手の発掘と強化に早くから取りかかりましたが、選手層を厚くするのは難しく、県体協に尻を叩かれながら初めて隣の広島県の中学校まで選手勧誘に行ったのを覚えています。結果的に勧誘はうまくいきませんでしたが、それでも山口国体出場を目指す子たちが何人か集まってくれて強化を進めました。自分のチームの中で、既存のチームと山口国体



〈山口国体少年男子の部に出場の選手〉

世代の選手の２チームを同時進行で強化していく方法をとりながら、それでも先輩の力を借りて強化選手たちを育てていくという作業は本当に難しかったです。別々の担当者をつけるほうが良かったのかもしれませんが、わからないまま先行開催県の指導者の方々のご指導を仰ぎながら強化を模索していきました。感謝すべきは当時の上級生たちであり、チームの置かれている状況を理解して、本当なら自分たちが練習のメインであるべき状況でも山口国体世代の選手に対していろいろな面で配慮してくれました。頭が下がる思いを何度も感じました。その先輩たちと新潟国体、千葉国体と出場しましたが残念ながら入賞することは叶いませんでした。開催が近づくにつれて周囲の機運も高まり、それと同時にプレッシャーもきつくなりました。私も選手もとても普通の状態ではいられなくなり、時に体調を崩すこともありました。当時の山口県体育協会の濱崎主事には大いに励ましていただきました。また、山口国体に出場する他競技の指導者の方々とも情報交換しながらそれぞれの悩みを話したり、励まし合ったりもしました。そのうち「なるようにしかな

らない」「結果を気にせずできることを全力でやっていくだけ」というようなムードが私にもチームにも醸成されていき、結果が伴ってくるようになりました。強化はある程度順調に進んでいったのですが、ここで想定外のことが起こりました。山口国体前年におこった3.11東日本大震災です。これにより出場予定だった春の全国選抜大会は中止になり、その後予定していた様々な遠征も計画変更を余儀なくされました。惜しむらくは、その後の半年の強化計画を無事遂行できていたらと考えると残念でなりません。それでも夏のインターハイではダブルスで５位に入賞し、勢いそのままにいよいよ山口国体を迎えることになりました。初戦、岩手県との対戦で入場する際の会場中の割れんばかりの拍手は今でも覚えています。心底ありがたかく、正直瞼が熱くなりました。試合は苦しみながらも２対１で勝利し、入賞のかかった大一番、熊本県との対戦になりました。ダブルスで飛高・藤本組が接戦の末敗れ、続くシングルスの瀬島も善戦むなしく破れてしまい０対２で敗退、惜しくも入賞はなりませんでした。これまでの数年間のチャレンジが終わった後、一種の虚脱感とともに、これまで応援していただいた皆様への感謝と結果を残せなかったことへのお詫び、いろいろなことが頭の中を駆け巡りました。大会は成年男子と成年女子の入賞により目標だった30点には届かなかったもののバドミントン競技としては25.5点を獲得することができました。

県全体をあげた一大行事を経験してみて今感じることは、組織づくりの大切さでしょうか。山口国体では、県体協の支援のもと、成年種別の強化拠点として男子は宇部興産、女子では西京銀行のチームが整備されました。このうち西京銀行は、NPO法人ACT SAIKYOとしてスタートしましたが、その後も会社の支援を受けながら強化を継続し、今ではチームを株式会社化するなどの先進的な取組も行い、強豪チームとして県内はもとより全国にも名を馳せています。自前の体育館をつくり、県内の高校や大学のチームと合同練習したり、アカデミーを開設して自前でジュニア選手の育成に取り組んだりと、その活動はしっかりと根付いています。そしてその影響は柳井商工高校や柳井中学校の全国優勝につながっています。国体開催から10年以上経過した今では、ACT SAIKYOをピラミッドの頂点とするジュニアからの強化システムが構築されつつあります。これはまさしく山口国体のレガシーであると確信しています。男子の強化を担当した者としては、男子の方でもUBE（宇部興産）を中心としたピラミッドが形成されることを期待したいところですが、これには会社の理解が不可欠だと思います。いろいろな方々の尽力により山口国体は無事開催されましたが、そのレガシーをさらに磨いていかなければならないと思います。山口県のバドミントンが「全国で活躍するチームが自分の町にある。」そしてそのチームを中心として「バドミントン文化が地域に根付いていける。」さらに「バドミントンに関わる全ての人がハッピーになれる。」そんな発展を期待してやみません。

第 68 回全日本実業団バドミントン選手権大会開催の軌跡

平成 30 年 7 月 4 日～8 日　キリンビバレッジ㈱周南総合スポーツセンター
下松市スポーツ公園体育館・下松市市民体育館
大会実行委員長　末廣　秀樹

第 66 回山口国体が終了して、その興奮が冷めやらぬ平成 24 年後半、久次副会長に国体に続く何らかの全日本大会を山口県に誘致してみようではないかと持ち掛けたのが始まりでした。そこで全日本社会人・実業団・シニア大会の中から試合数・コート数・役員数等から検討を始め、個人戦は試合数が多く人出がかかるということから団体戦を開催しようと全日本実業団大会に絞りました。

この大会は参加 200 チーム、コート数 35 面以上、参加者数 2000 人規模で、大会運営は日本実連が行い、地元は運営補助という役割になります。審判も登録審判制で予選リーグ・決勝トーナメントはチーム相互で行い、準々決勝からは開催地の審判員が行うことになります。役員数は他の全国大会と比べて少なくて済み、人手等があまりかからないので山口県での開催も可能だと考えました。さらに私が平成 20 年から日本実連の中国ブロック理事として八代・広島・神戸・石川大会の運営に携さわったことで日本実連へ進言ができたことは、大会誘致の大きな要因となりました。

平成 24 年末、久次・末廣・吉川直樹県実連理事長で全日本実業団大会の誘致を山口県実連会長・山口県協会理事長に上申し、平成 25 年 9 月、第 67 回全日本実業団選手権大会をキリンビバレッジ㈱周南総合スポーツセンター・周南市新南陽体育館・下松市スポーツ公園体育館での開催要望書を日本実連理事長宛に提出しました。

平成 26 年 8 月、日本実連理事会で第 67 回秋田大会、第 68 回山口大会の開催順が審議され、平成 27 年 5 月の総会で承認されました。

山口大会実行委員会を県実業団連盟会長平岡英雄、委員長末廣秀樹、副委員長久次優、県実業団連盟吉川直樹、高橋和也、秋元直幸、県協会野村義徳、田内正彦、下松市協会大段宏、河村則彦の 10 名で発足しました。平成 27 年 7 月第 1 回実行委員会を周南市で開催、それを皮切りに、第 65 回京都大会視察、同年 8 月日本実連より体育施設使用許可申請書(仮予約)受領、周南・下松市長を訪問して大会誘致を報告。平成 28 年第 66 回福井大会へ実行委員会、末廣・久次・吉川・田内・秋元・大段が視察、日実連と詳細打合せを行いました。

平成 29 年 4 月西京銀行のご厚意により徳山銀南街に開催地事務局を開設。5 月、会長と委員長が日本実連総会出席、第 68 回山口大会を平成 30 年 7 月 4 日～8 日、キリンビバレッジ㈱周南総合スポーツセンター・下松市スポーツ公園体育館・下松市市民体育館での開催が正式に決定されました。

7 月、第 67 回秋田大会へ平岡会長・末廣・久次が出席、次年度開催地挨拶等を行った。

8 月、日本実連よりナショナルチームの予定で大会期日 7 月開催を 6 月 13 日～17 日に変更できないかと打診があり、体育館調整他諸々の難局を実行委員会の総力で乗り切り、開催期日変更を受諾した。(後日談だが 7 月 5 日～ 7 日には西日本豪雨災害が発生)

平成 30 年 3 月末から久次・末廣が開催地事務局へ常駐し開催に向け準備を加速させた。4 月に大会ポスターを作製。



５月、末廣・久次・吉川が味の素ナショナルトレーニングセンターで開催された日本実連理事会・総会に出席、引続き本大会の公開抽選会に臨み組合せが決定し、６月に大会プログラム作製、参加賞（大会記念タオル・UBE ポリラップ・団扇）を配布等、全ての準備が完了しました。

厚生労働大臣杯第 68 回全日本実業団バドミントン選手権大会山口大会を平成 30 年６月 13 日から 17 日までの５日間にわたり、全国各地より予選を勝ち抜いた 214 チーム（男子 172 チーム・女子 42 チーム）の総勢 2,500 名の選手団を迎え、競技役員延べ 610 名による県初の開催が開幕したのでした。

大会初日、代表者・監督会議、開会式、午後より１次リーグ開始、夕刻に歓迎レセプションを「遠石会館」で開催しました。

コート数はキリンビバレッジ㈱が 23 面・スポーツ公園体育館 10 面・下松市市民体育館８面、練習会場は日立笠戸体育館６面・東洋鋼鈑体育館８面・キリンビバレッジ㈱サブ８面を使用しました。

大会２日目は１次リーグ戦。大会３日目からは決勝トーナメント戦、ベスト８を選出。

大会４日目は準々決勝・準決勝。この日より最終日までの２日間は実業団大会初の試みとして防犯対策等を含めての有料観戦で行いました。この日の夜、「国民宿舎王城」にて実連役員と地元役員で全体反省会を実施しました。

大会最終日、決勝戦男子団体はトナミ運輸が日本ユニシスに３－１で勝利。女子団体は日本ユニシスがヨネックスに３－２で勝利。直ちに閉会式を行い全日程が終了したのでした。

本大会では地元をはじめ多くのバドミントンファンにとって、世界に通じるハイレベルなプレーを間近で観戦する機会とすることができました。また、日本実連の役員の皆様から様々なアドバイスをいただき、無事大会を成功裏に終了することができました。

地元勢は男子団体に宇部興産（現 UBE）・日本製紙岩国・東ソー・三菱重工下関・日立笠戸・山口県庁・周南市役所・トクヤマ、女子団体に ACT SAIKYO が出場しました。その中で宇部興産と ACT SAIKYO がベスト 16 に入り次回大会のシード権を獲得しました。

本大会での使用シャトルはヨネックス・ゴーセン・ミズノ・ビクターの４社。出店コーナ 14 社、協賛企業 37 社、報道関係取材 38 社、そしてライブネット中継もされました。

大会終了後直ちに、大会報告書作成等の後処理作業を開始。７月末、締めの第 14 回実行委員会を開催し、決算報告等を行いました。８月末、試合結果等の大会報告書が完成。各関係個所へ郵送し全てのミッションが終了。大会事務局を閉鎖し、平岡実連会長に大会開催のお礼と報告を行いました。

９月１日、締めの実行委員会と地元協会役員の慰労会を実施しました。

大会開催までの６年間、県協会・県実連・周南市協会・下松市協会・行政等関係者方々のご協力ご支援に深く感謝を申し上げます。

山口の舞台で戦った全日本実業団

平成 30 年７月４日～８日　キリンビバレッジ 周南総合スポーツセンター
下松市スポーツ公園体育館・下松市市民体育館

元　ＡＣＴ　ＳＡＩＫＹＯ　齋藤　栞

山口で戦える嬉しさ！！

私が ACT　SAIKYO に入団した３年目（2018 年６月）に、山口の舞台で全日本実業団が開催され、地元で戦える機会が巡ってきました。

前年度は広島ガスに２－３で負け、ベスト 16 止まり、とても悔しかったのを覚えています。前年度と同じ思いはしたくない、絶対に勝ちたいと臨んだ全日本実業団でした。



立ちはだかる再春館製薬所

予選リーグから勝ち上がった ACT SAIKYO は、ベスト８進出をかけて再春館製薬所との対戦に挑みました。

オーダーは

第１ダブルス　：今野・今井（ACTSAIKYO）
　　志田・松山（再春館製薬所）
第２ダブルス　：加藤・柏原（ACTSAIKYO）
　　藤井・小野（再春館製薬所）
第１シングルス：今井（ACTSAIKYO）
　　仲井（再春館製薬所）
第２シングルス：斉藤　栞　（ACTSAIKYO）
　　山口（再春館製薬所）
第３シングルス：林　（ACTSAIKYO）
　　峰　（再春館製薬所）



第１ダブルスは、志田・松山（再春館製薬所）の勝利で０－１。次の第２ダブルスは加藤・柏原（ACT　SAIKYO）の勝利で１－１でイーブンに戻すが、第１シングスは仲井（再春館製薬所）の勝利で１－２にリードされた状況の中、勝負は、世界ランキング上位の山口茜選手と私との試合に託されることとなりました。

山口選手と私は、同級生ということもあり、小学生の頃から、幾度となく対戦していました。プライベートでは仲がよく、親しく話す間柄でもありましたが、これまでの対戦では、一度も勝ったことはありませんでした。今回こそは、絶対に勝ちたいという思いで挑んだ試合でした。

試合はファーストゲームを先取され、セカンドゲームを落としたら負けという状況に追い込まれました。セカンドゲーム、会場の大応援を背に「負けるわけにはいかない」という思いで 19 本で競り勝つことができました。勝負はファイナルへ。『ファイナルまできたのだから絶対に勝ちたい！』という気持ちで戦い続けましたが、終盤の競り合いから、山口選手にきわどいところに何本か決められてしまい 17 本でゲームセット。惜敗。その場で団体戦としても終了。第３シングルでスタンバイしていた林選手の試合にまわすことができず、対戦結果は１－３でベスト 16 での敗退となりました。強い気持ちをもって挑んだ全日本実業団でしたが、悔しい幕切れとなりました。

山口県をバドミントン王国に！

全日本実業団を振り返ると、山口県のバドミントンファンの皆さんにたくさん応援していただき、応援の力を背に山口選手とのファイナル勝負に持ち込むことができました。最後まで諦めることなく戦えたことは、皆さんの力強い応援が大きな要因だったと確信しています。

それ以降のＳ/Ｊリーグでは、山口開催の会場は超満員。大きな声援と拍手が選手に毎回送られています。その声援と拍手が選手の力になっていることは間違いありません。

これからも ACT SAIKYO が≪山口県をバドミントン王国に！≫の合言葉の先駆者として、山口県の方々にバドミントンの楽しさを伝えていきたいと思っています。また、同じく ACT SAIKYO に所属している妹の夏と姉妹でもっともっと頑張っていきたいです。



第 48 回全国中学校バドミントン大会

平成 30 年８月 18 日～８月 21 日　維新百年記念公園アリーナ

山口県中体連バドミントン専門委員長　佐藤　雄吾

務まるのか全中事務局

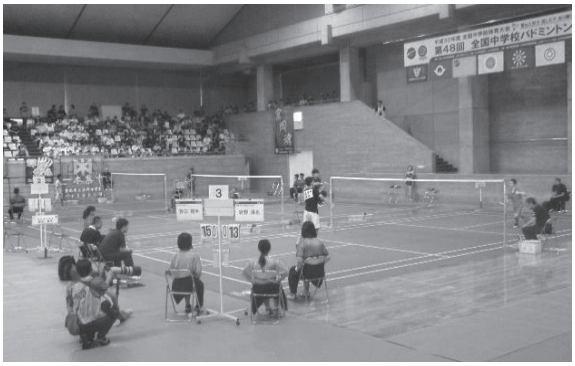
「５年後、全中引き受けだから」と言われ、県の専門委員長に指名されたのが 2013 年の暮れでした。全中事務局という大役が私のような若輩者に務まるのかと不安ばかりだったことを思い出します。しかし、ここからの５年間はその不安を感じる間もない怒涛の日々でした。中国ブロック長として毎年、全中の大会運営を拝見させていただきました。前年の佐賀大会には、山口大会で運営に携わる専門部員９名と山口県バドミントン協会理事長で視察に行き、準備や運営についてさまざまな話を聞かせていただき、参考にすることができました。

さわやかに運営

2018 年全中山口大会の運営で特に心がけたことは「さわやかな運営」です。

中学日本一を決めるために各地の予選を勝ち抜いてきた選手、監督、コーチ、保護者の皆様が気持ちよく試合にのぞめるようにすることこそが大会の成功です。大会当日を迎えるまでの準備は大変忙しく、ついつい運営側の都合を優先してしまいがちでしたが、その都度「それは本当に選手が気持ちよく戦える運営なのか」考えながら準備しました。

前年度の中国大会から、山口市内バドミントン部員や高体連バドミントン部員に、線審、めくり、誘導、受付等の役割を担ってもらいました。その時に気をつけていたのは「さわやかな姿勢と表情」です。背筋がのびたきれいな姿勢で試合運営に携わる線審やめくりの生徒。観客や選手、監督に笑顔で対応する誘導、受付等の生徒。“補助員”ではなく“生徒役員”として、さわやかに大会を支えた中高生バドミントン部員の姿勢と表情は、何よりの成果だと思っています。大会が終わって、「平成最後の大会」「猪苗代中の初の六冠達成」以外にも「さわやかな山口での大会」という印象を少しでも残せたのならうれしい限りです。



〈線審、めくりは姿勢を意識〉

山口全中から早７年近くが経ちますが、あらためて大会に関わったすべての方々へ感謝を伝えたいです。コートマットや公認審判員の手配をしていただいた山口県バドミントン協会。毎日多くの競技役員を派遣していただいた山口市中体連。生徒役員としてしっかりと役割を果たしていただいた山口市内バドミントン部員や高体連バドミントン部員。何から手をつけてよいのかわからない自分を支えていただいた山口県中体連、日本中体連、日本バドミントン協会、山口県教育委員会、山口市教育委員会。そしてともに悩み、考え、汗を流し、知恵を出していただいた中体連バドミントン専門部員の先生方。本当にありがとうございました。

感謝を伝える方々をすべて紹介するには紙面が足りません。関わっていただいたすべての皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

第 48 回全国中学校バドミントン選手権大会

平成 30 年８月 18 日～８月 21 日　維新百年記念公園アリーナ

龍谷大学学友会体育局バドミントン部　金廣　真季

バドミントンとの出会い・はじまり

私は小学１年生の時に山口県でバドミントンを始めました。２歳上の姉の影響で地元のクラブチームに入りました。当初は、シャトルを打つことが楽しくて、毎日練習に行き、強くなるためにコツコツと取り組みました。私は「山口県内で勝つことはできても中国地区や全国で勝てる選手」では到底ありませんでしたが、学年が上がるごとに地元の柳井中学校や柳井商工高校で練習できる環境を作っていただきました。中学生や高校生に相手をしていただいた経験は、振り返ってみて本当に恵まれた環境だったのだと思います。

チーム山口ジュニア・チーム山口の設立

小学３年生の時、自身が中学２年次に全国中学校体育大会の山口県開催が決まりました。５年後の開催に向けて、強化の一環として「チーム山口ジュニア」が組織されました。各学年の県内トップ選手が集まり、月に１回程度、強化練習会が開かれました。私自身、この練習会がとても楽しみでした。ライバルの選手から刺激をもらうことは勿論、普段指導を受けられない指導者の方とコミュニケーションを取れる機会でもあったからです。このチーム山口ジュニアの取組で、私も含め、山口県の選手が全国の舞台で勝負できるようになったと思っています。

地元開催の全中

中学２年生の夏、予定どおり全中が山口市で開催されました。この大会で結果を残すために懸命に練習を積み重ねてきました。大会当日、当初はあまり実感が湧いていませんでしたが、開会式で主将の先輩が選手宣誓するのを見て、戦う覚悟ができたことを覚えています。最初に行われた団体戦は、チームが目標としていた日本一には届かず、ベスト８という結果で終わりました。地元で行われる団体戦で日本一を獲ることができず、とても悔しい気持ちと先輩と戦える最後の団体戦でもあったので、こみ上げてくるものも大きかったです。個人戦は、開催地枠でシングルスに出場しました。中学２年生での出場だったので、挑戦する気持ちで臨みました。それでも地元で開催される全国大会は、予想以上に緊張したことを覚えています。初戦は同学年の同じジュニアナショナルの選手。３回戦の相手も同学年の選手。苦しみながらもストレートで勝利し、ベスト８を決めました。準々決勝は岡山県の同学年の選手、これまでの対戦で勝ったことのない選手でした。２週間前の中国地区大会でも敗れていました。試合はお互いに勝ちたいという気持ちのぶつかり合いでした。試合の終盤、今まで練習に関わってくださった方々の顔が頭に浮かびました。観客席で応援してくれているチームメイトや保護者、そして何よりも強化に携わってくださった協会関係者の人のためにも、この試合を勝ちきり最終日のコートに立ちたいと強く思いました。小学生の時では絶対に敵うことのなかった選手に勝つことができたのは、今までの競技人生の中でもベストゲームだったかもしれません。勝利した直後、ベンチ席や観客席で泣いて自分の勝利を喜んでくれる姿、笑顔で拍手をしてくれる姿を見て涙が止まりませんでした。試合に勝って流す初めてのうれし涙でした。最終日の準決勝は敗れてしまいましたが、「２年生でベスト４に入る」という目標を達成することができました。自分の力だけでは、到底届くことができなかった結果を、

地元の山口県で達成することができました。今までチーム山口ジュニアやチーム山口で強化を続けてくださった方々に恩返しすることができたことは今でも誇りに思います。そして感謝の気持ちでいっぱいです。



柳井商工高校に進学して

私は小学校時代からお世話になっていた柳井商工高校に進学しました。本気で日本一を目指せる学校だと感じたからです。入学直後は新型コロナウイルスに翻弄され、チームメイトと一緒に練習ができない辛さや大会がないという辛さを味わいました。先輩から、「大会が再開されたときに勝てる準備をとにかくするだけ」と背中を押してもっていました。高校１年生の時は怪我にも悩まされ、正直バドミントンを楽しいと思えない時期もありました。全国高校選抜大会の団体戦で初めて優勝した時も、嬉しい反面、試合で貢献することができない悔しさやもどかしさがありました。２年生になり、先輩方が団体戦で春夏連覇を達成したことで私たちの代でも連覇したいと強く思うようになりました。先輩方が引退してチームの副主将となり、自分が主体になって戦う意識が高まりました。選抜大会やインターハイの前には、チーム山口の強化練習を通じ、ACT SAIKYOの選手と練習する機会も増え、個々のレベルアップで選抜大会やインターハイで優勝することができたと感じています。

山口県の強み

山口県のバドミントンの強みは小・中・



高・社会人の連携が取れている点だと思います。年齢関係になく、刺激し合える環境がある山口県は、ここ数年多くの素晴らしい選手を輩出し、日本のみならず世界で活躍する選手が増えています。私も小学生から高校生までこの素晴らしい環境の下でバドミントンをさせていただき、成長することができました。私が高い目標を設定することができたのは、ライバルと刺激し合う機会が数多くあったことや素晴らしい指導者に巡り合うことができたからだと確信しています。「山口県をバドミントン王国に」というスローガンのもと、世代の垣根を越えて強化を進め、今現在は柳井商工高校やACT SAIKYOが日本のトップで活躍しています。知名度が上がり全国からも注目されていると感じています。山口県を離れ競技を続けている私も、「このような恵まれた環境や連携が取れている都道府県は他にはない」と改めて実感しています。2025年に山口県で開催される高校総体では、全種目で山口県の選手が活躍してくれることを陰ながら祈っています。そして、「バドミントン競技といえば山口県」と誰もが思うような県になることを心の底から願っています。



第 43 回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

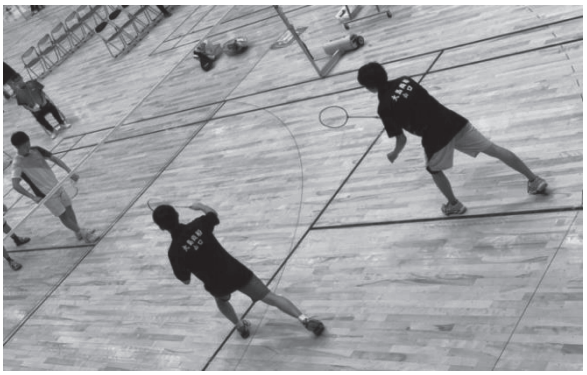
令和元年８月 31 日～９月１日　周南市総合スポーツセンター

大島商船高等専門学校　橘　理恵

初心者による大会運営奮闘記

ある日突然、「中国地区高専体育大会運営委員会で本校が全国大会のバドミントン競技の主幹校になりました。運営をよろしくお願いします」と、事前打診もなしに決定事項だけを突きつけられました。第一顧問だった私は、否応なしに責任者を担うことになりました。大会開催まで残り一年半という限られた時間の中で、不安ばかりが募りました。それからは、日本バドミントン協会の大会運営規則を熟読し、全国大会の運営経験者から情報を収集し、同僚が記録した視察映像を頼りに準備を進めることになりました。本誌をご覧いただいている方々からすれば、全国規模の大会運営をこれほど無知な状態で担当したということは信じ難いでしょう。

ここまでの記述からは不運に見舞われたように思われるでしょうが、大会運営初心者の私にとっては、幸運に恵まれたと感じることも多々ありました。大会当時の県協会理事長・野村義徳氏を筆頭に副理事長・田内正彦氏、周南市協会理事長・秋元直幸氏、審判部長・田中康行氏をはじめとする関係者の方々から多大なご協力をいただきました。前年度に周南市で開催された全日本実業団バドミントン選手権大会のレガシーとして、設備や審判陣が十分に確保されていたことも大きな助けとなりました。特に、秋元氏の経験と段取りの良さは素晴らしく常に頼りにしていました。不慣れなゆえに不手際が目立ちご迷惑をおかけしましたが、関係者の方に心から感謝申し上げます。



〈大島商船男子選手（向田・森）の試合の様子〉

大会当日は周南市協会に加えて山口県内の各市郡協会から審判のご協力をいただき、周南地区の高校生には夏休み最終日にもかかわらず、ほぼ総動員で補助員として運営に携わってもらいました。初日は休憩時間がほとんど取れず、皆様には大変なご負担をおかけしてしまいました。心よりお詫び申し上げますとともに、深く感謝申し上げます。さらに、バドミントンに情熱を注いでいた本校主将・向田颯真君が、チーム強化に日々取り組んでくれたことも幸運でした。大会結果は、開催校枠の本校学生は悔しい結果でしたが、山口県勢では徳山高専女子が団体三位、個人では女子ダブルスにおいて及川希・中道香絵組、磯辺詩帆・伊藤茉耶組が第三位、伊藤茉耶さんはシングルスも第三位という輝かしい成績を収めました。

経験不足の私が大会を無事終えることができたのは「山口をバドミントン王国に」と日々ご尽力されている県協会の皆様の存在と活動に支えていただいたおかげです。心から感謝の意を表するとともに、更なる発展を心よりお祈り申し上げます。



〈徳山高等専門学校女子選手の健闘の様子〉

山口から世界へ

柳井商工高等学校バドミントン部監督　竹光　唯至

日本一

初優勝の瞬間はこの先も一生忘れることはないと思います。決勝の相手は何度も思い描いた福島県立ふたば未来学園高校でした。優勝ポイントを勝ち取った瞬間、選手、サポーター全員が駆け寄り、歓喜の輪ができました。選手一人一人の最高の笑顔を眺めながら、私の中では、同じ目標を掲げて今まで柳井商工というチームを作り上げてくれた卒業生の面々が脳裏に浮かびました。

日本一を勝ち取った前年は、コロナの影響で全国大会はすべてが中止になりました。正直モチベーションをどこに向ければよいのかわからない状況でした。それでも選手たちは、最後の最後まで「チームのために」「日本一を」という意識を持って日々の練習に取り組んでいました。その選手たちもこれまでの先輩たちの「次こそは日本一を」という気持ちを受け継いでいました。日本一に輝いた選手だけでなく、それまで気持ちを繋いだすべての選手の手で勝ち取った「日本一」だったと思います。

2024 年の選抜大会では、エースの宮崎友花を海外遠征で抜いた中でも、一人一人が「チームのために」という意識でどこよりも熱く、チャレンジをしてくれたおかげで優勝、全国大会７連覇を達成しました。今後も「チームのために」「日本一」という気持ちを忘れずにチャレンジし続けたいと思います。

山口だからできる！世界へ！！

以前のチームのスローガンは「山口でもできる」でした。そして、10 年以上前から始めた地元の小・中学生との合同練習が実



を結び、「山口だからできる」というバドミントン界での「山口ブランド」ができたと思います。今では、「山口で、柳井でバドミントンをしたい」という選手が他県からもチームの門を叩くようになりました。

次にチームが目指すのは、世界のステージです。「山口から世界へ」をスローガンにチームは進化しています。2022 年の世界ジュニアで、女子シングルスで宮崎友花が優勝。2023 年も女子ダブルスで田口真彩が同大会で優勝しました。2024 年の３月に行われたシニアの世界トップレベル、オルレアンマスターズでは、宮崎友花、明地陽菜（2022 年卒業：再春館）、水津愛美（2021 年卒業：ACT SAIKYO）の３人が準決勝、決勝を戦い、表彰台を独占しました。

ここからが本当の勝負だと思っています。一層気を引きしめ、更に前進し、山口を、日本を、世界を引っ張れるよう精進したいと思います。



第４９回全国高校選抜バドミントン

令和３年３月 25 日～３月 28 日　福島県宝来屋郡山総合体育

ＡＣＴ　ＳＡＩＫＹＯ　水津　愛美（元柳井商工キャプテン）

悲願の日本一

山口県バドミントン協会が創立 75 周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

私は小学一年生から地元である山口県でバドミントンをしてきました。常に「日本一」という目標を掲げ練習を積み重ね、高校２年生で迎えた全国選抜で悲願の団体優勝を達成しました。この勝利は自分たちだけの力では成し遂げられなかったと思います。初戦から苦しい場面が何度もありましたが、試合を重ねるごとにチームの団結力も上がり、さらに応援にも後押しされ優勝することができました。優勝を決めた瞬間は「やっと日本一だ！」と思い、嬉しさより安堵の気持ちが大きかったことを覚えています。



勝負の決勝戦

決勝の相手は何度も優勝経験のあるふたば未来学園。「自分が勝てば日本一」という状況はプレッシャーがかかりましたが、コロナ禍で声出し応援が禁止の中、必死に応援してくれたみんなのために我慢強く戦いました。優勝を決めた瞬間、チームのみんなが駆け寄ってきてくれてとても嬉しかったです。チームメイトや先生、先輩・保護者の方々などの日本一にかける強い思いが、最後に結果として結びついてくれたと思っています。



山場の準決勝

準決勝の相手は青森山田高校でした。柳井商工は全国大会３位が最高成績で、まだ決勝戦に進出したことはありませんでした。私は第２ダブルスと第２シングルスを任せてもらいました。２複３単形式の団体戦、ダブルスを１つ取ればかなり有利でしたが、第１ダブルスを取られてしまい、私たちのダブルスもファイナル 20-17 から逆転されてしまいました。正直、すぐにシングルスに気持ちを切り替えるのは難しかったですが、「まだ終わってない。諦めたらダメだ。」と思い、試合に向かいました。

結果、シングルス３本で勝利し、決勝戦に駒を進めることができました。苦しい状況の中、みんなで準決勝という山場を乗り越えたことが日本一になれた大きな要因だったと思います。



徳山工業高等専門学校バドミントン部全国高専大会の記録

徳山工業高等専門学校バドミントン部監督　柳澤　秀明

徳山工業高等専門学校バドミントン部

徳山工業高等専門学校（徳山高専）のバドミントン部は、昭和 49 年に創部した記録が残っています。現在の部員数は本科生、専攻科生を合わせて 43 名（男子 31 名、女子 12 名）です。

徳山高専バドミントン部は、全国高等専門学校体育大会バドミントン競技兼全日本高等専門学校バドミントン選手権大会（全国高専大会）出場を目標として活動しています。毎年７月上旬に中国地区８高専（徳山高専、大島商船、宇部高専、呉高専、広島商船、津山高専、津山高専、米子高専）による中国地区高専大会が行われ、団体戦１チーム、個人戦シングルス２名、ダブルス２組が全国高専大会に出場することができます。

高専大会の団体戦は、１複２単で行われ、単複を兼ねることはできません。最低４人の選手が必要になります。

徳山高専の全国高専大会優勝の歩み

徳山高専バドミントン部にとって初めての全国大会優勝は平成 20 年の北海道大会における個人戦女子ダブルス優勝です。河村美咲・古城朋子組が 1 年生ながら全国優勝を果たしなした。その後５年間負けることなく、５連覇を達成しました。また、河村美咲は、翌年の福岡大会において、２年生ながら個人戦シングルスでも優勝し、その後４年間負けることなく、４連覇を達成しました。平成 22 年には、個人戦男子ダブルスで藤山貴幸・瀬島史也組が優勝し、平成 25 年には、個人戦シングルスで瀬島史也が初優勝しています。

団体戦初優勝は、平成 23 年の小山大会における男女アベック優勝です。（当時、女子団体戦は、非公式戦扱い）

女子団体戦は、平成 29 年度より正式種目となりましたが、令和元年、３年、４年と３位が続き、あと一歩、優勝には届きませんでした。（令和２年は，新型コロナウイルス感染症の影響により大会中止）正式種目になってから初めての優勝は、令和５年の東京大会になります。伊藤茉耶、清水千聖、今岡咲絵、及川歩、田中玲奈、中野遥菜、飯田ひかりのメンバーによる栄冠でした。また、個人戦女子ダブルスで、伊藤茉耶・及川歩組が優勝し、３連覇を達成しました。

これからの徳山高専バドミントン部

徳山高専バドミントン部は、こらからも全国高専大会での優勝を目指して頑張っていきます。



〈令和５年全国高専大会女子ダブルス準決勝〉



〈令和５年全国高専大会〉

全日本シニアバドミントン選手権大会出場の軌跡

熊毛郡バドミントン協会　　石井　伸子

全日本シニアバドミントン選手権大会へ初めて出場したのは2014年開催第31回愛知大会、私が70歳の時でした。ダブルスとシングルスに出場しました。出場権利獲得とはいえ、シングルスなんてできるのかしら？なんて気持ちで参加したことを覚えています。

30代半ばでバドミントンに出会い、ゲーム感覚に楽しみを覚え、機会を求めて各所に練習場所を探し、県内の大会に出場するうちに中国レディース大会や中国シニア大会、西日本レディース大会（平成18年度より全日本レディースバドミントン選手権大会）などに女子ダブルス・混合ダブルスで出場するようになっていきました。しかし、初めての全日本シニア大会にダブルスだけでなく、あまり経験のないシングルスでエントリーすることになるとは30代・40代の自分には想像できなかったと思います。初戦神奈川の選手とのシングルスは緊張しながらも見様見真似で無難にこなし、さて次は第２シードの地元愛知県の山本しず子さんとの対戦。正直ここで終わりかなぁと、ハイクリアーは得意ではなく、全面をカバーするほどの力強いフットワークもないながら、中高生時代のソフトボールと日本舞踊で鍛えた体幹やダブルスで培った読みの速さ、ドリブンクリアーと柔らかいヘアピンで相手を揺さぶり、21－16、21－17のストレートで撃破。シード選手に勝ったあとは勢いにのり、シングルス計５試合、ダブルス計５試合、１ゲームも落とすことなく初出場で２冠を達成していました。シングルス表彰式後の写真撮影もすることなく急いで会場をあとにしたことも、その後山口県から彗星のように選手が登場したと東日本の同年代の選手たちの間で少し話題になったことも懐かしいです。

初優勝から９年が過ぎ、この９年間には新型コロナ感染症拡大の影響もあり、全日本大会も2020年・2021年の２年にわたり中止。出場を楽しみにしていた日本で開催予定のワールドゲームスも延期のち中止となり、いつ終息するともわからない状況の中、気力的にも体力的にもバドミントンへの興味をそがれた時期もありました。そして2023年79歳の私は、今年度も全国シニア大会のコートに立ち、ダブルスは大会中止をはさんでの６連覇・通算７回目の優勝、シングルスでは４度目の優勝を狙うも３位という結果でした。来年度以降は80歳代での挑戦となりますが、ダブルスパートナーにも恵まれ、まだまだバドミントンへのあくなき興味もあります。「次こそは」とやってくる対戦者と切磋琢磨し、駆け引きを楽しむために体調管理・ケガの予防に気を配り、もちろん周りのサポートも大切にしながら、できうる限り全国大会含め、各種各地大会に参加したいと思っています。

最後になりましたが、75周年記念誌の発刊に際し掲載の機会を与えてくださったことに感謝し、山口県バドミントン協会の益々の発展と選手の活躍を祈念します。



〈2024年11月全日本シニア大会にて〉

バド歴５０年の思い出

光市バドミントン協会　　松尾　真澄

このたびは山口県バドミントン協会創立75周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私のバドミントン競技の始まりは高校１年生の２月、三浦捷治先生に「練習きてみんか？」と声をかけて頂いたことでした。自分の中でもやってみたいなという気持ちがあったので、男子ばかりで女子は１人でしたが入部を決めました。

先生には競技指導、心構えなど競技だけでなく、社会人になってもちゃんと行動出来るようにしなさいと、日頃より色んなアドバイスをしてもらいました。先生との出会いはその後の私の人生にとってかけがえのない礎となったことは言うまでもありません。

あの日から50年が過ぎました。数々の思い出が浮かんできます。

実業団でプレーを続け、国体出場を目標に仲間と日々練習したこと。ミニ国体に向けての強化合宿。先輩方のアドバイスをいただき、国体本戦への切符を勝ち取り、入場行進をした時は鳥肌が立ったのを今も忘れません。

その後、中国大会、実業団大会、レディース大会、シニア大会等参加する中で懐かしい選手との再会や親睦を深められたことも楽しい思い出となりました。

そんな中でも、一番の出来事は山口国体でバドミントン競技が光市に決まったことでした。５年の準備期間を経て、大会の運営、そして本番の４日間を連日満員で大声援の中、無事に終わることができたのも行政の方々、県協会の各役員の方々、光市の役員の方々、レディースの皆さんのおかげでした。本当に感謝しかありません。ありがとうございました。私たち家族も息子が選手として、３人は役員としてお手伝い出来たことは一生の宝物となりました。

もう一つ大きな出来事としてあげれば、母校である柳井商工高校のインターハイ優勝です。「山口県をバドミントン王国に！！」のスローガンのまさにその第一歩となった素晴らしい快挙でした。この報告を亡くなられた三浦先生、岡村先生、田中先生に直接お伝えすることが出来なかったことが残念でなりません。

現在、多数の方々が各ジュニア、学校で選手の育成や強化に努めておられます。毎日のご指導ご苦労様です。一人でも多くの選手がプレーを続けられるようこれからもよろしくお願いします。

バドミントンを通じて巡り会えた皆様に感謝し筆を置きたいと思います。

ありがとうございました。

社会人から始めた私でも目標と経験を積み重ねた結果　世界２位

ＪＴ練習会　藤田　進

バドミントン競技始動

私は中学と高校も帰宅部で、運動はほとんどしていませんでした。高校の時の体重は 103 kgもありました。20 才の時に、職場の上司からバドミントンの同好会に誘われ、練習に参加したことで、バドミントンが最も大切な趣味になりました。

試合が練習で、試合で上達する方法

競技を始めて１年、初めて県のＢ級の大会に出場し、緊張から冷静を失い中学生に負けた悔しさの経験が、その後のバドミントン競技の原点になりました。

経験者が少ない防府市で上達する方法は、すべての大会に出場することでした。特に国体予選などは、ほとんどが実業団の選手で、緊張感と経験値を積める、私にとって最も効果的な練習と上達方法でした。

ダブルスパートナー誕生

29 才の時に他会社に転籍、交代勤務から日勤となり、練習時間が倍以上になったタイミングで第１回新沼謙治杯が開催されました。優勝の後、新沼さんの要望で試合をすることになり、その場で河村則彦さんと初めてペアを組み、これが運命の出会いでした。河村さんとダブルスを組んで、全日本社会人を含め、約 35 年にわたりほとんどの中国・全日本シニア大会に出場しました。

世界シニア選手権の出場

全日本シニアのシングルスで、2004 年第２回世界シニア選手権マレーシア大会の出場権を獲得しました。開催要項を見ると、13 日間の日程と 50 万円以上の旅費が必要でした。河村さんに、駄目もとで「行く？」と尋ねたら「行く」と即答でした。私は全力を注ぐため、ダブルスだけに出場しました。

日本人選手のほとんどが、全日本シニア優勝・準優勝者の常連で、私達は無名の存在でした。40 代の出場者は 20 組で、１日１試合ペースで試合が進み、日本人と違った脅威のスピードとパワーで攻め中心の選手と体育館内の異常な風、国際審判や周辺の雰囲気で、予選リーグから緊張と興奮の状態でしたが、私達の特徴を活かし、２試合を勝利して決勝トーナメントに進めました。

初戦はインド、準決勝のマレーシアは男子ダブルスで、私達だけが勝ち残ったので全員で試合を応援してくれました。決勝だけは夜からの試合開始でしたが、昼間の練習で足を痛めたため、決勝のインド戦は集中力に欠けてしまいました。また、表彰は２位までと聞いていたため、メダル獲得の満足感もあり負けてしまいました。



帰国前の打ち上げ会で、無名の私達の活躍が注目を集め、「日本での競技歴はどうなの？」の質問責めから、二人が社会人から始めたことを知ると更に驚かれました。

その後、2007 年の台湾大会ではシングルス、ダブルスに出場、世界シニア大会が国際グレード１に昇格した 2015 年のスェーデン大会にダブルス、ミックスに出場しました。

日本代表として、世界シニアに３回も出場した経験と、多くの関係者との交流が私の財産となりました。このような経験ができたのは、すべて河村則彦さんのおかげだと思っています。

日本製紙岩国　吉川選手の活躍

日本製紙岩国　　高橋　和也

経緯

吉川選手は2008年に日本製紙伏木工場から岩国工場へ転勤、元々バドミントン部に所属していたことから岩国工場でもバドミントン部に入部、山口県でバドミントンを続けることになる。伏木時代にも全日本シニア大会の30才以上の部で上位入賞していた実績もあり、岩国でも団体戦のレギュラーとして活躍。２複３単の種目の中、吉本直樹・田中悠貴・中山整らとダブルスを組み、シングルスにも出場するチームの中心選手となった。当時34才という年齢を感じさせず、一般（20代）の対戦相手をびっくりさせる試合をし、勝利していく姿には感動していた記憶がある。



シニアバドミントン界での活躍

2011年の世界シニアバドミントン大会では、35才以上の部単・複に出場。単では初戦で敗退したが、その後のダブルスではなんと優勝の快挙を達成した。この活躍で、工場では吉川選手を知らない人はいなくなった。その後も、毎年行われる全日本シニアバドミントン大会に出場し、単複ともほぼ毎回ベスト４以内に入り、最高順位は準優勝という記録を残している。知る人ぞ知る同世代の「藤本ホセマリ選手」が吉川選手の良き対戦相手として悲願の優勝を阻んでいた。

中国地区シニアバドミントン大会では30才・40才の部に出場し、単では何度も優勝し、40才男子単で３連覇も成し遂げている。私も含め日本製紙の同世代、松田監督、室井部長、中山主将とともに会場で吉川選手を応援するのは恒例行事となり、うれしい限りであった。



〈写真左から２番目が吉川選手〉

現在

48才となった現在も吉川選手は、日本製紙団体メンバーには10代・20代の選手もいる中でも、レギュラーとして活躍している。吉川選手の家族もシニアやレディース、ジュニアなどの分野でバドミントン活動を楽しんでおり、また子供を通じてジュニアクラブの指導にも家族全員で携わっている。

このように吉川選手の活躍は世界や全国レベルであり、山口県バドミントン界にとってかけがえない存在となっている。今後も山口県のために貢献してくれることは間違いないと思う。吉川選手には吉川選手しかできない特殊なフェイント？？、私でも分からない技術がいろいろある。対戦相手が試合後に吉川選手の元に来て教えを乞う姿は忘れられない。

山口県バドミントン協会 75 周年記念に寄せて

トナミ運輸　　保木　卓朗

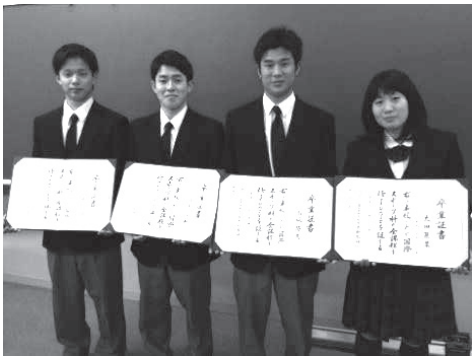
山口県バドミントン協会創立 75 周年、おめでとうございます。私は山口県柳井市に生まれ、バドミントンと出会いました。ここでは、私のバドミントンとの出会いからこれまでについて述べていきたいと思います。

バドミントンとの出会い

７歳から始めたバドミントン、初めは兄の練習について行き、ラケットを握り始めたのがきっかけでした。この頃はラリーを続けるのが楽しくて、無邪気にシャトルを追いかけていたのを今でも覚えています。少しずつ大会にも出場するようになって、優勝したい、負けたくないという気持ちを持つようになり、どんどんバドミントンが好きになって行きました。小学４年生の頃、山﨑隆司さん、永田憲之さん、米川真司さんに出会い、私のバドミントン人生は大きく変わりました。本気で日本一を目指し、練習に励む小学生時代でした。

福島県での中学・高校時代

中学校は福島県の富岡第一中学校に進みました。富岡第一中学校は全国屈指の強豪校で、私もそのような環境でバドミントンがしたいと思い、山口県を離れました。ここで小林優吾と出会い、互いに切磋琢磨しながら中学、高校とバドミントンに明け暮れる日々を送りました。この頃から少しずつ、日本代表になりたい、世界で勝ちたいという思いが芽生え始めました。





トナミ運輸への入社からこれまで

高校卒業後、小林とトナミ運輸へ入社しました。なかなか結果を出せず、悔しい思いもたくさんしましたが、トナミ運輸の先輩である平田典靖・橋本博且ペアや園田啓悟・嘉村健士ペアのように日本代表に入って世界で活躍する選手になりたいと思いながらやって来ました。2021 年には世界選手権で日本勢として初めて男子ダブルスで優勝をすることができました。



今年はパリオリンピックの年です。小さい頃からの目標だった舞台で、メダル獲得を目指して頑張ります。応援よろしくお願いします。

これからも、山口県から１人でも多く、日本を代表する選手が輩出されることを応援しております。

バドミントンを続けてきて

BIPROGY 株式会社　岩永　鈴

山口県バドミントン協会創立 75 周年おめでとうございます。

私は柳井 JBC、柳井中学校、柳井商工高等学校と高校卒業まで山口県でバドミントンを続け、高校卒業後は BIPROGY 株式会社（旧日本ユニシス）に入社し、バドミントンを続けています。

初めての全国大会は小学２年生の時の ABC バドミントン大会です。覚えているのは、まだ幼かったためか、特に緊張することもなく、普段通りに試合することができたということです。数々出場した全国大会の中で緊張しなかったのは唯一この試合だけでした。



山口県代表で一番思い出に残っている大会は、高校３年生の時の山形でのインターハイです。日本一を目指してインターハイに臨みました。準決勝で優勝した高校にあと一歩のところで負けてしまい、全国３位という結果でした。負けて悔しかったのですが、全員が山口県出身というメンバーでここまで戦えたことを誇りに思っています。本当にいい思い出です。



高校卒業後は山口県を離れ、実業団で活動しています。





2021 年より日本代表に選出していただき、国際大会にも数多く出場しています。2023 年にはワールドツアーで初優勝することができました。数多くの大会に出場し、とても良い経験をさせていただいています。



私がここまでバドミントンをやってこられたのは協会をはじめ、私に関わってくださったすべての方々のおかげだと感謝しています。いつか山口県にバドミントンで恩返しができたらいいなと思っています。今、山口県は実業団をはじめ、多くの選手が活躍しています。山口県のバドミントン界がさらに盛り上がることを願っています。

夢の実現にむけて

元　ＡＣＴ　ＳＡＩＫＹＯ　　齋藤　夏

Ａ代表への憧れから現実へ

ミックスダブルスで現在のパートナー緑川大輝（現在：ＮＴＴ東日本）選手と日本Ｂ代表に初選出されたのが高校３年生（2018 年）の時でした。緑川選手とは中高一貫教育の埼玉栄高校で中学校からの同級生という縁からパートナーを組むことになりました。



はじめはコロナ禍ということもあり、国際大会に出場できない状況で、二人での挑戦は厳しい時期が続きました。Ａ代表に選出されるためには、限られた大会数で世界ランキングを上げていかなければなりません。世界ランキング 32 位以内を目指し、Ａ代表に選出されたいという思いだけで戦っていました。そして、４年間のＢ代表を経て、2023 年にはじめてＡ代表に選出され、Super1000 等のグレードの高い試合に出場できるようになりました。しかし、2023 年１月からの試合では３週連続１回戦負けと悔しい結果となり、厳しい現実として立ちふさがりました。

パリオリンピックを目指して

2023年５月より、2024年にパリで開催されるパリオリンピックを目指してオリンピックレースがスタートしました。オリンピックに出場できる条件として

① オリンピックレースランキング 16 位以内
② 同国２ペアが出場する場合は２ペアがオリンピックレースランキング８位以内にランクイン

上記のどちらかを満たす必要がありました。スタート時点ですでに日本では、東京オリンピックで銅メダルを獲得している、渡辺・東野ペアがレースランキング８位以内だったので、齋藤・緑川ペアがオリンピックに出場するためには、レースランキング８位以内が必須条件だったのです。

オリンピックレースがスタートしての最初の１か月は良い結果が残せず、どうしたらグレードの高い国際大会で上位に進出できるか二人で考える日々が続きました。その中で、グレードの低い大会と同じ戦い方ではランキング上位のペアには勝てない、戦略を変えていかないといけないと気づいたのです。そこで、二人のコンビネーション能力を高め、スピードアップに心がけました。それに加え私個人としては、前衛のシャトルさばきの技術の向上に努めていきました。そうすることで、2023 年７月の Super500（カナダオープン）で優勝することができたのです。このことがきっかけで、少しずつですが成績を残せるようになっていきました。2024 年４月まで、オリンピックレースは続きます。悔いを残さぬよう戦い抜こうと思います。



これからの自分

まだまだ、自分との闘いは続きます。身体能力の向上とフィジカル強化、技術的にはレシーブを強化していくことで、自分の中で今までにはない、バドミントンの未来が見えてくるように思います。

これからも≪山口県をバドミントン王国に≫の合言葉の実現に向けて、自分が先駆者となり山口県のバドミントン界をリードしていくとともに、今まで以上に世界で戦い、活躍し、応援される選手でありつづけたいと思っています。

これからも応援をお願いいたします。



長い間、お世話になりました

山口県バドミントン協会　元副会長　　三井　裕

平成９年３月、第 47 回山口県バドミントン協会通常総会において、林芳正参議院議員の会長就任と同時に理事長を仰せつかった。

それ以後 22 年間の理事長、副会長としての主な行事等について記憶にある範囲で述べていきたい。

山口県協会 50 周年記念誌

記念誌編集委員長藏成秋次氏を中心に、編集委員 12 名の総力を結集して、平成 11 年７月１日発行にこぎ着けた。過去のデータを新聞や県市郡協会の記録と写真を整理すると共に、市郡協会や連盟、関係者のご寄稿をいただき、発行することができた。さらに 50 周年記念品として県協会登録者にスポーツタオルを配布した。

創立 50 周年記念祝賀会

平成 11 年７月３日に山口グランドホテルにおいて、林芳正会長を始め、県教育委員会や県議会議員等 97 名の出席を得て盛大に開催した。

山口国体指定選手

平成 21 年には、山口県体育協会担当者と共に成年男子選手獲得のために富山県に、また、ACT SAIKYO 設立のために、京都府、東京都に出向き、成年女子選手２名を獲得することができた。

津守幸介氏の叙勲を祝う会

長年、山口県バドミントン界の発展にご尽力された津守幸介副会長が、平成 22 年４月に瑞宝双光章を受賞された。６月 19 日に関係者 35 名の参加者を得て、セントコア山口にて開催した。

第 66 回国民体育大会バドミントン競技の部

平成 23 年 10 月６日(木)から 10 月 10 日(月)の５日間、山口県光市において全国 47 都道府県より 444 名の監督・選手をお迎えし開催した。山口県選手団は、それまでの選手強化の成果を発揮し、成年男子が３位入賞を果たした。その結果、天皇杯８位に入賞することができた。

この大会には、常陸宮ご夫妻のご臨席を賜り、熱心にご覧頂いた。

理事長退任と副会長就任

山口国体終了後の平成 24 年３月通常総会において 15 年間務めた理事長を退任し、副会長に就任した。その後、林会長代行としての重責を担った。

また、15 年間にわたる理事長のうち、平成 19 年度から 22 年度の４年間は（財）日本バドミントン協会の中国地区選出理事、そして法規部長として規約集の作成に携わった。この規約集において初のアンチ･ドーピング規程を制定した。

第６回全国シニアねんりんバドミントン交流会

平成 27 年 10 月 26 日（月）･27 日（火）に維新百年記念公園アリーナにおいて開催した。



60 歳・65 歳・70 歳・75 歳以上の部に 21 府県より 73 チーム、469 人の参加者を得ることができた。この交流会は大会前年に急に開催依頼があり、急遽視察を兼ねて愛知県豊田市での第５回大会に山口県より３チームが参加した。

山口県協会副会長を退任

山口県協会役員定年規程により、平成 31 年３月末の第 69 回通常総会において、山口県協会役員に終止符を打った。

40 年余りにわたり、山口県協会の役員として協会運営、大会運営等に関わった。この間、何とか重責を果たすことができたのは、関係の皆様方の多くのご指導ご支援があってのことと改めて感謝している。大変お世話様になりました。

今後は、バドミントンへの恩返しとして、ジュニアの子ども達に元気を分けてもらいながら、あとしばらくは続けていこうと考えている。

私と山口県バドミントン協会

県協会　元競技部長　松　本　克　芳

大学からバドミントンを始め、卒業と同時に昭和 49 年（1974 年）に山口県に帰って来て、すぐに山口県バドミントン協会に登録し、県の大会に参加した。当時、国体に教員の部（昭和 54 年まで）があったので、夏の宇部や下関での国体合宿にも参加させていただいた。教員の部、最後の年昭和 54 年に、福永正一監督の下、林道彦、三井裕、松本克芳で宮崎国体教員の部に参加した。

その後、昭和 59 年（1984 年）に教職員連盟の県協会理事（兼山口県教職員連盟理事長、1992 年まで）となり、平成６年（1994 年）に競技委員長（令和９年から競技部長）、平成 19 年（2007 年）に競技担当の副理事長、平成 28 年（2016 年）に参与、平成 31 年（2019 年）に副会長、令和３年（2021 年）には、林前会長の大臣就任に伴い、会長代理を務めた。これを最後に、70 歳定年で、38 年間の県協会役員を退いた。また、平成 18 年（2006 年）から平成 27 年（2015 年）まで、日本バドミントン協会のＢ級レフェリーも務めた。

その間、昭和 57 年（1982 年）に、山口県バドミントン協会専門委員会規約が一部改正され、今までの表彰委員会、広報委員会、指導委員会、審判委員会の４委員会に加えて競技委員会が設置された。初代三井競技委員長が意欲的に改革に着手された。第１に、昭和 59 年（1984 年）に大会運営規程を作成した。第２に、新人大会という名称で運営されていた大会を、県内北部の競技の普及、競技人口の増加、大会への参加をしやすくするために、東部、中部、西部の３地区で春と秋に開催することとした。第３に、各大会の組合せ作成の基準とするとともに、広報活動の一環として総合大会の結果を参考にランキングを決定することとした。（その後、７大会が廃止された平成 29 年度をもって、県のランキングも廃止された。）第４に、申込みの漏れを防ぎ、参加申込みのチェックができるように、申込み先を大会開催協会から競技委員会とし、参加料を郵便振替とした。

平成６年（1994 年）に、２代目競技委員長として松本克芳が就任した。県内大会の参加申込みの受付、振込の確認、シード案の主管協会への提示、ランキングの作成などの元々あった競技部業務に加え、２つの業務を追加した。一つめは、大会参加者の確認はできたが、登録が事務局担当であったため、大会参加者のその年度の県登録の確認ができなかった。そこで平成７年（1995 年）より事務局の担当であった集金を含めた県内での登録業務を競技委員会で担当することとした。これにより、大会参加者の県登録の確認ができるようになり、登録料が確実に入るようになった。（平成 10 年より、登録業務は、新たにできた総務部が担当することとなった。）二つめは、理事長業務の中国大会、全国大会への申込み（集金、選考を含む）も担当することとした。その後、私が競技担当の副理事長になったとき、中国大会、全国大会への申込みも、競技担当の副理事長に移った。

平成 23 年（2011 年）に山口県で開催された山口国体は、役員各位のご尽力と会員各位のご協力で大過なく終えることができた。準備段階から事後処理まで、特に、田内事務局長の働きには目を見張るものがあった。今でも感謝している。

これからは、公認審判員資格審査認定委員の仕事と各種大会の審判として、微力ながらお手伝いしていこうと思っている。

レディース連盟の歩み

レディース連盟　元理事長　三井　房子

山口県バドミントン協会創立 75 周年誠におめでとうございます。

レディース連盟の発足

レディース連盟は平成元年当初、家庭婦人連盟と呼ばれていました。中国地区大会を平成元年に山口県が引き受けることに決まったため、まずは大会に参加してみようと、渡辺忠さん（新南陽）のご尽力で、松村・三井組（１部）、渡辺・村田組（２部）が島根県大会（昭和 63 年６月）に出場しました。その後準備委員会を経て、平成元年３月 26 日に下関において山口県家庭婦人連盟として産声を上げ、その年の６月、下関市体育館で「第６回中国家庭婦人年齢別競技会」「第７回全日本家庭婦人クラブ対抗中国地区予選会」を開催し、全種目優勝という素晴らしい成績で大会を終えました。

連盟発足から中国大会開催までご尽力いただいた県協会、下関市協会その他関係者の方々に感謝申し上げます。

中国大会を５年ごとに主管

平成元年（下関市）
平成６年（山口市）４部：50 歳以上　追加
平成 11 年（徳山市）
平成 16 年（山口市）５部：55 歳以上　追加
平成 21 年（光市）６部：60 歳以上　追加
平成 26 年（山口市）
令和元年（防府市）

発足当時１部：30 歳以上、２部：40 歳以上、３部：45 歳以上だけだった年齢別も、今では１部がフリーとなり８部：70 歳以上まで幅広い年齢層のレディースが活躍できる大会となっています。

クラブ対抗も発足当初は参加資格の制約が厳しかったのですが、今では社会人になってからバドミントンを始めた者であること（学校授業でのバドミントン経験者は出場できる）とシンプルになりました。

平成 12 年５月　レディース連盟と名称変更結成記念大会

平成元年～平成９年　個人戦
平成 10 年　10 周年記念大会（以降団体戦へ）
　　記念誌発刊
　　レセプション（ホテルかめ福）
平成 20 年　20 周年記念大会　記念誌発刊
　　レセプション（ホテルニュータナカ）
平成 25 年　輝レディースオープン大会（改称）
平成 30 年　30 周年記念大会　記念誌発刊

中でも 20 周年祝賀会での会員の皆さんの芸達者には驚き。大内のお殿様あり、山本リンダのものまねあり、会場大盛り上がりでした。



西日本レディース大会

平成 14 年（2002 年）維新百年記念公園体育館（現大晃アリーナ）とやまぐちリフレッシュパークの２会場を使用、参加者 266 人。競技運営はもちろん、アリーナエントランスではお抹茶の席を設け、西の京山口ならではの“おもてなし”ができたのも良い思い出の一つです。

コロナ禍での連盟

令和２年１月予想もしなかったコロナ禍、すべての活動が中止か制約される中、歩みを止めなかった連盟の皆さんに拍手を贈りたいと思います。

この団結力、ウーマンパワーで令和７年開催予定の第 20 回全日本レディース競技大会（個人戦）も盛会裡に終えることを祈念しています。

山口国体に向けたバドミントン競技の強化について

（財）山口県体育協会　成年競技力向上班　元主任主事　　濱﨑　孝司

山口県としては、前回（1963年）の山口国体で総合優勝を果たすことができず、2011年開催の「おいでませ！山口国体」の総合優勝は何としても達成するという目標がありました。私が山口県体育協会でバドミントン競技の担当になったのが、山口国体の６年前でした。山口県バドミントン協会の方とも何度も強化について話し合いを行い、競技力の底上げを図るには成年の競技力向上が課題であるということになりました。そこで、成年男子は宇部興産バドミントン部（現 UBE）をトップスポーツクラブに指定させていただきました。成年男子は、既に強化可能なチームがありましたが、成年女子については、そんなチームが県内になく、強化がうまく進んでいないと感じていました。女子の競技力向上を図るため、大学との太いパイプがある棟居さんに女子の監督になっていただき、大学生の選手誘致から進めていきました。法政大学に山口県で合宿してもらったり、いろいろな大学選手の情報をもらい、協会の方と勧誘に行ったりして、何とか２人の大学トップクラスの選手の目途が立ち、うれしかったことを覚えています。当然、勧誘するからには、チームの立ち上げと受け入れていただける企業への依頼が急務でした。山口県の副知事にお願いして西京銀行に出向き、競技力向上のための協力を何度もお願いしました。山口県バドミントン協会とも綿密に連携して、トップアスリートである皆川友依選手（法政大学）、安念幸恵選手（竜谷大学）の２名が西京銀行に採用されました。そして、地元の選手である末長姉妹、浜田選手（いずれも熊毛北高校）を加えた５名で、NPO法人「ACT SAIKYO」を立ち上げることになりました。ACT SAIKYOの立ち上げについては、私のほうで計画を提示させていただきました。当初、バドミントン協会の方からは「それは難しい。」とか様々な意見もありましが、「卵が先か、鶏が先か」とあれこれ検討するよりも、とにかくやってみようと計画を進めました。協会事務局長だった久次さんの強力な応援があり計画が進んだことを覚えています。それによって本格的にチームを立ち上げ、始動できたことは大変うれしく感じています。立ち上げ当初は、練習会場や時間を作ることもままならず、いろいろな方に協力していただきながら練習していたと聞きました。今ではＳ／Ｊリーグに出場し、日本を代表するようなチームへと成長されています。これは、山口県の財産だと思います。これから先、オリンピック選手輩出をめざし、ますますチームが発展されることを願っています。

現在の私と言えば、パートナーにも恵まれ、まだまだバドミントンへの興味も薄れることはありません。体調管理・ケガの予防に気を配り、できうる限り全国大会含め各種各地大会に参加したいと思っています。もちろん周りのサポートにも感謝しながらです。

最後になりますが、山口県バドミントン協会、西京銀行、UBE、その他山口県バドミントンの発展に関わっておられる方々に感謝申し上げ、さらに山口県バドミントン協会の益々の発展と選手の活躍を祈念します。また、75周年記念誌の発刊に際し、掲載の機会を与えてくださったことに感謝しています。

記　録

国体選手名簿

回	年度	開催地	種別	監督	選手	選手	選手
6	昭和26	広島	一般男子	友沢毅一郎（小郡クラブ）	末廣吉郎（小郡第一病院）	中道　修（大洋漁業）	萩原　惇（大洋漁業）
					堀田秋人（大洋漁業）		
			一般女子		前原知子（山口高校）	山本裕子（山口高校）	中村由美子（山口高校）
					豊福久恵（山口高校）		
			高校男子		林　登（鴻城高校）	隅　和照（山口高校）	津守幸介（山口高校）
					玉木　康彦（山口高校）		
7	昭和27	宮城	一般男子	佐久間貫弋（山口高校）	津守幸介（山口大学）	堀田秋人（大洋漁業）	
			一般女子	友沢毅一郎（小郡クラブ）	中村由美子（OBG）	豊福久恵（OBG）	
8	昭和28	香川	一般男子		玉木康彦（ポーラ化粧品）	津守幸介（山口大学）	松田光夫（山口大学）
			高校女子				
9	昭和29	北海道	一般男子	田中萬亀太（山口女子短大）	植木　徹（日本石油）	大久保友春（日本石油）	堀田秋人（大洋漁業）
10	昭和30	神奈川					
11	昭和31	兵庫	一般男子	庄井政雄（下関商業高校）	津守幸介（徳山教育委員会）	松田光夫（柳井教育委員会）	松永正敏（山口市役所）
			一般女子		谷野弘子（下関南高校OG）	西村美穂子（下関南高校OG）	原田幸子（下関南高校OG）
12	昭和32	静岡	一般男子	田中萬亀太（山口女子短大）	津守幸介（徳山教育委員会）	松永正敏（山口市役所）	植木　徹（日本石油）
13	昭和33	富山	一般男子	田中萬亀太（山口女子短大）	津守幸介（徳山教育委員会）	松永正敏（山口市役所）	小畑文策（関門油脂）
14	昭和34	東京	一般男子	田中萬亀太（山口女子短大）	津守幸介（徳山教育委員会）	松永正敏（山口市役所）	義永　保（宇部窒素）
15	昭和35	熊本	一般男子		玉木俊一（山陽パルプ）	室井勝夫（山陽パルプ）	岡崎修身（山陽パルプ）
16	昭和36	秋田	一般男子	藤井豊秋（山口郵便局）	山縣保夫（宇部窒素）	玉木俊一（山陽パルプ）	室井勝夫（山陽パルプ）
17	昭和37	岡山	一般男子	中浜浅吉（山陽パルプ）	室井勝夫（山陽パルプ）	川岡　智（山陽パルプ）	佐藤昌利（東洋曹達）
			一般女子	大野倍弘（下関市役所）	江原敏子（山陽電軌）	玉木靖子（山陽パルプ）	村中マチ子（山陽パルプ）
			高校男子	中村勇夫（山口高校）	吉岡　淳（山口高校）	林　道彦（山口高校）	小村勝征（柳井商工高校）
			高校女子	片山健助（徳山高校）	野村靖子（徳山高校）	山崎和江（徳山高校）	目黒晴美（長府高校）
			教員男子	上田博宣（大洋漁業）	津守幸介（彦島中学校）	尾上　忠（彦島中学校）	末広光啓（山大付属小学校）
18	昭和38	山口	一般男子	川岡　智（山陽パルプ）	三島俊輔（中国電力）	村上恵一（国立下関病院）	山縣保夫（宇部興産）
			一般女子	小畑文作（ニッカ石鹸）	江原敏子（山陽電軌）	松村和美（山陽電軌）	清田澄枝（下関国体事務局）
			高校男子	重村達彦（柳井商工高校）	高橋政義（柳井商工高校）	二宮修三（柳井商工高校）	右田光弘（山口高校）
			高校女子	片山健助（徳山高校）	貞安百合子（柳井商工高校）	川向京子（柳井商工高校）	守田友子（下関南高校）
			教員男子	大谷稔明（彦島中学校）	津守幸介（彦島中学校）	尾上　忠（彦島中学校）	渡辺恒輔（彦島中学校）
19	昭和39	新潟	一般男子	大野倍弘（下関市役所）	三島俊輔（中国電力）	村上恵一（国立下関病院）	山縣保夫（宇部興産）
20	昭和40	岐阜	一般男子	大野倍弘（下関市役所）	三島俊輔（中国電力）	村上恵一（国立下関病院）	山縣保夫（宇部興産）
			一般男子	新宅正和（下関市役所）	村上恵一（国立下関病院）	三島俊輔（中国電力）	川岡　智（山陽パルプ）
			一般女子	大野倍弘（下関市役所）	江原敏子（山陽電軌）	松村和美（山陽電軌）	小林君江（大嶺高校）
21	昭和41	大分	一般男子	松村哲幸（宇部興産）	村上恵一（国立下関病院）	河添忠夫（宇部興産）	石川好夫（宇部興産）
22	昭和42	埼玉	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	石川好夫（宇部興産）
23	昭和43	福井	一般男子	松村哲幸（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	石川好夫（宇部興産）
			一般女子	水永平八郎（下関大丸）	後藤妙子（大東魚類）	岡村智津子（下関大丸）	渡辺美枝子（山陽パルプ）
24	昭和44	長崎	一般男子	松村哲幸（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	石川好夫（宇部興産）
25	昭和45	岩手	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	石川好夫（宇部興産）
			一般女子	三原一郎（下関市役所）	後藤妙子（大東魚類）	永田美登里（日本生命）	岡村智津子（下関大丸）
			高校男子	三浦捷治（柳井商工高校）	坂本賢二（柳井商工高校）	刈屋昭三（下関商業高校）	富田征四郎（下関中央工業高校）
26	昭和46	和歌山	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）
			高校男子	三浦捷治（柳井商工高校）	沖堀保雄（柳井商工高校）	城　保彦（柳井商工高校）	竹中　信行（下関中央工業高校）
27	昭和47	鹿児島	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）
28	昭和48	千葉	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）
29	昭和49	茨城	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	松田　仁（三菱重工下関）
			一般女子	三原一郎（下関市役所）	西村和美（下関市役所）	永田美登里（日本生命）	丸山富江（丸山工業所）
30	昭和50	三重	一般男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）
			一般女子	三原一郎（下関市役所）	丸山富江（丸山工業所）	永田美登里（日本生命）	広田久美子（周陽小学校）
31	昭和51	佐賀	成年男子	木曽新一郎（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）

32	昭和52	青森	成年男子	山縣保夫（宇部興産）	末廣秀樹（宇部興産）	河添忠夫（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）
			成年女子	渡辺　忠（東洋曹達）	嶋田文江（東洋曹達）	重永雅子（東洋曹達）	守田育代（下松市役所）
			少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	喜良文明（柳井工業高校）	久保田義弘（柳井工業高校）	川原義信（柳井工業高校）
33	昭和53	長野	成年男子	永富正史（林兼造船）	森本隆則（林兼造船）	林　厚志（山陽国策パルプ）	辻中公人（山陽国策パルプ）
34	昭和54	宮城	教員男子	福永正一（小月小学校）	林　道彦（阿知須小学校）	三井　裕（養治小学校）	松本克芳（宇部高校）
35	昭和55	栃木	成年女子	引地朱美（下関大丸）	浜田真澄（日新製鋼）	長野光子（下関大丸）	井上雅美（下関大丸）
			少年女子	岡村善光（柳井工業高校）	中原弘子（柳井工業高校）	中村朋子（下関南高校）	乾　千鶴（下関南高校）
36	昭和56	滋賀	成年女子	善本公志（日新製鋼）	山口里枝（日新製鋼）	浜田真澄（日新製鋼）	引地朱美（下関大丸）
			少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	森永雄二（柳井工業高校）	尾園正和（柳井工業高校）	杉山　覚（山口高校）
			少年女子	池田信郎（岩陽高校）	笠井早苗（岩陽高校）	藤中修子（岩陽高校）	岩尾寿子（岩陽高校）
37	昭和57	島根	成年女子	善本公志（日新製鋼）	山口里枝（日新製鋼）	浜田真澄（日新製鋼）	井上雅美（下関大丸）
			少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	沖　貞雄（柳井工業高校）	高橋和也（柳井工業高校）	田原暢也（山口高校）
			少年女子	栗栖君代（岩陽高校）	溝部恵子（岩陽高校）	守川洋子（岩陽高校）	小笠原和子（岩陽高校）
38	昭和58	群馬	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）	渡辺光男（林兼造船）	重永光弘（自営）
			少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	沖　貞雄（柳井工業高校）	高橋和也（柳井工業高校）	松原康則（徳山北高校）
39	昭和59	奈良	成年女子	善本公志（日新製鋼）	田中和江（日新製鋼）	井上雅美（下関大丸）	中岡宏子（下関大丸）
			少年男子	藤沢圭治（柳井工業高校）	山崎隆司（柳井工業高校）	田中伸幸（柳井工業高校）	河野強志（徳山高校）
40	昭和60	鳥取	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）	高橋良明（山陽国策パルプ）	重永光弘（自営）
			成年女子	杉原哲彦（東亜大学）	三井房子（公文式教室）	鳥居慶子（名池小学校）	井上雅美（下関大丸）
			少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	田中伸幸（柳井工業高校）	森本孝敏（柳井工業高校）	河野強志（徳山高校）
41	昭和61	山梨	少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	内富　進（柳井工業高校）	金子義治（下関中央工業高校）	田内正彦（新南陽高校）
			少年女子	池田信郎（高森高校）	田辺佳代（高森高校）	松原久美子（高森高校）	村田浩子（新南陽高校）
42	昭和62	沖縄	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	坂本賢二（宇部興産）	重永光弘（自営）	沖　貞雄（宇部興産）
			少年男子	三浦捷治（柳井工業高校）	田中貴光（柳井工業高校）	吉岡哲夫（柳井工業高校）	柳　宏幸（柳井工業高校）
43	昭和63	京都	成年女子	三井　裕（阿知須小学校）	井上雅美（下関大丸）	藤本修子（国立岩国病院）	堀　悦子（県国保連合会）
			少年男子	岡村善光（柳井工業高校）	柳　宏幸（柳井工業高校）	吉岡哲夫（柳井工業高校）	藤井謙治（徳山工業高校）
44	平成１	北海道	少年男子	藤沢圭司（柳井工業高校）	遠藤正徳（柳井工業高校）	木村雄一（柳井工業高校）	棟居秀行（柳井工業高校）
45	平成２	福岡	少年男子	岡村善光（柳井工業高校）	棟居秀行（柳井工業高校）	武内敏寿（柳井工業高校）	秋元直幸（徳山工業高校）
			少年女子	池田信郎（高森高校）	西町由紀（高森高校）	村田悦子（高森高校）	村田みつえ（高森高校）
46	平成３	石川	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	沖　貞雄（宇部興産）	森本孝敏（山陽国策パルプ）	河野強志（下関中央工業高校）
			少年男子	渡辺光男（下関中央工業高校）	相本浩一（柳井工業高校）	柳　孝三（柳井工業高校）	中山　整（柳井工業高校）
47	平成４	山形	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	沖　貞雄（宇部興産）	安田耕司（宇部興産）	河野強志（下関中央工業高校）
			成年女子	井上雅美（下関大丸）	沖村尚美（下関大丸）	村田浩子（日立笠戸）	西町由紀（日興証券）
			少年男子	渡辺光男（下関中央工業高校）	柳　孝三（柳井工業高校）	中山　整（柳井工業高校）	中村淳一（下関中央工業高校）
			少年女子	田中　功（高森高校）	村田みつえ（高森高校）	木村真澄（柳井工業高校）	山野井優子（柳井工業高校）
48	平成５	香川	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	沖　貞雄（宇部興産）	安田耕司（宇部興産）	河野強志（下関中央工業高校）
			少年男子	渡辺光男（下関中央工業高校）	内田英樹（下関中央工業高校）	中村淳一（下関中央工業高校）	山野井幸治（柳井工業高校）
49	平成６	愛知	少年女子	松本克芳（山口中央高校）	杉村紀子（華陵高校）	蔵成路恵（山口中央高校）	松中満美（柳井工業高校）
50	平成７	福島	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	沖　貞雄（徳山市役所）	河野強志（下関中央工業高校）	相本浩一（東亜大学）
51	平成８	広島	成年男子	末廣秀樹（宇部興産）	沖　貞雄（徳山市役所）	河野強志（下関中央工業高校）	青木伸也（東亜大学）
			成年女子	井上雅美（下関大丸）	内田玲子（下関大丸）	中島亜紀子（日立笠戸）	土坂康子（下関大丸）
			少年男子	松原康則（柳井工業高校）	米川真司（柳井工業高校）	中本直良（柳井工業高校）	藤井経久（山口高校）
52	平成９	大阪	成年男子	沖　貞雄（徳山市役所）	河野強志（下関中央工業高校）	田内正彦（徳山市役所）	田崎誠一郎（東亜大学）
			少年男子	永茂勝弘（野田学園高校）	中原利通（山口高校）	青木昌彦（西京高校）	村松壮一（野田学園高校）
			少年女子	松本克芳（山口中央高校）	三好紗也香（山口中央高校）	稲子田朝美（中村女子高校）	川田弘美（山口中央高校）
53	平成10	神奈川	少年女子	佐々木辰博（山口中央高校）	森永裕美（中村女子高校）	川田弘美（山口中央高校）	中村貴美子（中村女子高校）
54	平成11	熊本	成年男子	沖　貞雄（徳山市役所）	棟居秀行（ムネスエスポーツ）	永松勇一郎（東亜大学）	米川真司（東亜大学）
55	平成12	富山	成年男子	矢野　潤（東亜大学）	棟居秀行（ムネスエスポーツ）	増田敏雄（ムネスエスポーツ）	米川真司（東亜大学）
			少年女子	松本克芳（新南陽高校）	中村貴美子（中村女子高校）	西村郁美（中村女子高校）	松尾杏澄（熊毛北高校）
56	平成13	宮城	成年男子	矢野　潤（東亜大学）	増田敏雄（山口県バドミントン協会）	米川真司（徳山ビルサービス）	瀬川泰人（東亜大学）
			成年女子	河野強志（下関南高校）	重村　泉（東亜大学）	小山　薫（東亜大学）	稲子田朝美（東亜大学）
			少年男子	松原康則（柳井工業高校）	竹光章浩（柳井工業高校）	竹光唯至（柳井工業高校）	三崎　剛（下関中央工業高校）

57	平成14	高知	成年男子	矢野　潤（東亜大学）	米川真司（徳山ビルサービス）	渡邊和人（花いずみ）	大西直樹（東亜大学）
			少年男子	渡辺光男（下関中央工業高校）	三崎　剛（下関中央工業高校）	山縣圭太（下関中央工業高校）	竹光唯至（柳井工業高校）
			少年女子	河本　泰（熊毛北高校）	松尾杏澄（熊毛北高校）	末永　南（熊毛北高校）	林　幸代（中村女子高等学校）
58	平成15	静岡	成年女子	河野強志（下関南高校）	稲子田朝美（山口市役所）	森永裕美（済生会山口地域ケアセンター）	中村貴美子（日本子体育大学）
			少年男子	松原康則（柳井工業高校）	河野亮輔（柳井工業高校）	松尾光平（柳井工業高校）	山平直輝（柳井工業高校）
59	平成16	埼玉	成年男子	高橋良明（ラケットショップWIN）	相本浩一（〔社〕松星苑）	増田敏雄（梅本商会）	竹光唯至（日本体育大学）
			少年男子	松原康則（柳井工業高校）	山平直輝（柳井工業高校）	橋本侑二（柳井工業高校）	松尾光平（柳井工業高校）
			少年女子	河本　泰（熊毛北高校）	越智ひとみ（熊毛北高校）	川崎彩乃（熊毛北高校）	逸見雪乗（熊毛北高校）
60	平成17	岡山	成年女子	高橋良明（ラケットショップWIN）	重村　泉（山口市役所）	末長夏樹（下松市立潮音保育園）	末長　南（株式会社コラボレート）
			少年男子	松原康則（柳井工業高校）	河村光将（柳井工業高校）	高松哲平（柳井工業高校）	秋友和洋（柳井工業高校）
			少年女子	河本　泰（熊毛北高校）	紙川美津恵（柳井工業高校）	藤井綾香（熊毛北高校）	逸見雪乗（熊毛北高校）
61	平成18	兵庫	成年男子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	山縣圭太（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	山平直輝（法政大学）
			少年女子	河本　泰（熊毛北高校）	藤井綾香（熊毛北高校）	逸見雪乗（熊毛北高校）	花本陽菜（熊毛北高校）
62	平成19	秋田	成年女子	河野強志（下関南高校）	末長夏樹（周南市役所）	末長　南（笠戸設計工業株式会社）	藤井綾香（法政大学）
			少年男子	松原康則（柳井商工高校）	吉本直樹（柳井商工高校）	上原将馬（柳井商工高校）	江藤真二（山口県鴻城高校）
63	平成20	大分	成年男子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	山縣圭太（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	山平直輝（法政大学）
			少年男子	松原康則（柳井商工高校）	青見将吾（柳井商工高校）	青見　領（柳井商工高校）	田村　翼（柳井商工高校）
			少年女子	河本　泰（熊毛北高校）	鈴木美穂（熊毛北高校）	河村彩香（熊毛北高校）	三上亜砂美（山口県鴻城高校）
64	平成21	新潟	成年男子	河野強志（下関南高校）	大東真也（宇部市立常盤中学校）	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）
			少年男子	松原康則（柳井商工高校）	青見　領（柳井商工高校）	田村　翼（柳井商工高校）	保木紳吾（柳井商工高校）
65	平成22	千葉	成年男子	大東真也（山口県立宇部総合支援学校）	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾　光平（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）
			少年男子	松原康則（柳井商工高校）	保木紳吾（柳井商工高校）	飛高健太郎（柳井商工高校）	瀬島史也（国立徳山工業高等専門学校）
66	平成23	山口	成年男子	大東真也（宇部総合支援学校）	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）
			成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	皆川友依（株式会社西京銀行）	安念幸恵（株式会社西京銀行）	北吉穂香（株式会社西京銀行）
			少年男子	松原康則（柳井商工高校）	飛高健太郎（柳井商工高校）	藤本亮汰（柳井商工高校）	瀬島史也（国立徳山工業高等専門学校）
			少年女子	佐々木辰博（華陵高校）	坂口萌香（華陵高校）	藤田美里（華陵高校）	吉松ことみ（華陵高校）
67	平成24	岐阜	成年男子	原本俊也（下関西高校）	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）
			少年男子	松原康則（徳山高校）	桐田啓吾（柳井商工高校）	近本　哲（柳井商工高校）	桐田和樹（柳井商工高校）
			少年女子	河野強志（下関南高校）	重信萌夏（柳井商工高校）	辻　瑞貴（柳井商工高校）	福本涼香（柳井商工高校）
68	平成25	東京	成年男子	原本俊也（下関西高校）	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	米元　優樹（宇部興産株式会社）
			成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	安念幸恵（株式会社西京銀行）	北吉穂香（株式会社西京銀行）	西　友理（株式会社西京銀行）
			少年男子	松原康則（徳山高校）	古川優太（柳井商工高校）	桐田和樹（柳井商工高校）	岩永　廉（柳井商工高校）
69	平成26	長崎	成年男子	原本俊也（下関西高校）	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）
			少年男子	松原康則（徳山高校）	桐田和樹（柳井商工高校）	岩永　廉（柳井商工高校）	田中開登（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	重信萌夏（柳井商工高校）	福本涼香（柳井商工高校）	辻　瑞貴（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	重信萌夏（柳井商工高校）	福本涼香（柳井商工高校）	辻　瑞貴（柳井商工高校）
70	平成27	和歌山	成年男子	山平直輝（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）	桐田和樹（法政大学）
			成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	原麻衣子（株式会社西京銀行）	米元陽花（株式会社西京銀行）	今井優歩（株式会社西京銀行）
			少年男子	松原康則（徳山高校）	岩永　廉（柳井商工高校）	上阪時歩（柳井商工高校）	田中開登（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	永田瑞稀（柳井商工高校）	水津優衣（柳井商工高校）	岩永　鈴（柳井商工高校）
71	平成28	岩手	成年男子	山平直輝（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）	佐野拓磨（宇部興産株式会社）	桐田和樹（法政大学）
			成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	今井優歩（株式会社西京銀行）	米元陽花（株式会社西京銀行）	齋藤　栞（株式会社西京銀行）
			少年男子	大東真也（長府高校）	森永雅弘（柳井商工高校）	木村聡志（柳井商工高校）	澄川考志（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	水津優衣（柳井商工高校）	岩永　鈴（柳井商工高校）	柳井咲耶（柳井商工高校）
72	平成29	愛媛	成年男子	山平直輝（宇部興産株式会社）	米元優樹（宇部興産株式会社）	松尾光平（宇部興産株式会社）	桐田和樹（法政大学）
			成年女子	棟居　秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	今井優歩（株式会社西京銀行）	米元陽花（株式会社西京銀行）	齋藤　栞（株式会社西京銀行）
			少年男子	渡邉　和人（宇部興産株式会社）	澄川考志（柳井商工高校）	福間璃来（柳井商工高校）	栗木洸太（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	柳井咲耶（柳井商工高校）	淺井和奏（柳井商工高校）	宮内公佳（柳井商工高校）
73	平成30	福井	成年男子	米元優樹（宇部興産株式会社）	佐野拓磨（宇部興産株式会社）	桐田和樹（法政大学）	青見　領（宇部興産株式会社）
			成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	柏原みき（株式会社西京銀行）	加藤美幸（株式会社西京銀行）	齋藤　栞（株式会社西京銀行）
			少年男子	渡邉和人（宇部興産株式会社）	金丸純也（柳井商工高校）	福間璃来（柳井商工高校）	栗木洸太（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	金廣美希（柳井商工高校）	淺井和奏（柳井商工高校）	鈴木沙也夏（柳井商工高校）

74	令和１	茨城	成年男子	松尾光平（宇部興産セメントサービス株式会社）	青見　領（宇部興産株式会社）	桐田和樹（宇部興産株式会社）	藤井湧也（宇部物流サービス株式会社）
			成年女子	棟居　秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	柏原みき（株式会社西京銀行）	加藤美幸（株式会社西京銀行）	柳井咲耶（法政大学）
			少年男子	山平直輝（下松市役所）	棟居　諒（柳井商工高校）	金丸純也（柳井商工高校）	増田　翔（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	金廣美希（柳井商工高校）	長廻真知（柳井商工高校）	水津愛美（柳井商工高校）
75	令和２	鹿児島	新型コロナ感染症感染拡大のため中止				
76	令和３	三重					
77	令和４	栃木	成年男子	松尾光平（UBE株式会社）	桐田和樹（UBE株式会社）	藤井湧也（宇部物流サービス株式会社）	福間璃来（UBE株式会社）
			少年男子	渡邉和人（宇部物流サービス株式会社）	生田壮志（柳井商工高校）	中村陵雅（柳井商工高校）	中山康平（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	宮崎友花（柳井商工高校）	明地陽菜（柳井商工高校）	田口真彩（柳井商工高校）
78	令和５	鹿児島	成年男子	松尾光平（UBE株式会社）	桐田和樹（UBE株式会社）	藤井湧也（宇部物流サービス株式会社）	石井雅将（UBE株式会社）
			成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	齋藤　栞（株式会社西京銀行）	重田美空（株式会社西京銀行）	久湊菜々（株式会社西京銀行）
			少年男子	渡邉和人（宇部物流サービス株式会社）	中村陵雅（柳井商工高校）	中山康平（柳井商工高校）	立脇悠羽（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	田口真彩（柳井商工高校）	宮崎友花（柳井商工高校）	砂川温香（柳井商工高校）
79	令和６	佐賀	成年女子	棟居秀行（株式会社ムネスエスポーツ））	齋藤　栞（株式会社西京銀行）	水津優衣（株式会社西京銀行）	水津愛実（株式会社西京銀行）
			少年男子	青見　領（宇部興産株式会社）	河村匠悟（桜ケ丘高校）	木村凌大（柳井商工高校）	立脇悠羽（柳井商工高校）
			少年女子	竹光唯至（柳井商工高校）	砂川温香（柳井商工高校）	中原心優（柳井商工高校）	松本沙季（柳井商工高校）

中国地区総合バドミントン選手権大会

年度	回	種目	順位	氏名	氏名
昭和37年度	第5回	女子単	優勝	江原　敏子	
		女子複	優勝	江原　敏子	玉木　靖子
昭和39年度	第7回	女子単	優勝	松村　和美	
昭和40年度	第8回	女子単	優勝	松村　和美	
		女子複	優勝	江原　敏子	松村　和美
昭和41年度	第9回	女子単	優勝	松村　和美	
昭和43年度	第11回	女子単	優勝	岡村知津子	
		女子複	優勝	岡村知津子	後藤　妙子
昭和44年度	第12回	男子複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
昭和45年度	第13回	女子単	優勝	後藤　妙子	
		女子複	優勝	後藤　妙子	永田美登里
昭和46年度	第14回	男子単	優勝	河添　忠夫	
		男子複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
		女子複	優勝	永田美登里	西村　和美
昭和48年度	第16回	男子複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
昭和49年度	第17回	男子単	優勝	末廣　秀樹	
		男子複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
昭和50年度	第18回	男子単	優勝	坂本　賢二	
		男子複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
		女子単	優勝	丸山　富江	
		女子複	優勝	丸山　富江	永田美登里
昭和51年度	第19回	男子複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
昭和55年度	第23回	男子単	優勝	坂本　賢二	
昭和57年度	第25回	女子単	優勝	浜田　真澄	
平成2年度	第33回	女子単	優勝	堀　悦子	
平成7年度	第38回	男子複	優勝	河野　強志	田内　正彦
平成8年度	第39回	男子複	優勝	河野　強志	田内　正彦
平成9年度	第40回	男子複	優勝	田上　尚寛	永松勇一郎
平成10年度	第41回	男子複	優勝	田上　尚寛	永松勇一郎
平成11年度	第42回	男子単	優勝	棟居　秀行	
		男子複	優勝	棟居　秀行	永松勇一郎
平成12年度	第43回	男子複	優勝	棟居　秀行	増田　敏雄
平成13年度	第44回	男子単	優勝	渡辺　和人	
平成20年度	第51回	男子複	優勝	大束　真也	松尾　光平
平成22年度	第53回	男子単	優勝	松尾　光平	
		男子複	優勝	山平　直樹	米元　優樹
		混合複	優勝	増田　敏雄	松尾　杏澄
平成23年度	第54回	男子単	優勝	松尾　光平	
		男子複	優勝	山平　直樹	米元　優樹
		混合複	優勝	松尾　光平	皆川　友依
平成24年度	第55回	男子複	優勝	山平　直樹	米元　優樹
		女子複	優勝	安念　幸恵	小口　晃佳
		混合複	優勝	山平　直樹	安念　幸恵
平成25年度	第56回	男子単	優勝	松尾　光平	
		混合複	優勝	山平　直樹	安念　幸恵
平成26年度	第57回	男子単	優勝	田村　翼	
		男子複	優勝	山平　直樹	米元　優樹
		混合複	優勝	河村　光将	小口　晃佳
平成27年度	第58回	男子単	優勝	岩永　廉	
		男子複	優勝	米元　優樹	河村　光将
		混合複	優勝	河村　光将	今井　優歩

平成28年度	第59回	女子複	優勝	今野あゆみ	重田　美空
平成29年度	第60回	女子単	優勝	齋藤　　栞	
		混合複	優勝	米元　優樹	米元　陽花
平成30年度	第61回	男子複	優勝	松尾　光平	古城　　晃
		混合複	優勝	松尾　光平	川島　美南
令和元年度	第62回	男子単	優勝	藤井　湧也	
		混合複	優勝	桐田　和樹	重田　美空
令和2年度	第63回	男子単	優勝	藤井　湧也	
		女子複	優勝	川島　美南	齋藤　　夏
		混合複	優勝	桐田　和樹	重田　美空
令和3年度	新型コロナ感染症感染拡大のため大会中止				
令和4年度	第65回	男子単	優勝	桐田　和樹	
		男子複	優勝	芦塚貴一郎	石井　雅将
		混合複	優勝	福間　璃来	柏原　みき
令和5年度	第66回	男子単	優勝	藤井　湧也	
		男子複	優勝	芦塚貴一郎	石井　雅将
		混合複	優勝	桐田　和樹	重信　萌夏
令和6年度	第67回	男子単	優勝	藤井　湧也	
		男子複	優勝	福間　璃来	壇　隆介
		女子単	優勝	砂川　温香	

中国地区シニアバドミントン選手権大会

年度	回	種目	順位	氏名	氏名
昭和48年度	第16回	男子40歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和49年度	第17回	男子40歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和50年度	第18回	男子40歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和51年度	第19回	男子40歳以上単	優勝	木山　茂雄	
		男子40歳以上複	優勝	木山　茂雄	川岡　　智
昭和52年度	第20回	男子30歳以上単	優勝	林　　厚志	
		男子40歳以上単	優勝	川岡　　智	
		男子40歳以上複	優勝	木山　茂雄	咲賀　正則
昭和53年度	第21回	男子30歳以上単	優勝	林　　厚志	
		男子30歳以上複	優勝	林　　厚志	宮岡　康臣
		男子40歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和54年度	第22回	男子40歳以上単	優勝	川岡　　智	
		男子40歳以上複	優勝	川岡　　智	河野　耕司
		男子50歳以上複	優勝	野口　健二	玉井　彦自
昭和55年度	第23回	男子40歳以上単	優勝	木山　茂雄	
		男子40歳以上複	優勝	木山　茂雄	藤元　繁樹
昭和57年度	第25回	男子30歳以上単	優勝	林　　厚志	
		男子40歳以上単	優勝	杉原　哲彦	
		男子40歳以上複	優勝	杉原　哲彦	内山　孝志
昭和58年度	第26回	男子50歳以上複	優勝	田中　　伸	野口　健二
昭和59年度	第27回	男子30歳以上複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
		男子50歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和60年度	第28回	男子30歳以上複	優勝	末廣　秀樹	河添　忠夫
		男子40歳以上単	優勝	林　　厚志	
		男子50歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和61年度	第29回	男子30歳以上複	優勝	加藤　康広	古賀　信之
		男子40歳以上単	優勝	林　　厚志	
		男子50歳以上単	優勝	木山　茂雄	
昭和62年度	第30回	男子30歳以上複	優勝	加藤　康広	古賀　信之
		男子40歳以上単	優勝	三井　　裕	
		男子40歳以上複	優勝	田中　博美	照永　福三
		男子50歳以上単	優勝	木山　茂雄	
		男子50歳以上複	優勝	野口　健二	日柳　　実
昭和63年度	第31回	男子40歳以上単	優勝	三井　　裕	
		男子40歳以上複	優勝	嘉村　悦男	三井　　裕
		男子50歳以上複	優勝	藏成　秋次	松永　正敏
平成元年度	第32回	男子30歳以上単	優勝	加藤　康広	
		男子40歳以上複	優勝	田中　博美	照永　福三
		男子50歳以上複	優勝	藏成　秋次	松永　正敏
平成2年度	第33回	男子30歳以上単	優勝	高橋　良明	
		男子30歳以上複	優勝	加藤　康広	古賀　信之
		男子40歳以上単	優勝	宮岡　康臣	
		男子40歳以上複	優勝	嘉村　悦男	三井　　裕
		男子50歳以上複	優勝	木山　茂雄	三分一重厚
平成3年度	第34回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上単	優勝	宮岡　康臣	
		男子40歳以上複	優勝	大段　　宏	久次　　優
平成4年度	第35回	男子40歳以上複	優勝	松田　　仁	末廣　秀樹
平成6年度	第37回	男子40歳以上複	優勝	松田　　仁	末廣　秀樹
		男子50歳以上複	優勝	林　　厚志	宮岡　康臣

平成7年度	第38回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上複	優勝	金子　隆志	広田　喜信
		男子50歳以上単	優勝	宮岡　康臣	
		男子50歳以上複	優勝	林　　厚志	宮岡　康臣
平成8年度	第39回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上複	優勝	石田　純一	田村　　敦
		男子50歳以上単	優勝	宮岡　康臣	
		男子50歳以上複	優勝	林　　厚志	宮岡　康臣
平成9年度	第40回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上複	優勝	高橋　良明	重永　光弘
		男子50歳以上単	優勝	三井　　裕	
		男子50歳以上複	優勝	中村　拓男	吉田　正弘
平成10年度	第41回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上複	優勝	高橋　良明	重永　光弘
		男子50歳以上単	優勝	三井　　裕	
		男子50歳以上複	優勝	中村　拓男	吉田　正弘
平成11年度	第42回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上単	優勝	古賀　信之	
		男子40歳以上複	優勝	高橋　良明	重永　光弘
		男子50歳以上単	優勝	三井　　裕	
		男子50歳以上複	優勝	中村　拓男	吉田　正弘
平成12年度	第1回	男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上単	優勝	重永　光弘	
		男子40歳以上複	優勝	高橋　良明	重永　光弘
		男子50歳以上単	優勝	叶井　貞次	
		男子50歳以上複	優勝	中村　拓男	吉田　正弘
		女子30歳以上単	優勝	松尾　真澄	
		女子50歳以上複	優勝	松村　和美	三井　房子
		混合50歳以上複	優勝	村田　克己	俵山　美子
平成13年度	第2回	男子40歳以上単	優勝	高橋　良明	
		男子50歳以上複	優勝	中村　拓男	吉田　正弘
		女子30歳以上単	優勝	松尾　真澄	
		女子40歳以上複	優勝	松村　峰子	松尾　真澄
		混合50歳以上複	優勝	蔵田　康美	嶋田　文江
平成14年度	第3回	男子40歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子50歳以上複	優勝	中村　拓男	吉田　正弘
		女子50歳以上複	優勝	松村　和美	三井　房子
		混合50歳以上複	優勝	田中　博美	河村美千子
平成15年度	第4回	男子40歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子50歳以上単	優勝	西村　和孝	
		男子50歳以上複	優勝	松本　研一	井上　芳雄
		女子30歳以上単	優勝	村田　浩子	
		女子50歳以上複	優勝	松村　和美	平野　京子
		混合50歳以上複	優勝	蔵田　康美	嶋田　文江
平成16年度	第5回	男子40歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子50歳以上単	優勝	西村　和孝	
		女子50歳以上複	優勝	松村　和美	平野　京子
平成17年度	第6回	男子50歳以上単	優勝	西村　和孝	
		男子50歳以上複	優勝	福永　正一	福田　光博
		女子40歳以上単	優勝	中野　光子	

平成18年度	第7回	男子40歳以上単	優勝	沖　貞雄	
		男子50歳以上単	優勝	福田　光博	
		男子50歳以上複	優勝	畠中　弘司	古賀　信之
		女子40歳以上単	優勝	中野　光子	
		女子40歳以上複	優勝	松村　峰子	松尾　真澄
		混合50歳以上複	優勝	田村　敦	山本　睦子
平成19年度	第8回	男子30歳以上複	優勝	秋元　直幸	中山　整
		男子40歳以上単	優勝	沖　貞雄	
		男子40歳以上複	優勝	沖　貞雄	高橋　和也
		男子50歳以上複	優勝	原田　栄一	中本　義樹
		男子60歳以上単	優勝	三井　裕	
		男子60歳以上複	優勝	吉田　正弘	田中　博美
		女子40歳以上複	優勝	松村　峰子	松尾　真澄
		女子60歳以上複	優勝	石井　伸子	香井　晴江
		混合50歳以上複	優勝	福田　光博	本川　典子
		混合60歳以上複	優勝	田中　博美	香井　晴江
平成20年度	第9回	男子40歳以上単	優勝	沖　貞雄	
		男子60歳以上単	優勝	三井　裕	
		男子60歳以上複	優勝	吉田　正弘	田中　博美
		混合60歳以上複	優勝	吉田　正弘	石井　伸子
平成21年度	第10回	男子30歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子60歳以上複	優勝	吉田　正弘	田中　博美
		混合60歳以上複	優勝	吉田　正弘	石井　伸子
平成22年度	第11回	男子30歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子60歳以上単	優勝	嘉屋　正志	
		女子60歳以上複	優勝	三井　房子	星野　洋子
		混合60歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成23年度	第12回	男子30歳以上単	優勝	渡邊　和人	
		男子30歳以上複	優勝	中山　整	吉川　応史
		男子60歳以上単	優勝	嘉屋　正志	
		男子60歳以上複	優勝	吉田　正弘	田中　博美
		女子50歳以上複	優勝	内山ひとみ	宮内　敬子
		女子60歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合50歳以上複	優勝	田村　敦	松尾　真澄
		混合60歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成24年度	第13回	男子30歳以上単	優勝	渡邊　和人	
		男子30歳以上複	優勝	渡邉　和人	柏原　秀光
		男子60歳以上単	優勝	嘉屋　正志	
		女子60歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合60歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成25年度	第14回	男子30歳以上単	優勝	渡邊　和人	
		男子40歳以上単	優勝	藤田　真司	秋元　直幸
		男子50歳以上複	優勝	中司　正樹	堀　泰明
		男子60歳以上単	優勝	西村　和孝	
		男子60歳以上複	優勝	西村　和孝	村田　泰男
		女子60歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合60歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成26年度	第15回	男子50歳以上複	優勝	中司　正樹	堀　泰明
		男子60歳以上単	優勝	西村　和孝	
		女子50歳以上複	優勝	野村　房子	村上由美子
		女子60歳以上複	優勝	河村美千子	石田真理子
		混合60歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子

平成27年度	第16回	男子40歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子50歳以上複	優勝	中司　正樹	堀　　泰明
		男子65歳以上複	優勝	廣子　隆司	嘉屋　正志
		女子65歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合65歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成28年度	第17回	男子40歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子60歳以上単	優勝	福田　光博	
		男子60歳以上複	優勝	原田　栄一	畠中　弘司
		男子65歳以上複	優勝	河野　　茂	松本　研一
		女子65歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合60歳以上複	優勝	原田　栄一	吉永　節子
		混合65歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成29年度	第18回	男子30歳以上複	優勝	原田　栄一	畠中　弘司
		男子40歳以上単	優勝	松本　克芳	
		男子40歳以上複	優勝	河野　　茂	松本　研一
		女子65歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合65歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
平成30年度	第19回	男子40歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子40歳以上単	優勝	西村　和孝	
		男子40歳以上複	優勝	西村　和孝	村田　泰男
		女子60歳以上複	優勝	岸村　明美	本川　典子
		女子65歳以上複	優勝	石井　伸子	立石千代子
		混合65歳以上複	優勝	松本　研一	立石千代子
令和元年度	第20回	男子40歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子40歳以上複	優勝	兼行幸三郎	戸村　　進
		男子50歳以上複	優勝	田中　博美	嘉屋　正志
		女子40歳以上単	優勝	田代　妙子	
		混合70歳以上複	優勝	嘉屋　正志	石井　伸子
令和3年度	第22回	男子40歳以上単	優勝	吉川　応史	
		男子30歳以上複	優勝	藤田　　進	河村　則彦
		男子40歳以上複	優勝	畠中　弘司	原田　英一
		男子50歳以上複	優勝	田中　博美	嘉屋　正志
		女子40歳以上単	優勝	竹谷　経子	
		女子50歳以上複	優勝	岩本　洋子	澄田　明美
		女子70歳以上複	優勝	中村　光子	山中美知子
		混合60歳以上複	優勝	神杉　勝正	中川　みち
		混合65歳以上複	優勝	原田　栄一	松村美千代
令和4年度	第23回	男子40歳以上複	優勝	森永　敬宣	渡邊　和人
		男子65歳以上複	優勝	畠中　弘司	原田　栄一
		男子70歳以上単	優勝	松本　克芳	
		混合60歳以上複	優勝	小田　和範	川本ゆきみ
		混合65歳以上複	優勝	原田　栄一	松村美千代
令和5年度	第24回	男子40歳以上複	優勝	吉川　応史	小田　達也
		男子60歳以上複	優勝	小田　和範	堀　　泰明
		男子70歳以上単	優勝	西村　和孝	
		男子70歳以上複	優勝	西村　和孝	村田　泰男
		女子30歳以上複	優勝	田中琴裕幸	河村　美咲
		女子50歳以上複	優勝	澄田　明美	井内　京子
		女子60歳以上複	優勝	米田真佐子	村上由美子
		混合65歳以上複	優勝	原田　栄一	松村美千代

令和6年度	第25回	男子40歳以上複	優勝	吉川　応史	小田　達也
		男子60歳以上複	優勝	小田　和範	堀　　泰明
		男子70歳以上単	優勝	西村　和孝	
		男子70歳以上複	優勝	西村　和孝	村田　泰男
		女子30歳以上複	優勝	青見　愛梨	佐野　新菜
		女子50歳以上単	優勝	山田　律子	
		女子50歳以上複	優勝	中村　　忍	立石　美和
		女子60歳以上複	優勝	米田真佐子	村上由美子
		女子70歳以上複	優勝	岸村　明美	渡邉　順子
		混合40歳以上複	優勝	森永　敬宣	長廣貴美子
		混合60歳以上複	優勝	堀　　泰明	田坂加代子
		混合65歳以上複	優勝	原田　栄一	本川　典子
		混合70歳以上複	優勝	兼行幸三郎	石井　伸子

第37回（平成6年）大会までは、中国社会人選手権大会として実施
その後、第42回（平成11年）大会までは、中国地区総合選手権大会として実施

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）1

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
昭和	田中 萬亀太 （山 口）					
	植田 博宣 （下 関）					
51		河添 忠夫 （宇 部）		田中 萬亀太 （山口市体協）		
52		末廣 秀樹 （宇 部）				
53				植田 博宣 （下関市体協）		
54			渡辺　忠 （新南陽）	岡崎 光弘 （下 関）	川岡　智 河野 耕司 （岩 国）	
55			岡崎 光弘 （下 関）	渡辺　忠 （新南陽）		
56				松村 哲幸 （宇 部）		
57			松村 哲幸 （宇 部）			
60					杉原 哲彦 （下 関）	
62		坂本 賢二 （宇 部）				
63					杉原 哲彦 （下 関） 三井　裕 （山 口）	
平成4				椎山 昭二 （下松市体協）	宇部高専 （宇 部） 杉原 哲彦 （下 関）	
5				津守 幸介 （山 口）	宇部高専 （宇 部） 杉原 哲彦 （下 関）	
6				蔵成 秋次 （山 口） 渡辺 省吾 （光市体協） 大野 倍弘 （下関市体協）	矢野　潤 （下 関）	
7				尾上　忠 （山 口）	杉原 哲彦 （下 関）	
8			尾上　忠 蔵成 秋次 （山 口）	渡辺 恒輔 （下 関）		

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）2

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
平成9	津守 幸介（山口）		岸野 保則〔下関〕		松村 和美（防府）	
10			末廣 秀樹（宇部）			
11			嘉村 悦男（防府）	末廣 秀樹（宇部） 古賀 孝博（玖珂郡体協）		
12			松村 和美（防府）	岸野 保則（下関）	松尾 真澄（光）	
13			石崎 幸亮（下関）	田村 弘實（徳山）		
14			山縣 保夫（宇部）	長野 嘉久（防府）	松尾 真澄（光）	
15					松尾 真澄（光） 松村 和美（防府）	
16			古賀 孝博（玖珂）			津守 幸介（山口）
17				河野 敬三（宇部市体協） 神村 重男（萩市体協）	松尾 真澄（光） 松村 和美（防府）	
18			田村 弘實（周南）	大段 宏（下松市体協）		
19					福田 光博（山陽小野田）	
20					河村 美咲 古城 朋子（徳山高専） 沖堀 桐子（大島商船）	
21				福田 修三（周南市体協）	柳澤 秀明（徳山高専教官） 河村 美咲 古城 朋子（徳山高専）	
22	津守 幸介（山口） 叙勲（瑞宝双光章）			東 悦穂（周南市体協）	瀬島 史也 藤山 貴幸 河村 美咲 古城 朋子（徳山高専）	
23				中村 迪子（萩市体協）	古賀 崇了 岡本 隆明 黒田 浩晟（徳山高専）	

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）3

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
平成23				国体栄誉賞 大東 真也 （宇部総合支援学校） 松尾 光平 山平 直輝 米元 優樹 （宇部興産）	森本 貴純 中村 準一 藤山 貴幸 水野 直也 瀬島 史也 山下 慶将 古城 朋子 河村 美咲 （徳山高専）	
24	三井　裕 （山　口）			松村 和美 （防　府）	古賀 崇了 藤山 貴幸 中村 準一 水野 直也 瀬島 史也 山下 慶将 家重 直也 長尾 恭太 逑金 志遠 古城 朋子 河村 美咲 （徳山高専）	
25				国体栄誉賞 原本 俊也 （下関西高） 山平　直輝 松尾 光平 米元 優樹 （宇部興産） 棟居 秀行 （ムネスエスポーツ） 安念 幸恵 北吉 穂香 西　友理 （西京銀行） 松原 康則 （徳山高） 桐田 和樹 古川 優太 岩永　廉 （柳井商工高）	瀬島 史也 山下 慶将 中道　由菜 河口　みのり （徳山高専） 西村　唯 （宇部高専）	

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）4

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
平成26				国体栄誉賞 松原 康則 （徳山高） 桐田 和樹 岩永 廉 田中 開登 （柳井商工高）	福田 光博 （山陽小野田） 笠置 映寛 武居 弘樹 穐本 裕太 神本 直人 河口 大輔 清水 大 長尾 恭太 速金 志遠 山下 慶将 （徳山高専） 宮久 りさ子 西村 唯 （宇部高専）	
27		松尾光平 （宇部） 山平直輝 （宇部）		国体栄誉賞 山平 直輝 （宇部興産） 松尾 光平 米元 優樹 （宇部興産） 桐田 和樹 （法政大学） 国体栄誉賞 松原 康則 （徳山高） 上阪 時歩 岩永 廉 田中 開登 （柳井商工高） 国体栄誉賞 竹光 唯至 （柳井商工高） 永田 瑞稀 岩永 鈴 水津 優衣 （柳井商工高）	石井 伸子 （熊毛）	松村 和美 （防府市協会）
28					石井 伸子 （熊毛） 福田 光博 （山陽小野田） 米元 陽花 今井 優歩 齋藤 栞 （ACT SAIKYO）	

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）5

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
平成29				国体栄誉賞 棟居　秀行 （ムネスエスポーツ） 米元　陽花 今井　優歩 齋藤　栞 （ACT　SAIKYO） 竹光　唯至 淺井　和奏 柳井　咲耶 宮内　公佳 （柳井商工高）	三奈木　正紀 （下松市） 村田　泰巳 （田布施町） 齋藤　栞 （ACT　SAIKYO） 水津　優衣 岩永　鈴 （柳井商工高） 石井　伸子 （熊毛）	
30				国体栄誉賞 竹光　唯至 淺井　和奏 金廣　美希 鈴木沙也夏 （柳井商工高）	石井　伸子 （熊毛） 福田　光博 （山陽小野田） 斉藤　栞 （ACT　SAIKYO） 明地　陽菜 （柳井中学校） 金廣　真季 （柳井中学校） 加藤　美幸 柏原　みき （ACT　SAIKYO）	
令和元年				松村　美千代 （熊毛） 国体栄誉賞 竹光　唯至 金廣　美希 長廻　真知 水津　愛美 （柳井商工高）	斎藤　夏 川島　美南 加藤　美幸 柏原　みき （ACT　SAIKYO） 福田　光博 （山陽小野田） 松本　克芳 （山口） 明地　陽菜 （柳井中学校） 石井　伸子 （熊毛） 三井房子 （山口）	
2					水津　愛美 （柳井商工高）	

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）6

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
令和3					竹光　唯至 水津　愛美 永田　萌恵 明地　陽菜 金廣　真希 新見　桃芭 日野石　杏 相本　珠杏 田口　真彩 （柳井商工高） 宮崎　友花 （柳井中学校） 齋藤　夏 （ACT　SAIKYO） 石井　伸子 （熊毛） 及川　歩 伊藤　茉耶 （徳山高専）	
4			三井　房子 （山口） 久次　優 （下松） 利行　好男 （下松）	国体栄誉賞 竹光　唯至 明地　陽菜 田口　真彩 宮崎　友花 （柳井商工高）	竹光　唯至 明地　陽菜 相本　珠杏 金廣　真希 田口　真彩 新見　桃芭 日野石　杏 吾妻　佳奈 宮崎　友花 （柳井商工高） 福永　正一 （山陽小野田） 松本　克芳 （山口） 伊藤　茉耶 及川　歩 （徳山高専） 阿波　芽衣咲 （柳井中学校） 石井　伸子 （熊毛） 河村　美咲 田中　琴裕幸 （下松）	

被表彰者名簿（日本バドミントン協会、山口県体育協会、山口県教育庁）7

山口県バドミントン協会

年度	日本バドミントン協会			山口県体育協会・山口県教育庁		
	功労賞	国体10回以上	顕讃賞	体育功労賞	メダル栄光	教育功労者
令和5				国体栄誉賞 竹光　唯至 （柳井市教委） 田口　真彩 宮崎　友花 砂川　温香 （柳井商工高） 国体栄誉賞 棟居　秀幸 （ムネスエスポーツ） 齋藤　　栞 久湊　菜々 重田　美空 （ACT SAIKYO）	竹光　唯至 田口　真彩 吾妻　佳奈 佐藤加奈子 宮崎　友花 砂川　温香 長廻　優茉 中西　香菜 白川　菜結 （柳井商工高） 柳澤　秀明 清水　千聖 伊藤　茉耶 及川　歩 今岡　咲絵 中野　遥菜 田中　玲奈 飯田ひかり （徳山高専） 阿波　芽衣咲 （柳井中学校） 石井　伸子 （熊毛）	
6	林　　芳正 （下関）			国体栄誉賞 棟居　秀幸 （ムネスエスポーツ） 砂川　温香 中原　心優 松本　紗季 （柳井商工高） 国体栄誉賞 小宮山　元 水津　優衣 水津　愛美 齋藤　　栞 （ACT SAIKYO）	竹光　唯至 宮崎　友花 砂川　温香 長廻　優茉 中西　香菜 西田　　優 白川　菜結 突沖　花歩 大津妃奈乃 中原　心優 松本　紗季 （柳井商工高） 福田　光博 （山陽小野田） 松本　克芳 （山口） 樫尾　雫玖 沖本　愛音 （柳井中学校） 荒川　幸恵 （山陽小野田） 石井　伸子 （熊毛） 河村　美咲 田中琴裕幸 （下松）	

被表彰者名簿（山口県バドミントン協会長表彰）１

山口県バドミントン協会

年度	功　労　者	優　秀　選　手
昭和 48	渡辺　忠（新南陽）　松村 哲幸（宇部） 植田 博宣（下関）　市川 八五（下関）	
49	田中 萬亀太（山口）　津守 幸介（下関） 大野 倍弘（下関）	河添 忠夫（宇部）
50	岡崎 光弘（下関）	末廣 秀樹（宇部）　西村 和美（下関） 丸山 富江（下関）　永田 美登里（下関）
51		
52	渡辺 恒輔（下関） 浅谷 寿々也（下関）	宮岡 康臣（岩国）　林　厚志（岩国） 水津 信彦（山口大学）　喜良 明文（柳井工業高校） （団）柳井工業高校　（団）家庭婦人県代表
53	宮崎 伊三郎（下関）　山縣 保夫（宇部） 尾上　忠（山口）　川岡　智（岩国）	
54	蔵成 秋次（山口）	河野 耕司（岩国）　川岡　智（岩国）
55	松永 正敏（山口）	沖　貞雄（須々万中学校）　高橋 和也（須々万中学校） 松原 康則（須々万中学校）
56	新宅 正和（下関）	坂本 賢二（宇部）
57	吉川 慶一（光）　鳥居 和彦（山口）	木山 茂雄（玖珂）　田中 伸幸（須々万中学校） 広谷　勲（須々万中学校）　河野 強志（須々万中学校）
58		山口 里枝（新南陽）　浜田 真澄（新南陽）
59	長野 嘉久（防府）	津守 真治（山口大学）　鳥居 慶子（山口大学） 金子 義信（川中中学校）
60	椎山 昭二（下松）	杉原 哲彦（下関）　重永 光弘（下関） 田原 暢也（山口大学）
61	佐藤 純一（徳山）	金子 義信（柳井工業高校）
62	植田 久昭（下関）　岸野 保則（下関）	古賀 信之（玖珂）　加藤 康弘（玖珂） 近藤 正俊（柳井工業高校）　田中 貴光（柳井工業高校） 内富　進（柳井工業高校） 秋元 直幸（須々万中学校）　山東　寿（須々万中学校）
63		三井　裕（山口） 柳　宏幸（柳井工業高校）　吉岡 哲夫（柳井工業高校）
平成 1	松井 孝一（萩）	木村 雄一（柳井工業高校）　遠藤 正徳（柳井工業高校） 睦田 健二（須々万中学校）　森広 浩二（須々万中学校） 村田 みつえ（串中学校）

被表彰者名簿（山口県バドミントン協会長表彰）２

山口県バドミントン協会

年度	功　労　者	優　秀　選　手
平成 ２		堀　悦子（山口） 棟居 秀行（柳井工業高校）　武内 敏寿（柳井工業高校） 波田　晃（垢田中学校）　金山　敬（垢田中学校）
３	大藤 之典（長門）	相本 浩一（柳井工業高校）　谷　克典（柳井工業高校） 永尾　忠（柳井工業高校）
４	古賀 孝博（玖珂）　水摩 勝美（下松）	松村 和美（防府）　三井 房子（山口） 中山　整（柳井工業高校）　柳　孝三（柳井工業高校） 増田 敏雄（末武中学校）
５	三原 一郎（下関）	米川 真司（下松中学校）　長嶺　宙（末武中学校） 石田 健太（末武中学校）
６	三浦 捷治（柳井）　田村 弘實（徳山）	矢野　潤（下関）　沖　貞雄（宇部） 古城 周子（徳山）　嶋田 文江（新南陽）
７		河野 強志（下関）　田内 正彦（徳山） 安田 耕司（宇部）　青木 伸也（東亜大学） 馬場 直樹（東亜大学）　横井 靖幸（東亜大学） 川田 弘美（鴻南中学校）　森永 裕美（鴻南中学校）
８		石井 伸子（熊毛）　香井 晴江（下松） 藤井 経久（山口高校） 三輪 誓子（大殿中学校）　大西 美香（大殿中学校）
９	渡辺 省吾（光）	藤田　進（防府）　河村 則彦（下松） 三好紗也香（山口中央高校）
１０	澤田 恭治（徳山）　田中 芳男（吉敷）	田上 尚寛（東亜大学）　霜村 栄一（東亜大学）
１１	松村 和美（防府）	永松 勇一郎（東亜大学）　木村 浩樹（東亜大学） 棟居 秀行（ムネスエスポーツ）　中村 拓男（三井化学） 吉田 正弘 （三井化学）
１２	石川 好夫（宇部）	増田 敏雄（ムネスエスポーツ）
１３	福田 修三（徳山）	村松 壮一（東亜大学）　瀬川 泰人（東亜大学） 吉岡 洋平（東亜大学）　渡辺 和人（東亜大学） 時原 修二（東亜大学）　重村　泉（東亜大学） 木平 奈緒（東亜大学）　小山　薫（東亜大学） 稲子田 朝美（東亜大学）
１４		長谷川 路紘（東亜大学）　岩本 匡史（東亜大学） 竹光 唯至（柳井工業高校）　多田 佳代（東亜大学） 三﨑　剛（下関中央工業高校）　山縣 圭太（下関中央工業高校）

被表彰者名簿（山口県バドミントン協会長表彰）３

山口県バドミントン協会

年度	功　労　者	優　秀　選　手
平成15	河野　敬三（宇部）	永井　大吉（東亜大学）　川上　大輔（東亜大学） 荒井　達哉（東亜大学）　大西　直樹（東亜大学） 松本　誠司（東亜大学）　今田　好美（東亜大学） 保井　麻里（東亜大学）　末長　夏樹（山口短期大学） 石渡　　啓（徳山高専）　中村　　俊（徳山高専） 中川　康子（宇部高専）　河野　亮輔（柳井工業高校） 山平　康太（柳井工業高校）　山平　直輝（柳井工業高校） 橋本　侑二（柳井工業高校）
16	吉田　節夫（周南）	米元　麻由美（大島商船）　赤瀬　美紗（大島商船） 貞安　美奈（大島商船）　沖堀　桐子（大島商船） 河村　美咲（中村小学校）
17	末岡　通典（岩国）	西村　和孝（二光自動車）
18	田中　博美（玖珂）　藤井　豊秋（山口）	
19		福田　光博（山陽小野田）
20		河村　美咲（徳山高専）　古城　朋子（徳山高専）
21	利行　好男（下松）　久次　　優（下松）	田村　　翼（柳井商工高校）　青見　　領（柳井商工高校） 田中　博美（玖珂）
22	古城　周子（周南）	藤本　亮太（柳井商工高校）　飛高健太郎（柳井商工高校）
23	大段　　宏（下松）　笹尾　克之（山陽小野田） 村井　資朗（光）　吉谷　　武（光） 河島　和良（周南）	藤山　貴幸（徳山高専）　松尾　光平（宇部興産） 瀬島　史也（徳山高専）　山平　直輝（宇部興産） 吉川　応史（日本製紙）　米元　優樹（宇部興産） 皆川　友依（西京銀行）
24	東　　悦穂（周南）　中村　洋一郎（岩国） 岡崎　君江（宇部）	山下　慶将（徳山高専）　森永理恵奈（柳井商工高校） 安念　幸恵（西京銀行）　福本　涼香（柳井商工高校） 小口　晃佳（西京銀行）　岩永　　廉（柳井中学校） 松本　研一（周南）　山下　貴史（柳井中学校） 立石　千代子（周南）　折中ナタク（柳井中学校） 嘉屋　正志（岩国）　西村　美希（柳井中学校） 吉中　　愛（柳井中学校）
25	嘉村　悦男（防府）　三井　　裕（山口） 末廣　秀樹（宇部）　内山　正也（周南）	中道　由菜（徳山高専）　河口　みのり（徳山高専） 西村　唯（宇部高専）　宮久　りさ子（宇部高専） 吉崎　志遠（柳井商工高校）　桐田　和樹（柳井商工高校） 辻　瑞貴（柳井商工高校）　矢上　璃奈（柳井商工高校）
26	松本　克芳（山口）　三井　房子（山口）	田村　翼（宇部興産）　河村　光将（宇部興産） 米元　陽花（ACT SAIKYO）　速金　志遠（徳山高専） 長友　壮志（柳井中学校）　折中　ミイユ（柳井中学校） 水津　優衣（柳井中学校）　岩永　鈴（柳井中学校） 金廣　美希（新庄小学校）

被表彰者名簿（山口県バドミントン協会長表彰）４

山口県バドミントン協会

年度	功　労　者	優　秀　選　手
平成27	水崎　敏明（光） 谷口　政治（光）	堀　泰明（萩）　今井　優歩（下松） 中司　正樹（山口） 岩永　廉（柳井）
28	三嶋　直義（周南）	齋藤　栞（ACT SAIKYO）　岩永　鈴（柳井商工高校） 水津　優衣（柳井商工高校）　金廣　美希（柳井中学校） 新見　桃芭（公集小学校）　及川　歩（花岡小学校）
29		折中　ミイユ（柳井商工高校）　白石　麗奈（柳井商工高校）
30		古城　晃（宇部興産）　鈴木　沙也夏（柳井商工高校） 金廣　真季（柳井中学校）　明地　陽菜（柳井中学校） 加藤　美幸（ACT SAIKYO）　柏原　みき（ACT SAIKYO）
令和元年	戸村　進（熊毛） 山根　康夫（熊毛） 松村美千代（熊毛）	齋藤　夏（ACT SAIKYO）　川島　美南（ACT SAIKYO） 重田　美空（ACT SAIKYO）　藤井　湧也（宇部物流サービス） 桐田　和樹（宇部興産）　金丸　純也（柳井商工高校） 棟居　諒（柳井商工高校）　長廻　真知（柳井商工高校） 松本みなみ（柳井商工高校）　水津　愛美（柳井商工高校） 金廣　美希（柳井商工高校）　本田　花笑（柳東小学校） 内山　蘭（下松小学校）　古田　紗也（東陽小学校）
2	中野　光子（長門）	
3	清水世津子（下関）	明地　陽菜（柳井商工高校） 田口　真彩（柳井商工高校） 宮崎　友花（柳井中学校）
4	山下　新一（柳井）　村田　泰己（熊毛）	芦塚貴一郎（UBE）　阿波芽衣咲（柳井中学校） 石井　雅将（UBE マシナリー）　立脇　悠羽（末武中学校） 福間　璃来（UBE）　末元　千陽（末武中学校） 兼子　結衣（新庄小学校）　宮崎　友花（柳井商工高校） 冨田　琴子（平生小学校）　佐藤加奈子（柳井商工高校） 松村　柑奈（佐波小学校）　吾妻　佳奈（柳井商工高校） 古田　夏美（東陽小学校）
5	石永　裕記（光）	原田　栄一（岩国）　砂川　温香（柳井商工高校） 松村美千代（熊毛）　西田　優（柳井商工高校） 杉山　稜太（宇部高専）　中西　香菜（柳井商工高校） 梯　拓翔（花岡小学校） 利行　瑛心（公集小学校）
6		藤原　侑大（宇部高専） 樫尾　雫玖（柳井中学校） 沖本　愛音（柳井中学校）

令和６年度　山口県バドミントン協会役員名簿

役職名	氏名
名誉会長	
会長	平岡　英雄
副会長	杉山　覚
参与	清水世津子
理事長	野村　義徳
副理事長 競技担当	沖　貞雄
〃 総務担当	松原　康則
〃 強化担当	棟居　秀行
〃 レディース担当	山中佐知子
〃 事務局長	田内　正彦
常務理事 総務部	山本　和義
〃 強化部	渡邊　和人
〃 競技部	髙橋　和也
〃 指導普及部	河本　泰
〃 審判部	田中　康行
〃 表彰部	杉原加寿子

理事 （岩国）	室井　伸夫
〃 （柳井）	山下　新一
〃 （熊毛）	松村　雄之
〃 （光）	石永　裕記
〃 （下松）	豊島　洋一
〃 （周南）	秋元　直幸
〃 （防府）	清水　隆行
〃 （山口）	倉重　太貴
〃 （宇部）	吉川　直樹
〃 （山陽小野田）	稲津　孝秋
〃 （下関）	西村　亮介
〃 （長門）	大石　清二
〃 （萩）	泉　隆義
監事	大段　宏
〃	河野　敬三
事務局次長	柏崎　達美
事務局	稲子田朝美

あとがき

山口県バドミントン協会では平成 10 年に「50 周年記念史 飛翔」を製作したが、それ以降の 25 年の歴史を綴るべく 75 周年記念誌編集委員会を立ち上げ、令和４年の５月に光市で第１回編集委員会を開催した。編集委員会のメンバーは現協会の常務理事や各連盟の理事の方々で構成し、50 周年記念史を製作されたメンバーの方々にも協力を要請した。この編集委員会で 75 周年記念誌の作成方針や目次案などを共有し、令和７年７月の刊行を目標に作業を進めていくことが確認された。その後寄稿者への原稿依頼、原稿回収、校正作業等を進めていったが、寄稿を依頼した市郡協会や各連盟また個人の方々には、ご多用の中ご協力いただき、心より感謝を申し上げたい。

編集委員会で作業を重ねながら最も強く感じたことは記録を残していくことの難しさと重要性である。平成 10 年刊行の「50 周年記念史 飛翔」からその後の 25 年間の記録については、一部、資料の消失などにより記載できなかったものもある。当時から、きちんと記録として残し、まとめるといった意識があれば良かったのだが、今となってはどうすることもできず心残りである。今思えば「50 周年記念史 飛翔」をまとめられた故・藏成氏をはじめ、当時の関係者のご苦労に頭が下がる。

そしてもう一つは、何と多くの方々のご尽力によりこの協会の活動が維持されてきたかということである。小郡の地で協会設立に携わられた５人の方から始まったリレーは、その後１巡目の山口国体で中枢を下関に移し、そして２巡目の山口国体を契機に周南、山口へとバトンが繋がれていった。その間、様々な場面で協会の活動に携われてきたすべての方々のご尽力により今の繁栄があるということを改めて感じている。今日では山口県内各地でバドミントンの大会が開催され、レジャー志向の人も競技志向の人もそれぞれが目的に応じてバドミントンを楽しむことができる環境になった。協会の使命である「普及」と「強化」を支えていただいているすべての方々に感謝の意を表したい。このバトンを次世代へと繋いでいくために協会一丸となって職務を遂行していくことはもちろんのこと、関係者の皆様にはこれまで同様のご協力をお願いするところである。そして、この先の 100 周年記念に向けて、協会の活動が県内のバドミントンに携わるすべての方々を幸福に導いていくことができるよう祈念して筆を置きたい。

令和７年７月吉日

編集委員長　松原　康則

編集委員（敬省略）

委員長	松原　康則				
委　員	野村　義徳	杉山　覚	沖　貞雄	田内　正彦	棟居　秀行
	山中佐知子	河本　泰	髙橋　和也	田中　康行	杉原加寿子
	山下　新一	中野未千尋	吉川　直樹	三井　裕	末廣　秀樹
	久次　優	松本　克芳	稲子田朝美		

山口県バドミントン協会75周年記念誌

編　　集　75周年記念誌編集委員会
発　　行　山口県バドミントン協会
発 行 日　令和７年６月末日
印刷・製本　富田印刷株式会社

